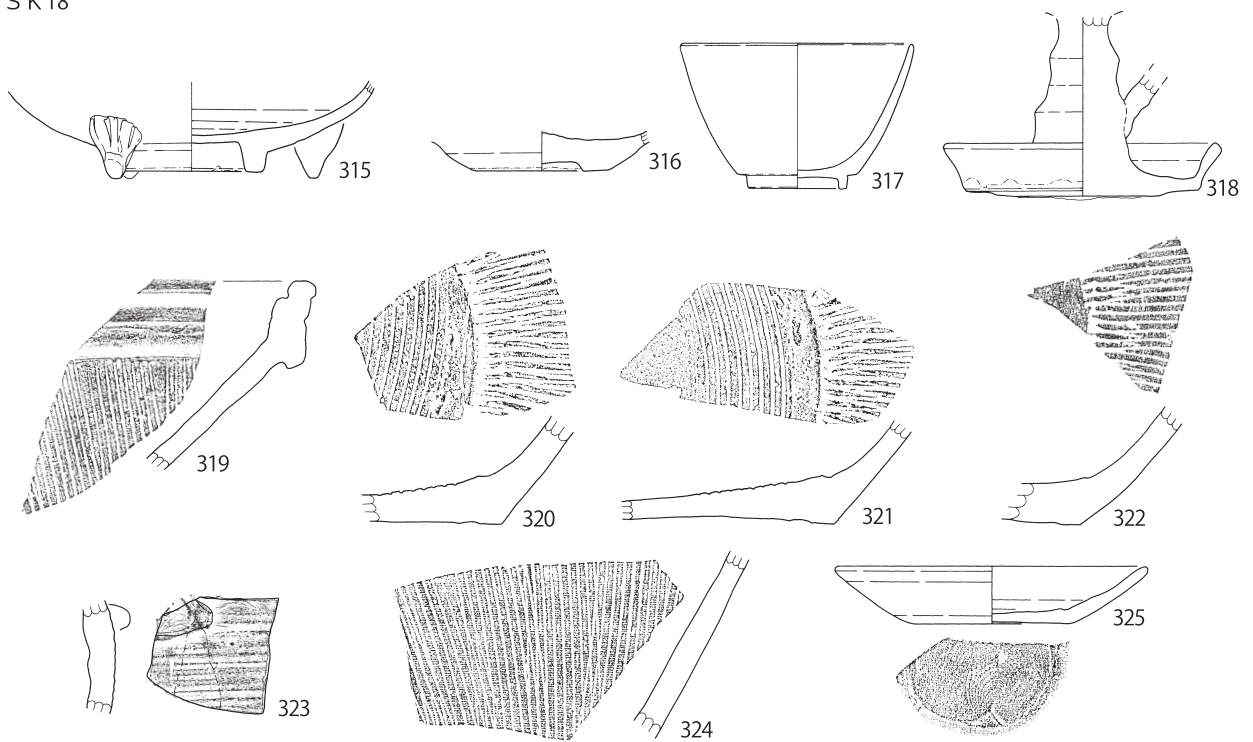
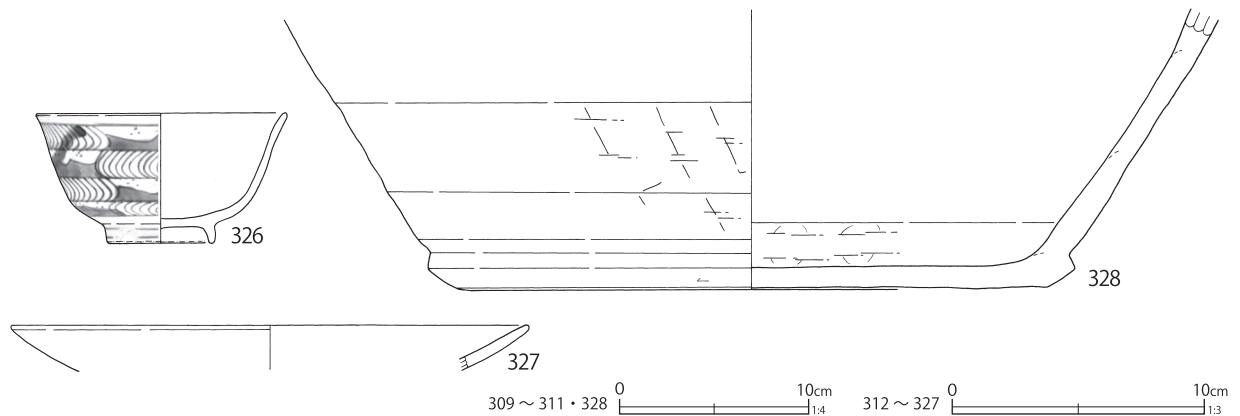


SK18



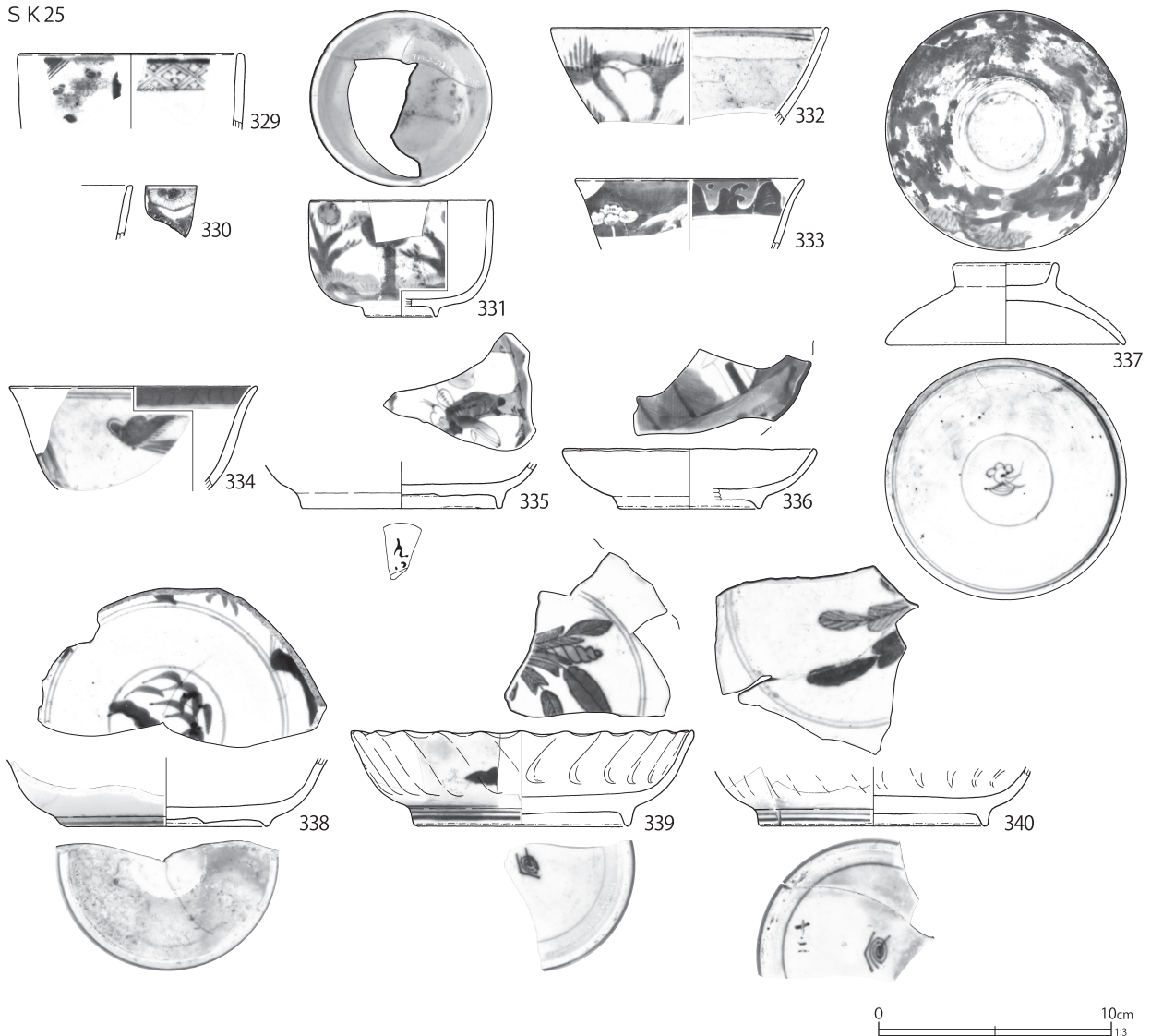
SK23



0 10cm 1.4 0 10cm 1.3

第143図 土壙出土遺物(20)

S K 25



第144図 土壙出土遺物(21)

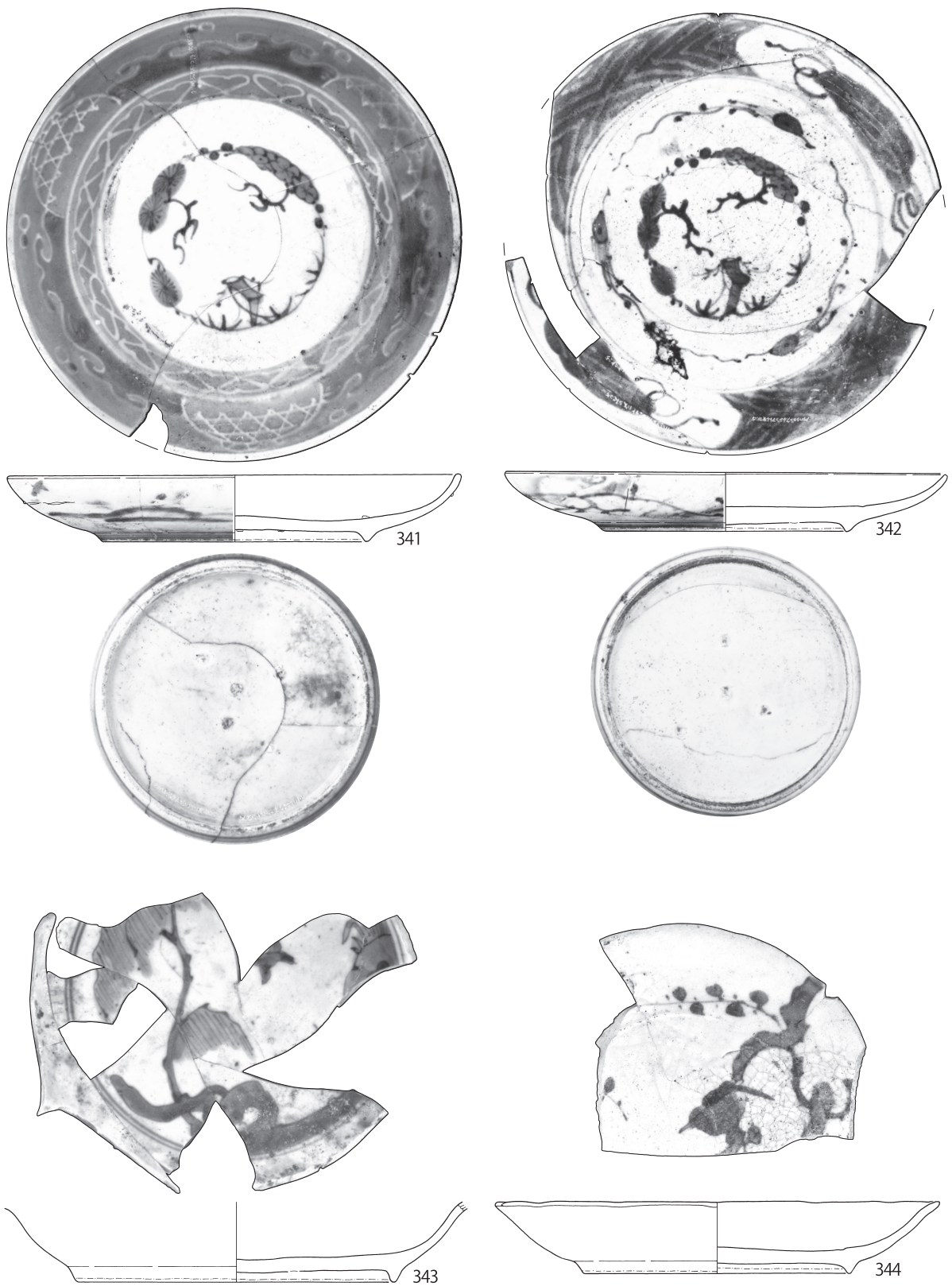
6枚・文久永宝1枚・雁首銭1枚が含まれる。銭種の構成等については第81表に示す。第270図13は材質不詳の櫛で、赤・黒で模様を描かれる。骨角製品であろうか。陶磁器(第148図395~405)は、磁器湯呑形碗(396)が多い。酸化コバルト染付製品が見られないことや文久永宝の出土から、1860~1870年代頃の廃絶と推定される。

第30号土壙(第99図)

C6-B1・2グリッドに所在し、重複する第1号建物跡より新しい。東西に長大な火災処理土壙である。覆土下層は焼土主体の層で多くの瓦や陶磁器、木材が混在する。上層は均質な土で被覆

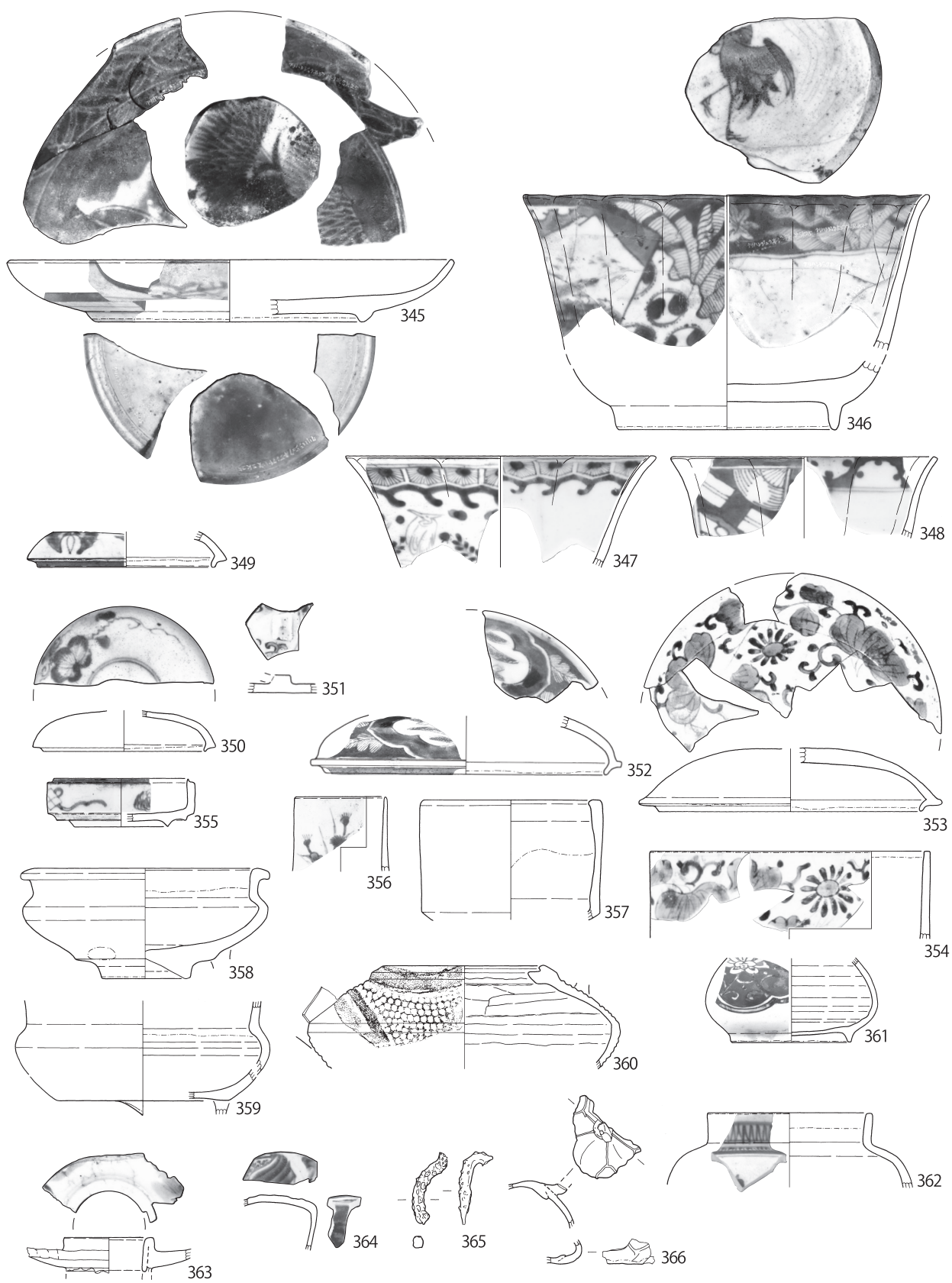
するように埋め戻される。

第149~156図406~470は陶磁器で、強く被熱する。特に419~423の小皿は重なった状態で溶着している。425・426は中国清朝磁器とみられる皿で、外面は橙色に発色する上絵付、内面は紺色の単色釉に金彩で精緻な上絵付を施す。裏銘は「大明乾隆年製」である。425の高台に瑠璃釉の付着がみられ、426の見込みの環状剥離痕と径が一致することから、両者が重ねられた状態で被熱したことが分かる。427~435・437~446の皿も溶着した状態であったと思われる。前者は径19cm程の皿9枚で、第2号土壙(第126図35)に

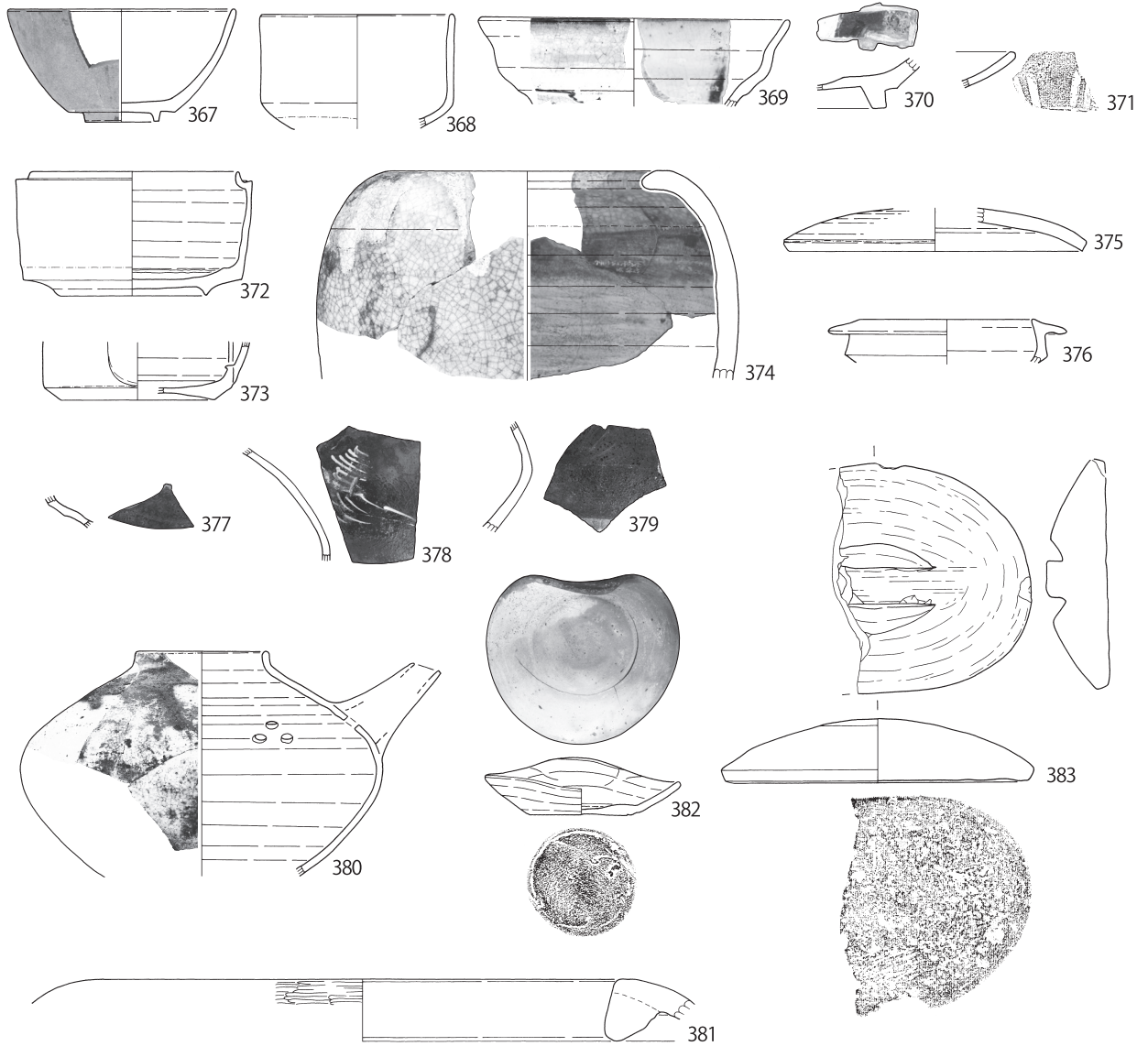


0 10cm
1:3

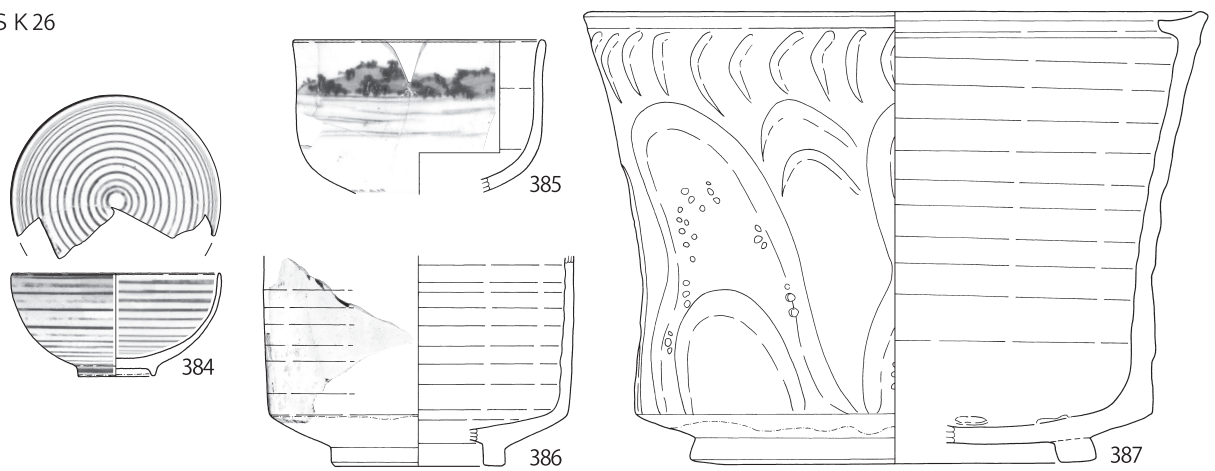
第 145 図 土壙出土遺物 (22)



第 146 図 土壙出土遺物 (23)



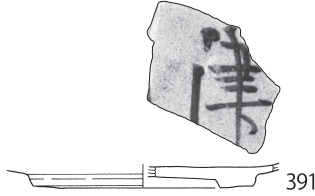
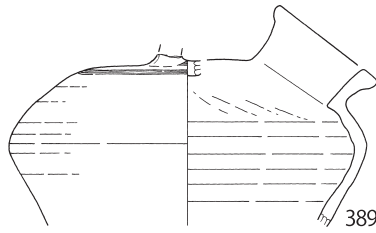
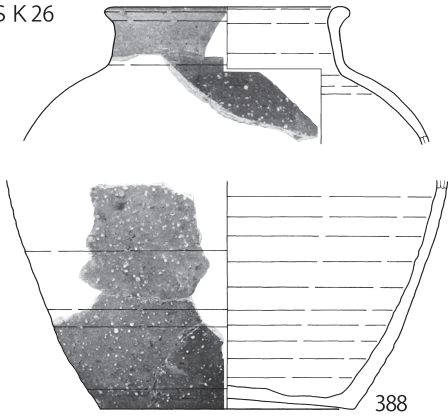
SK26



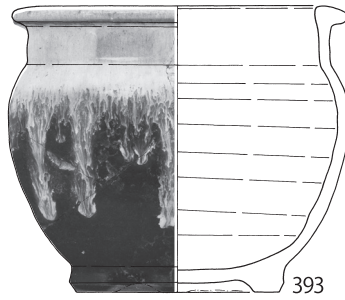
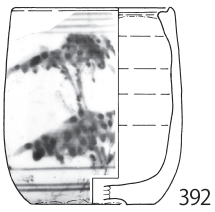
374 · 381 · 387 0 10cm 1/4 367 ~ 373 · 375 ~ 380 · 382 ~ 386 0 10cm 1/3

第 147 图 土壤出土遺物 (24)

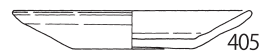
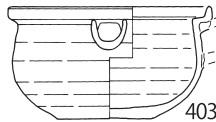
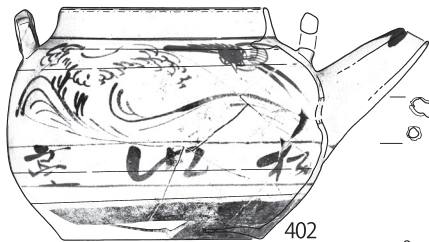
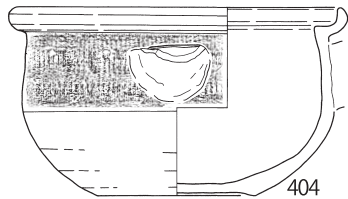
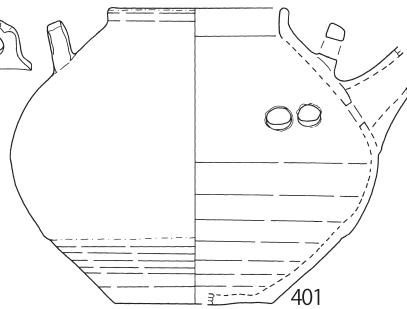
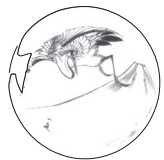
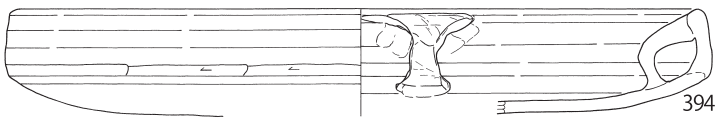
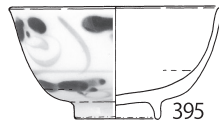
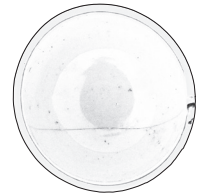
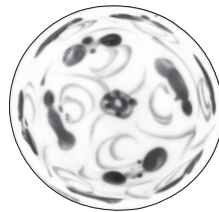
S K 26



S K 27



S K 29

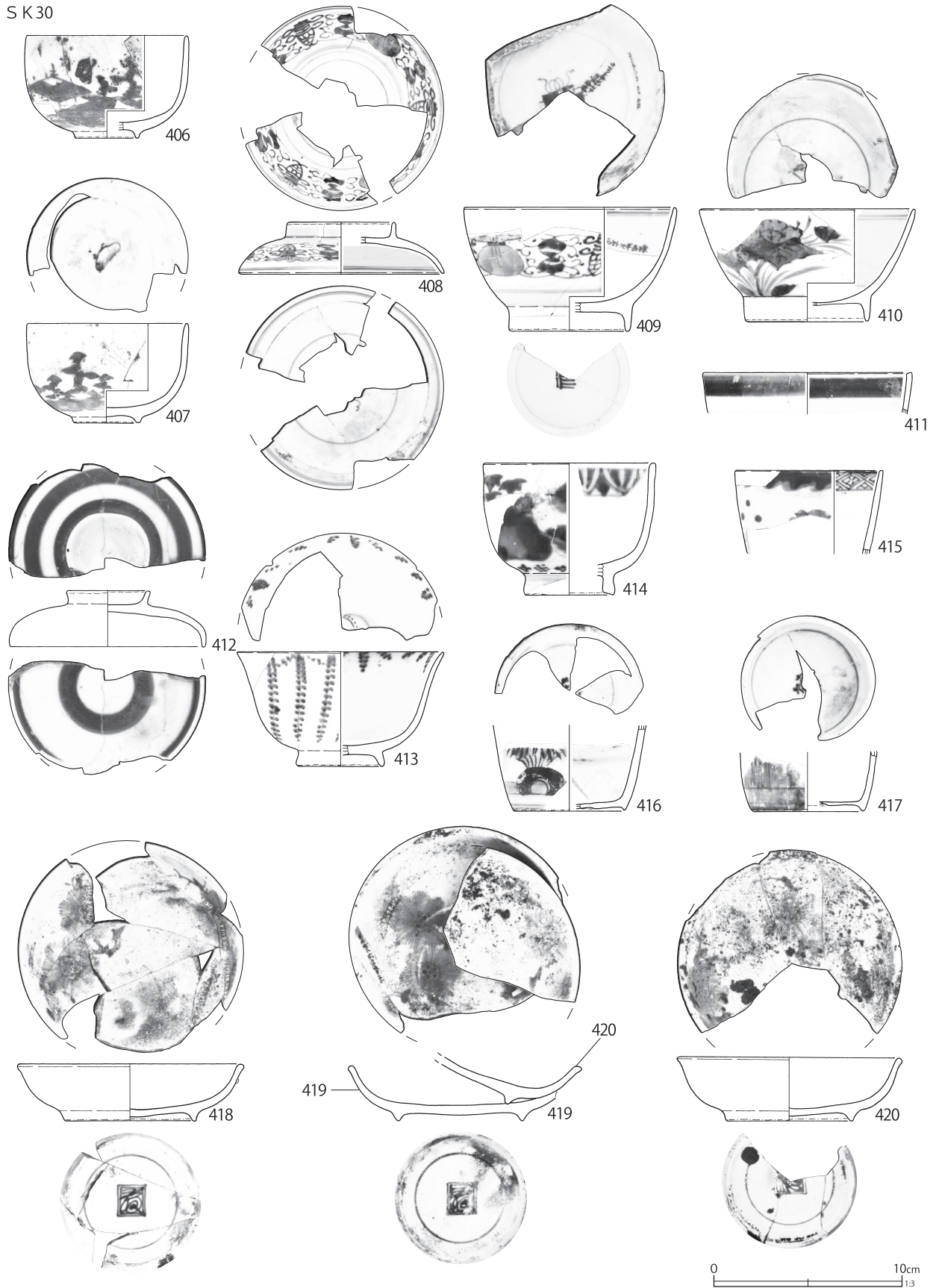


0 10cm 1:4 389 · 394

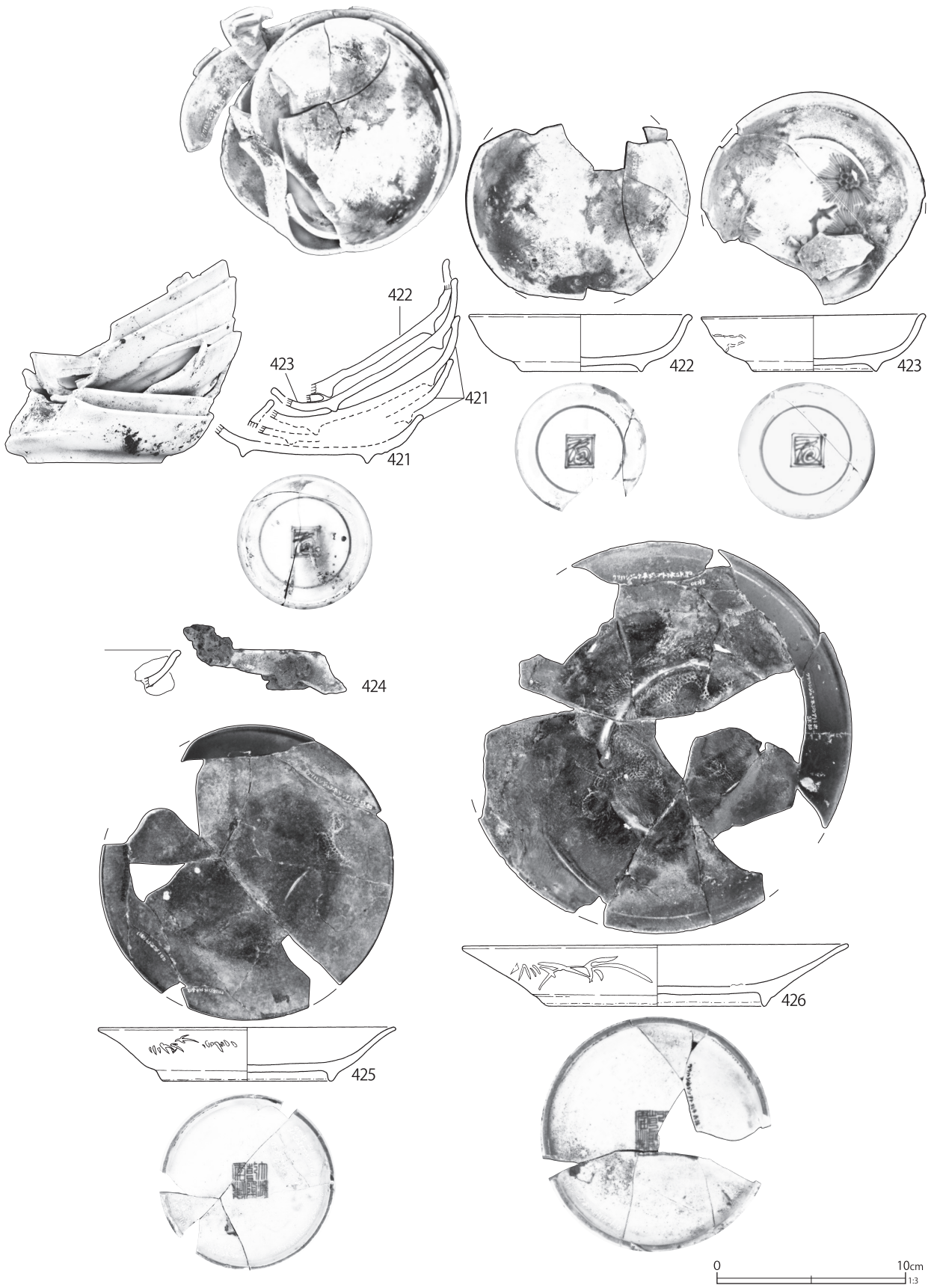
0 10cm 1:3 388 · 390 ~ 393 · 395 ~ 405

第 148 図 土壙出土遺物 (25)

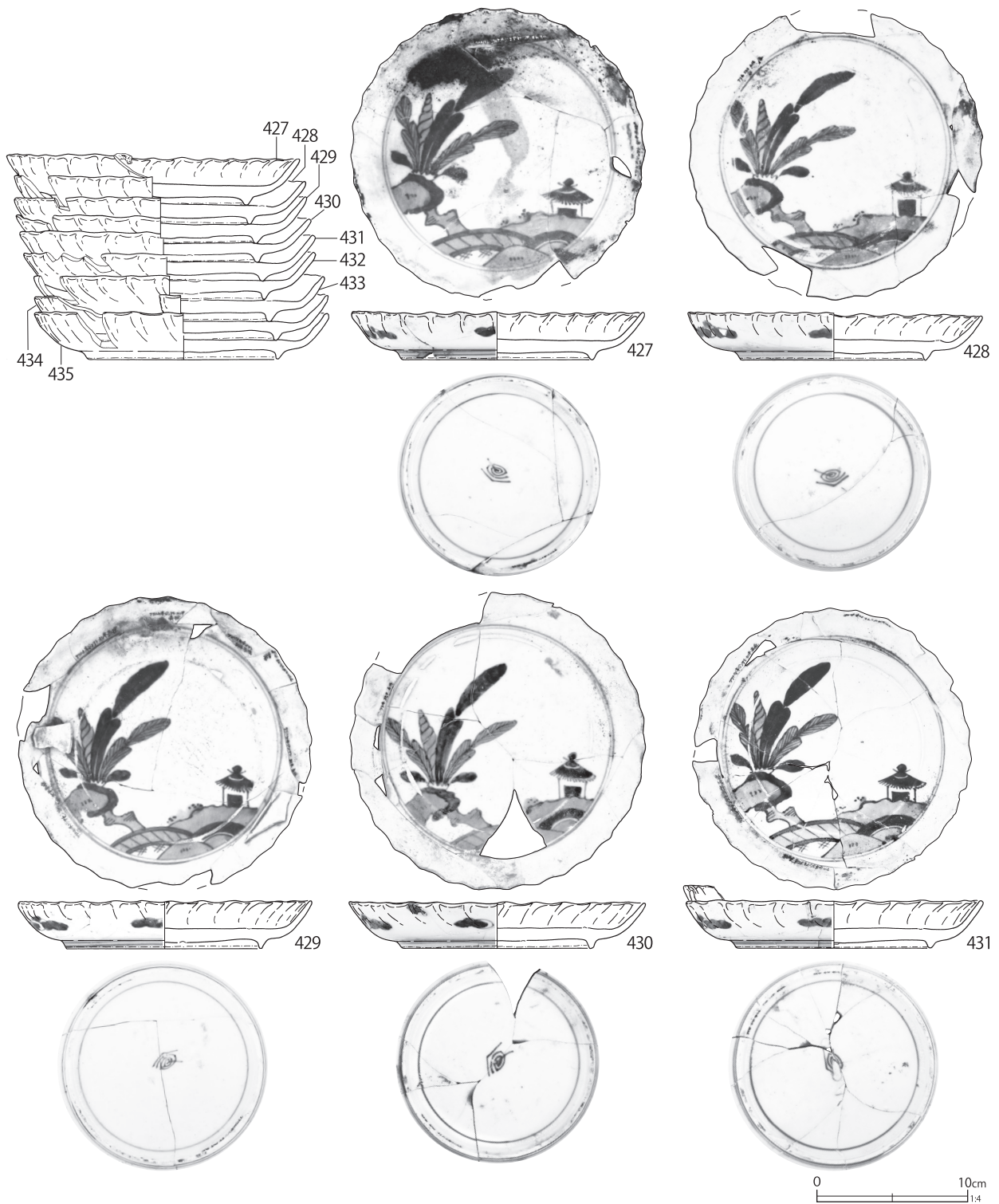
S K 30



第 149 図 土壙出土遺物 (26)



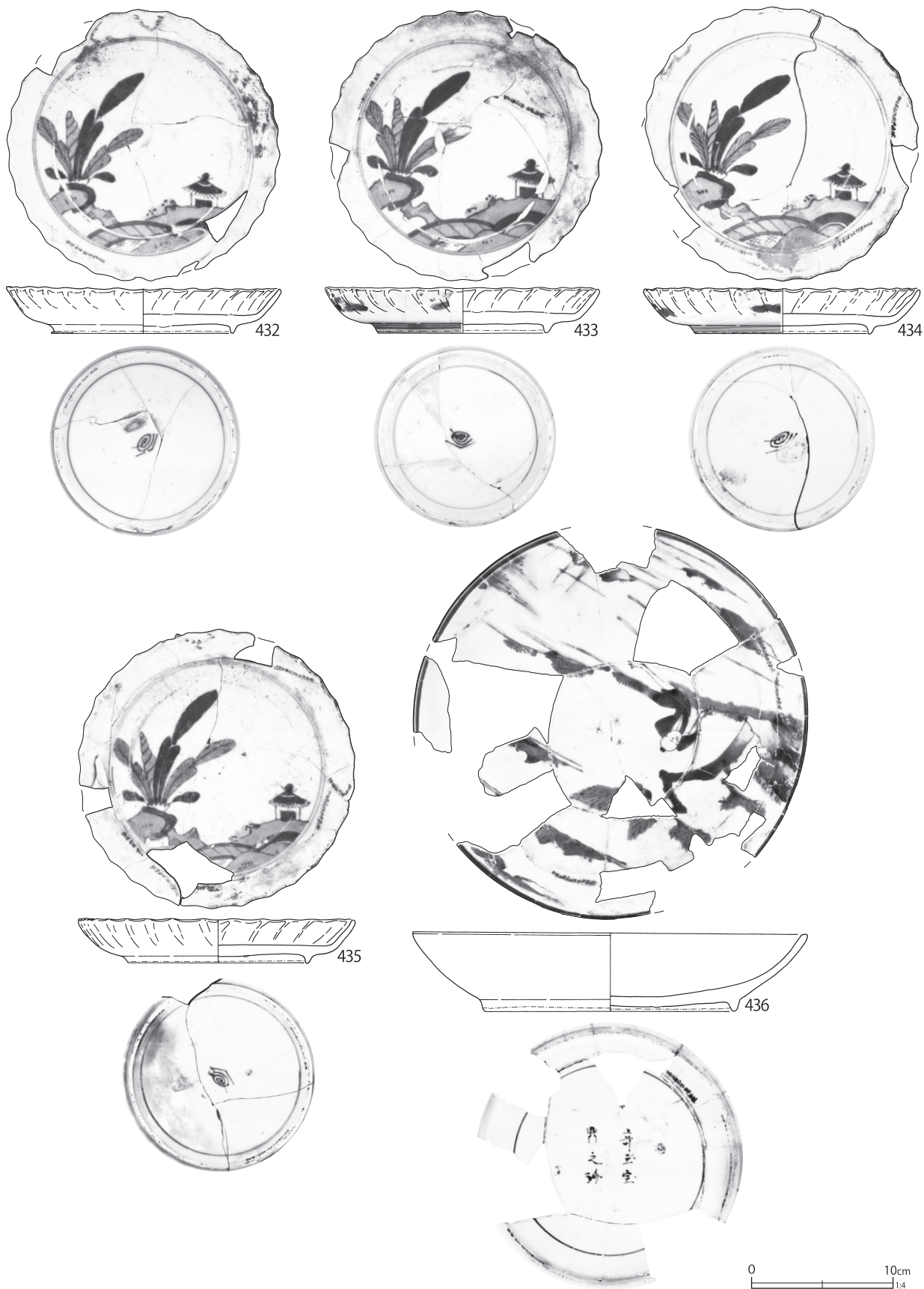
第 150 図 土壙出土遺物 (27)



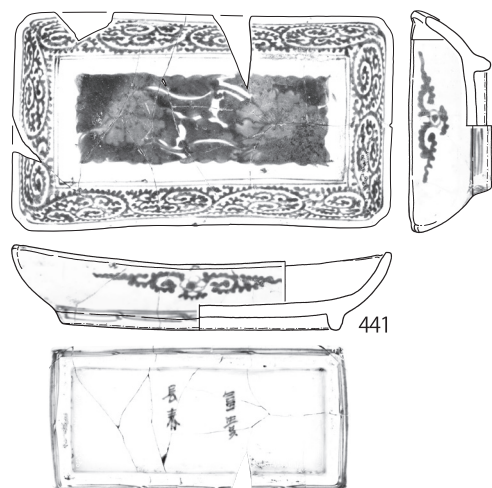
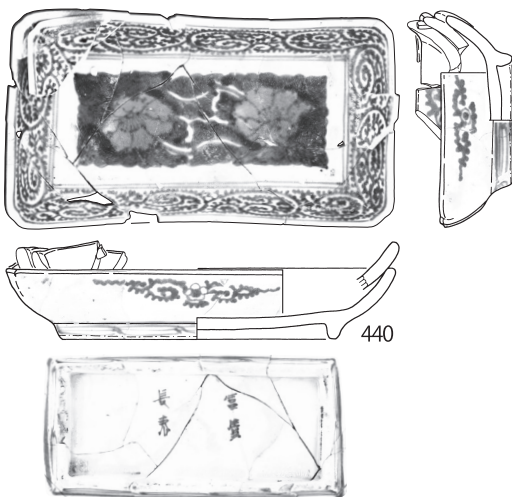
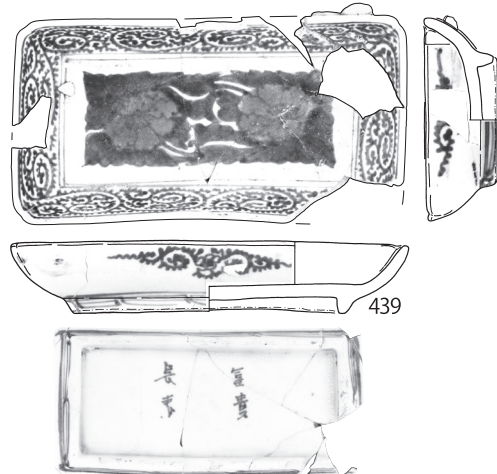
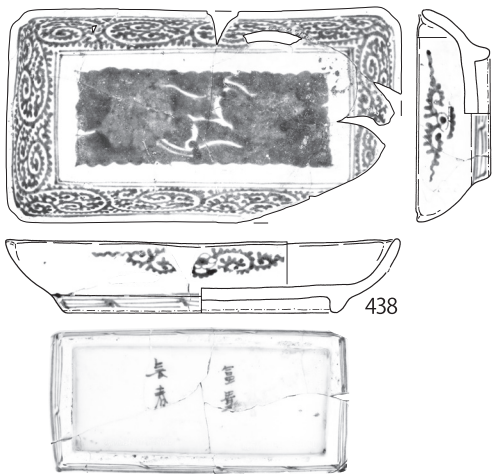
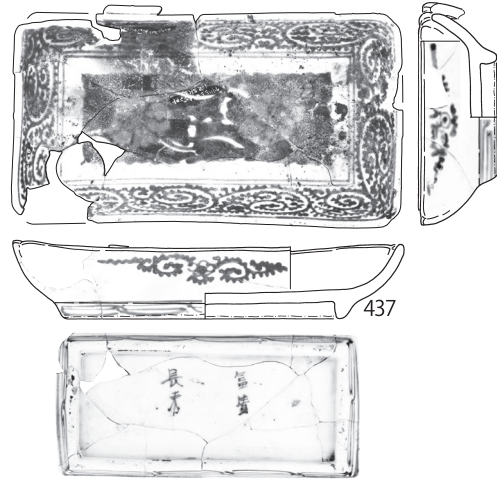
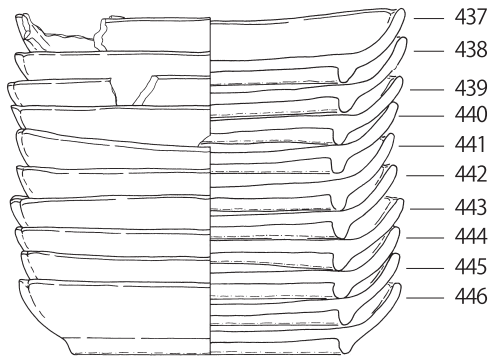
第151図 土壇出土遺物 (28)

同文の皿がみられるほか、第25号土壇に一回り小さい同文の皿（第144図339・340）がみられる。後者は長皿10枚で、同文の資料は『本陣跡Ⅰ』で報告した火災土壇（第301号土壇）で一枚出土しているが、本陣跡では他に出土例が無い。414

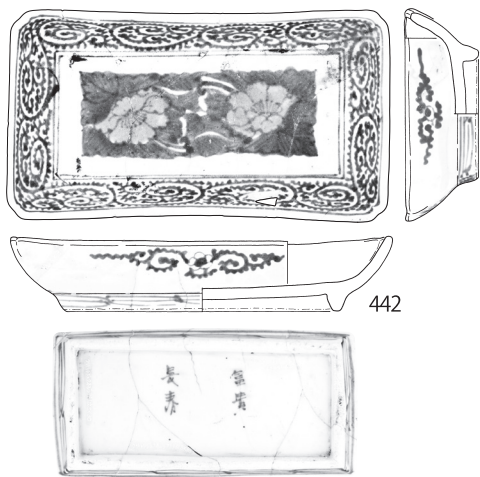
は瀬戸美濃系磁器の大振りの湯呑形碗で、別模様だが同形の例が、やはり第301号土壇から出土している。第156図465は備前系陶器と考えられる行平で、464は蓋である。いずれも被熱して大きく歪む。把手下に「九」の刻印がある。第229



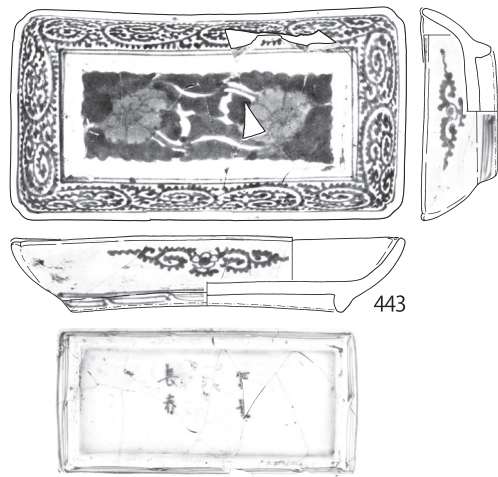
第 152 図 土壙出土遺物 (29)



第 153 図 土壙出土遺物 (30)



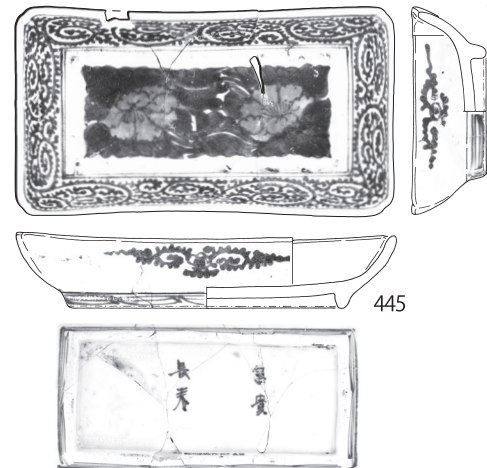
442



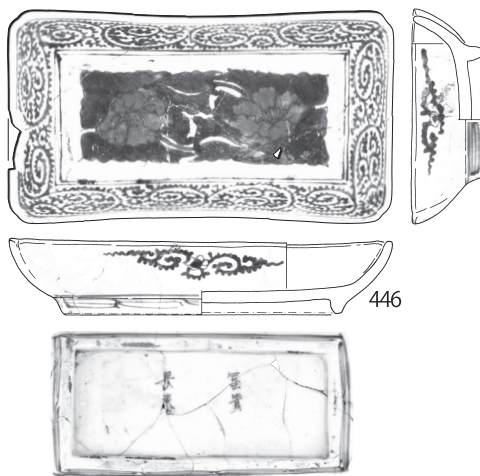
443



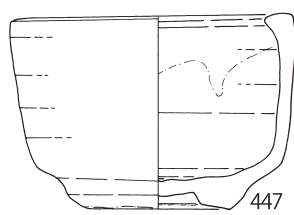
444



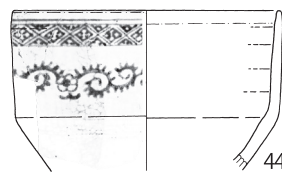
445



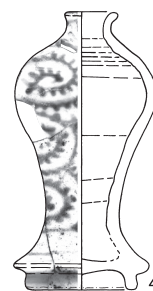
446



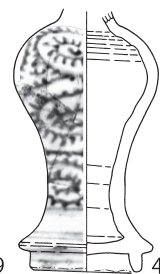
447



448



449

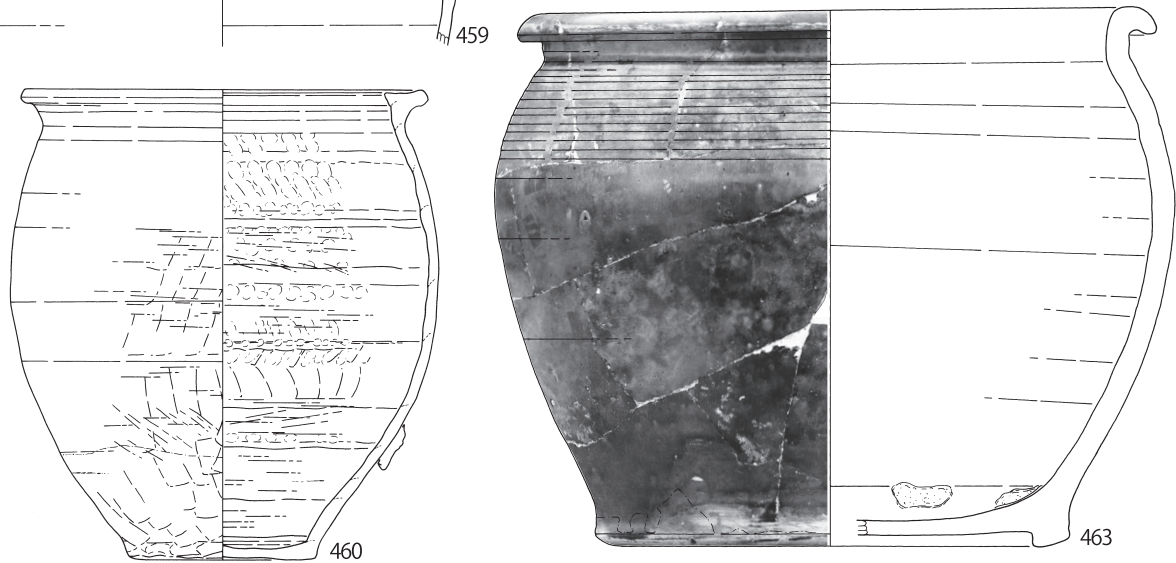
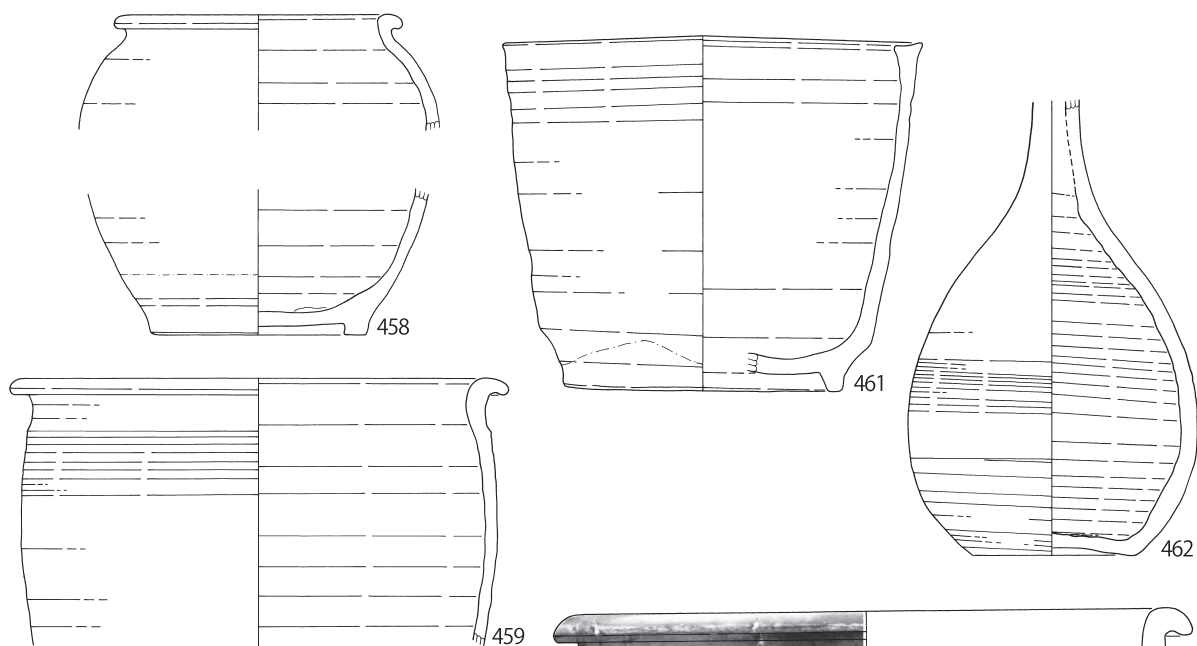
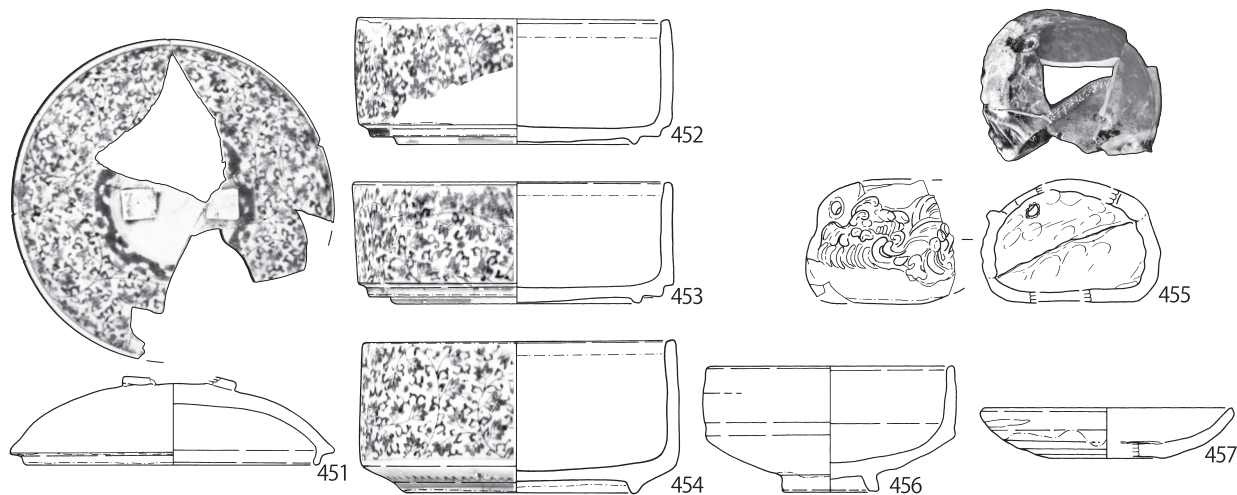


450

442 ~ 446 0 10cm 1:4

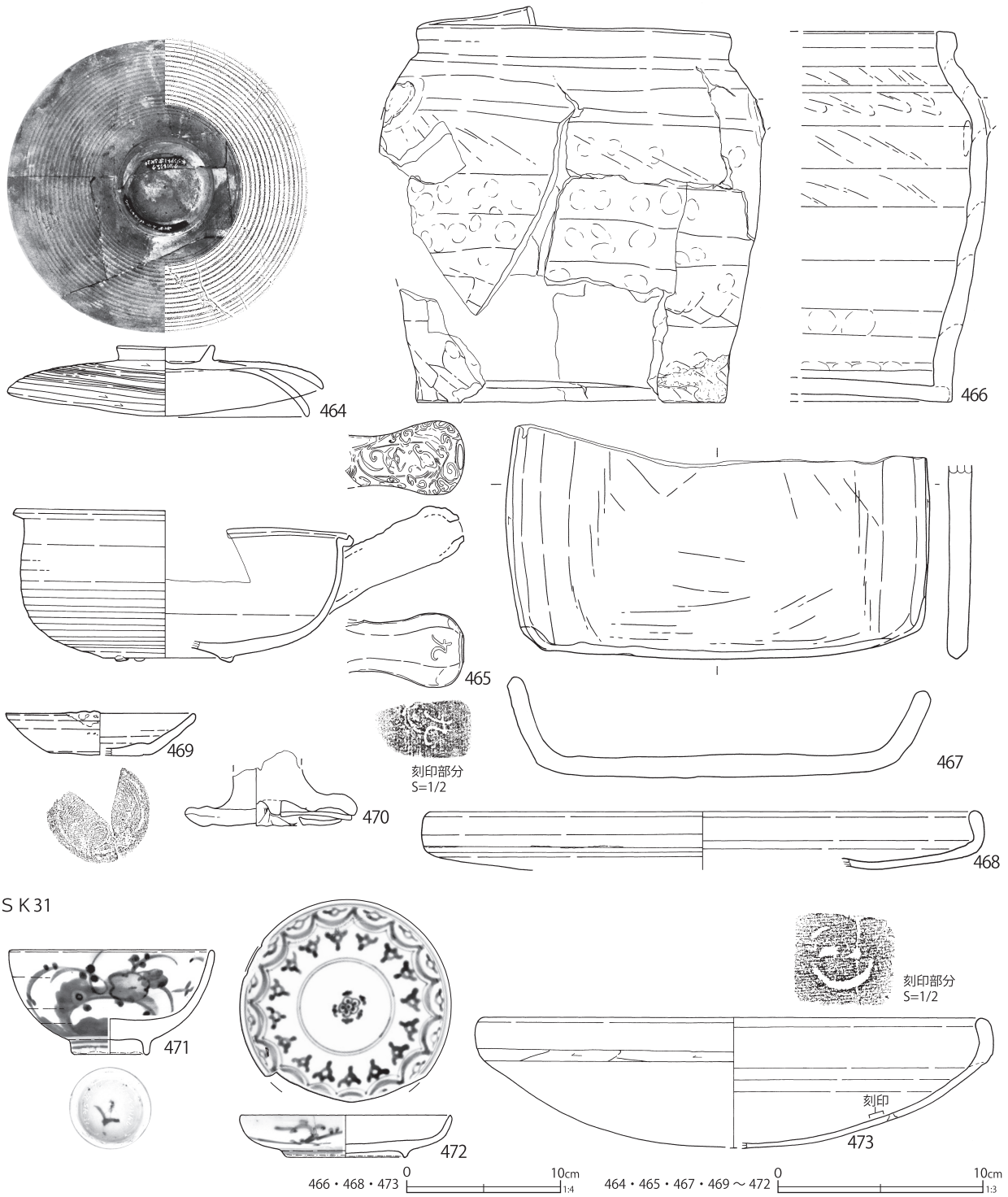
447 ~ 450 0 10cm 1:3

第 154 図 土壙出土遺物 (31)



460 0 20cm 1:8 458 · 459 · 461 · 463 0 10cm 1:4 451 ~ 457 · 462 0 10cm 1:3

第 155 图 土壙出土遺物 (32)

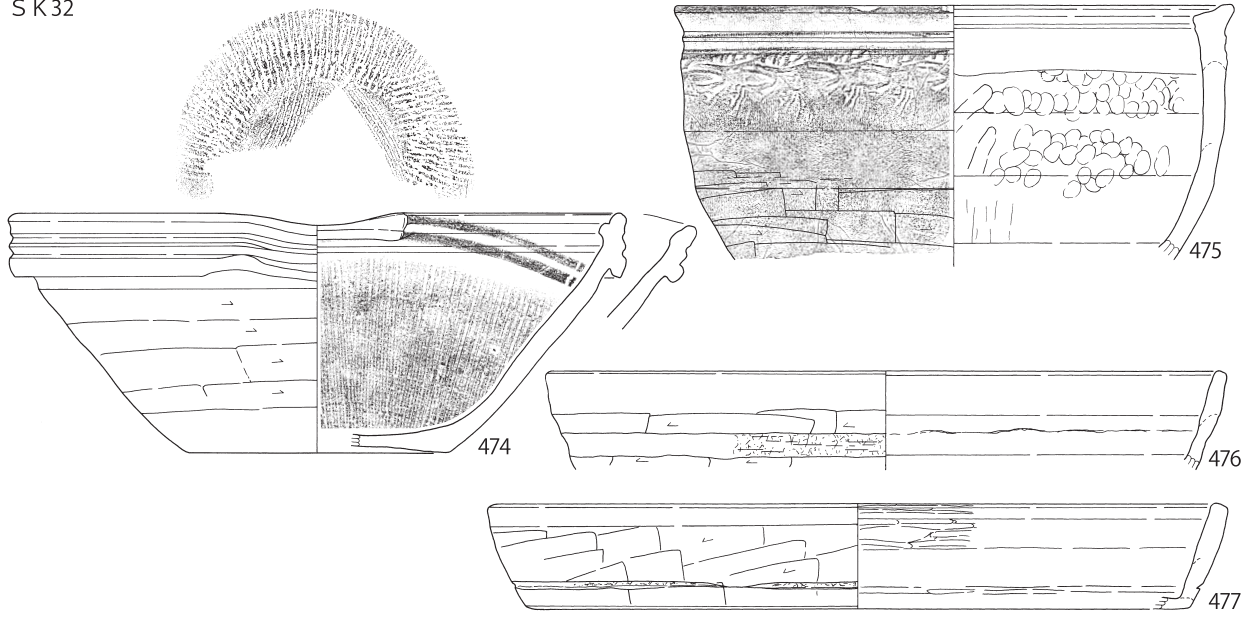


第 156 図 土壌出土遺物 (33)

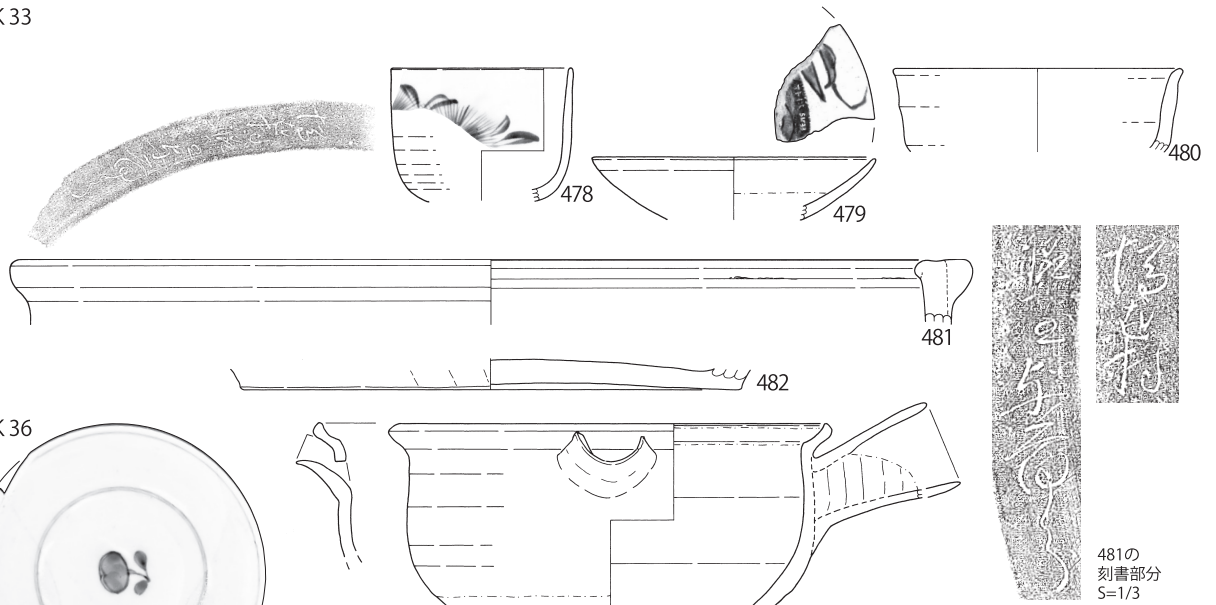
～230図35～43は軒瓦で、40・41は大阪式である。瓦当面の様子は37と同文のものが主であった。この傾向は第2号土壌と共通する。第238～239図43～60はその他の瓦である。第255図26は銅製品の把手、第260図10・11は石製硯、第270

図3は硝子製品髪飾り類である。第265図102は軟質礫を含む安山岩製の焜炉で、類例は第301号土壌（『本陣跡Ⅰ』第217図46）から出土している。陶磁器の年代や、第301号土壌との組成の比較から、文政5年の火災に関わる土壌である可能

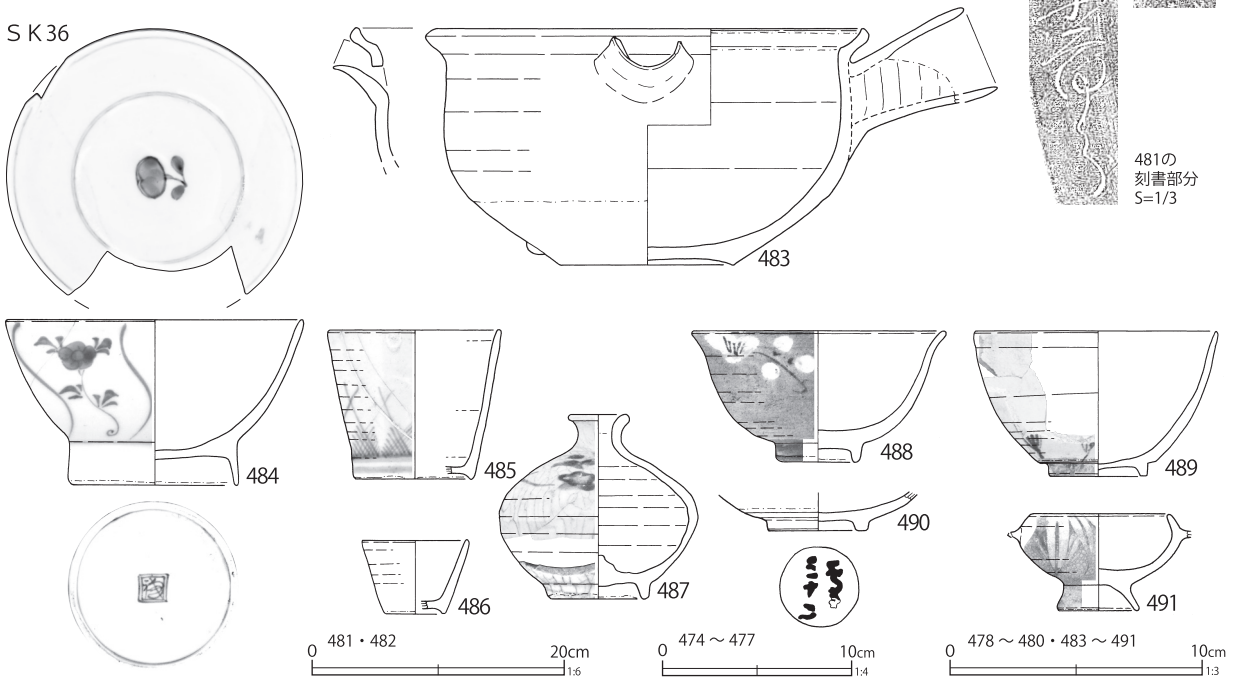
SK32



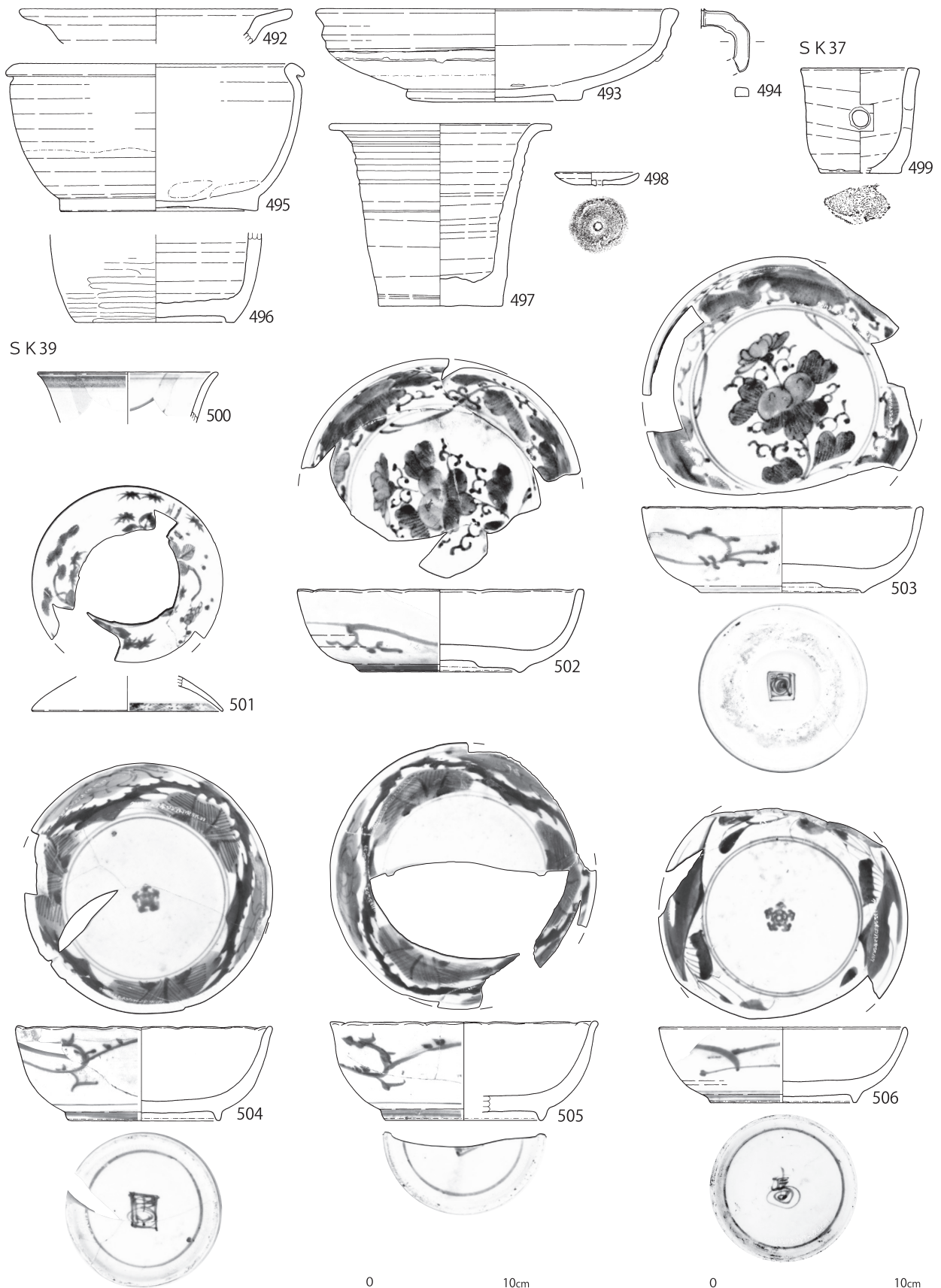
SK33



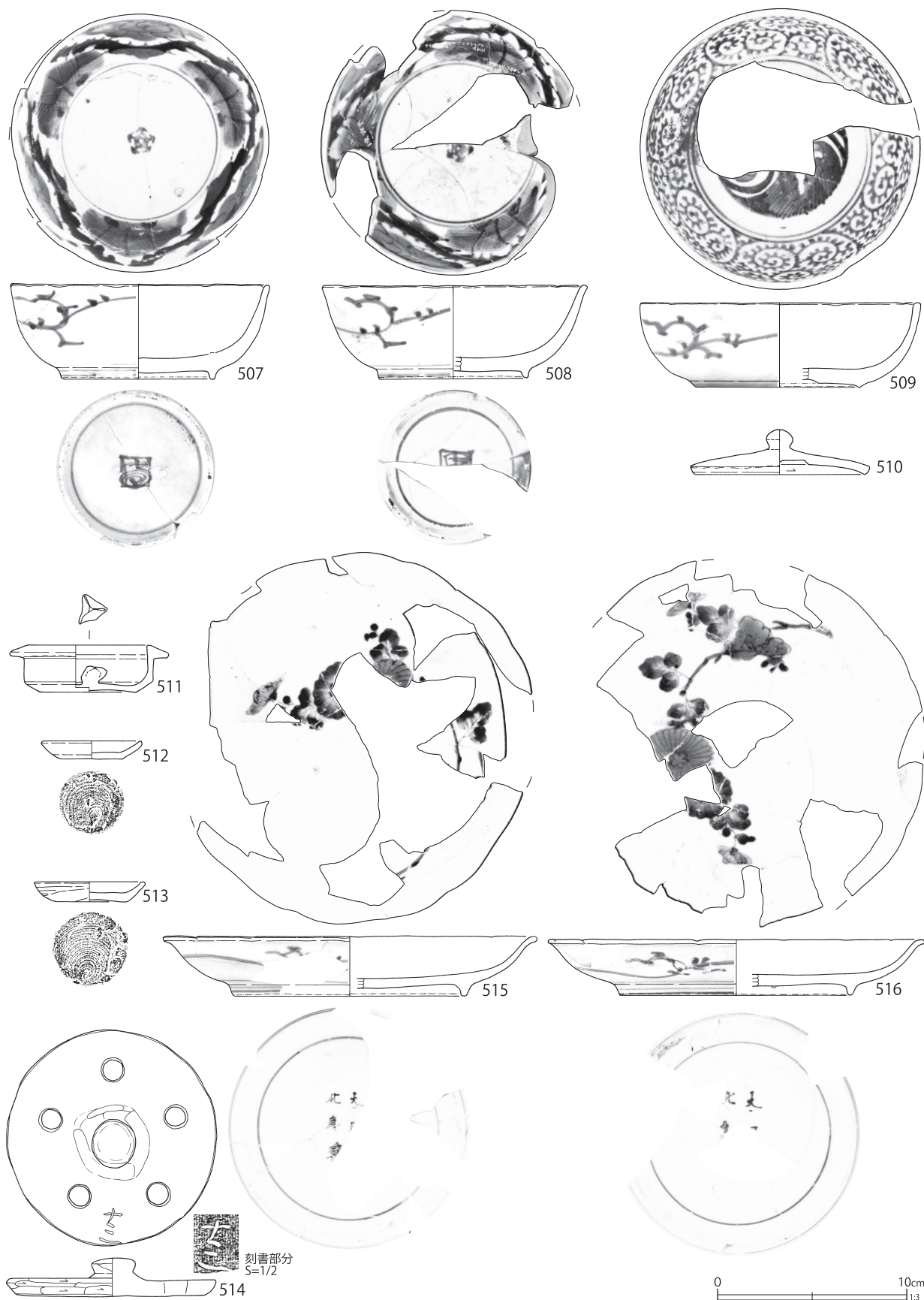
SK36



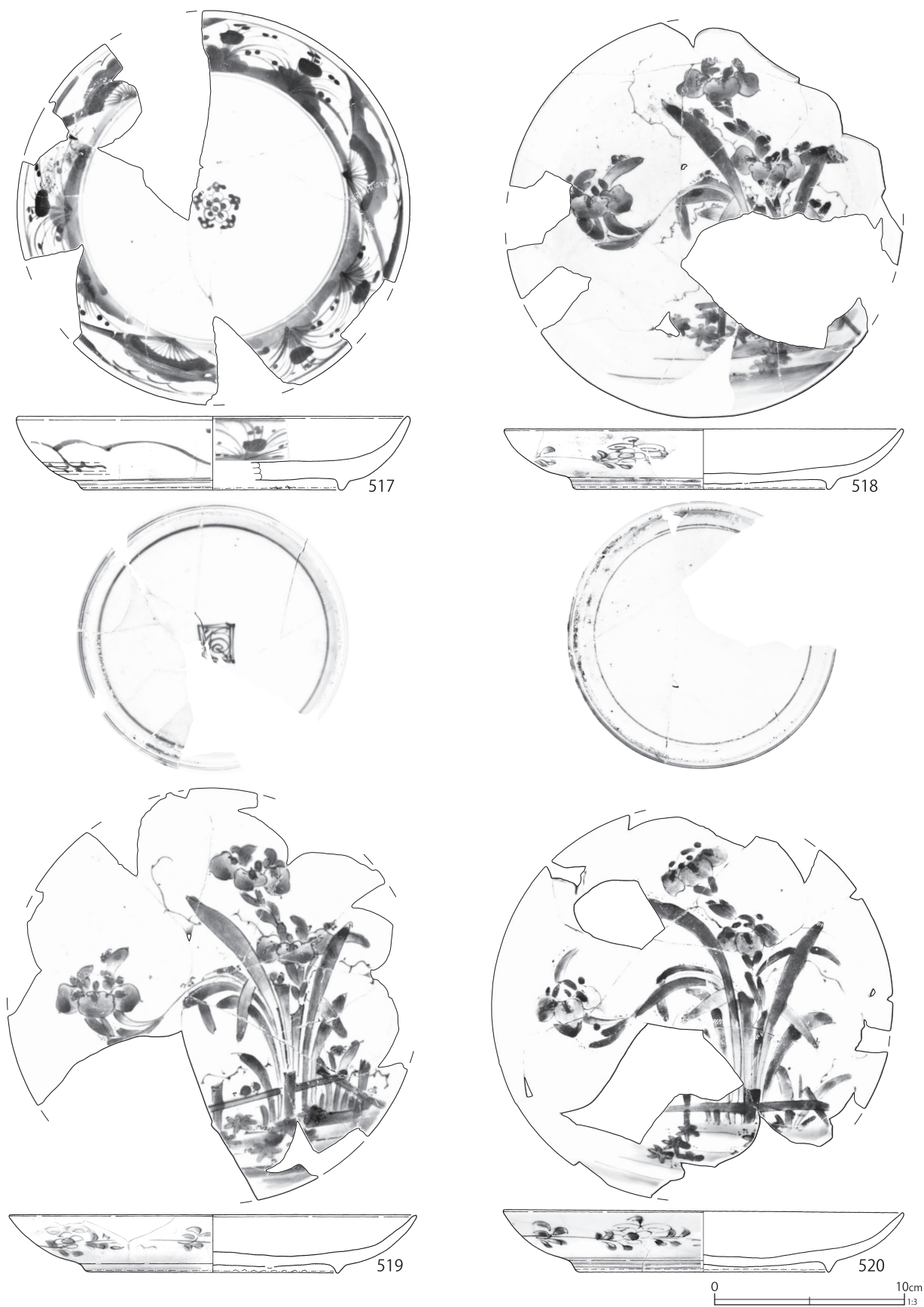
第157図 土壌出土遺物(34)



第 158 図 土壙出土遺物 (35)



第 159 图 土壙出土遺物 (36)



第 160 図 土壙出土遺物 (37)



第161図 土壙出土遺物 (38)

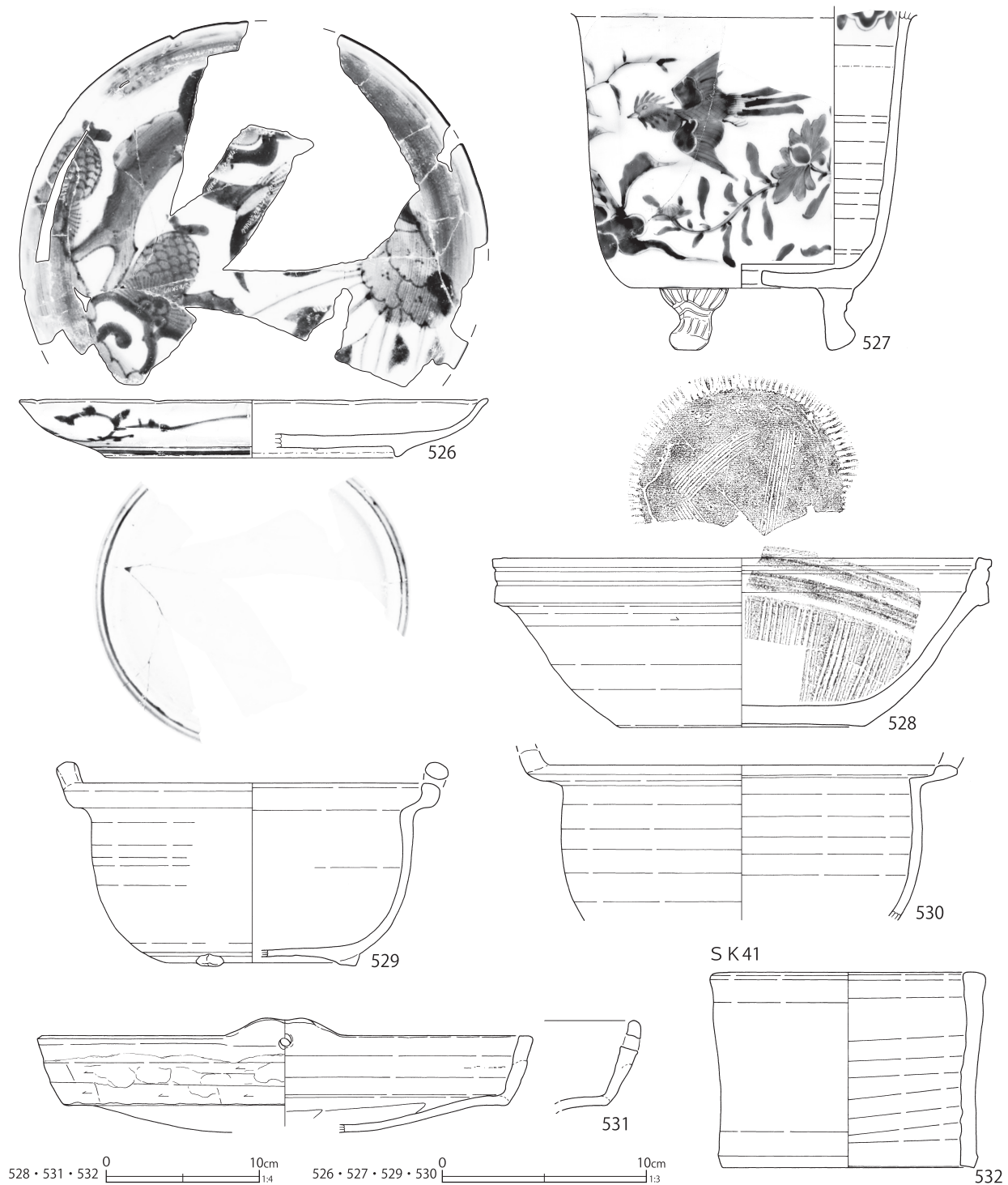
性が高い。

第32・33号土壙 (第100図)

C 6-B 2 グリッドに位置し、重複する。

長楕円形の第32号土壙は、覆土下層が焼土・炭化木主体層で、上層は砂質土で埋め戻される。火災処理土壙と考えられる。第157図474~477に陶磁器を示す。

第33号土壙は、第32号土壙を掘り込む円形の土壙で、底面に真壁産土器甕の底部が遺存していた。本来は埋甕であった可能性が高い。第157図478~483は出土した陶磁器で、482が底面に遺存していた土器甕の底、481はその口縁部と思われる。他にも同一個体の胴部破片が多く出土したが、全体の接合に至らなかった。481の口縁部に



第 162 図 土壇出土遺物 (39)

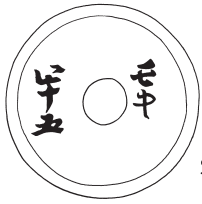
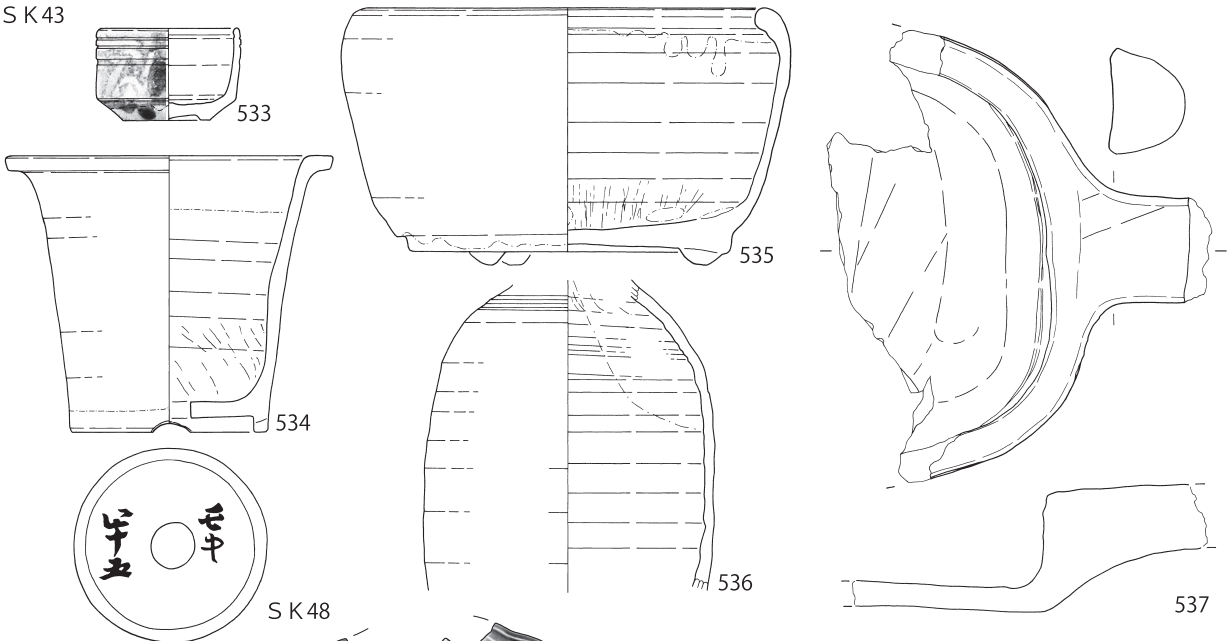
は「塙世村脇屋与二郎右衛門」とヘラ書きされる。茨城県桜川市(旧真壁町)の塙世は、隣接地区の源法寺とともに源法寺焼と呼ばれる真壁焼の産地であり、生産者の屋号と名を記したものと思われる。483は全体に糠白釉の掛かる陶器行平

で、大堀相馬系陶器と推定される。最新期の磁器は478の湯呑形碗で、酸化コバルト磁器は含まない。19世紀中葉の遺構と思われる。

第36・111号土壇 (第102図・108図)

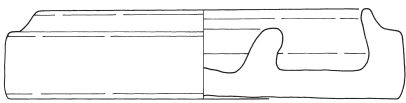
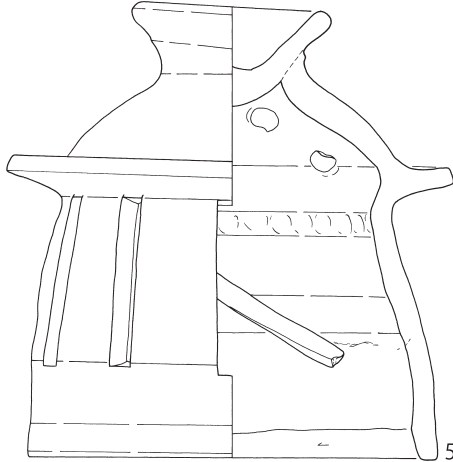
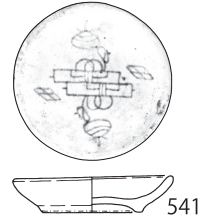
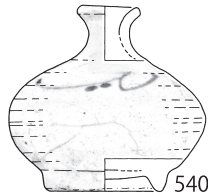
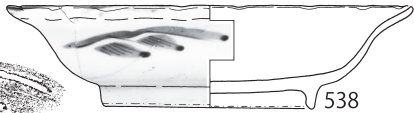
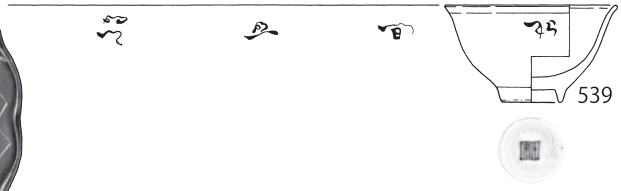
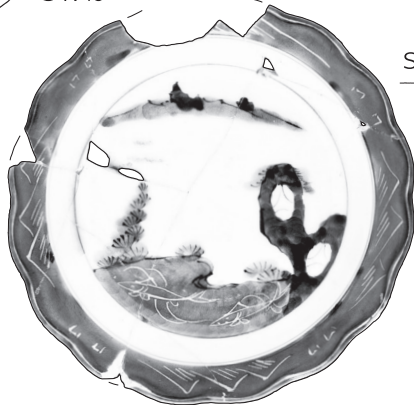
B 6-J 2・C 6-A 2 グリッドに所在し、重

S K 43

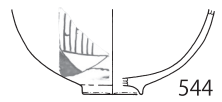


S K 48

S K 52



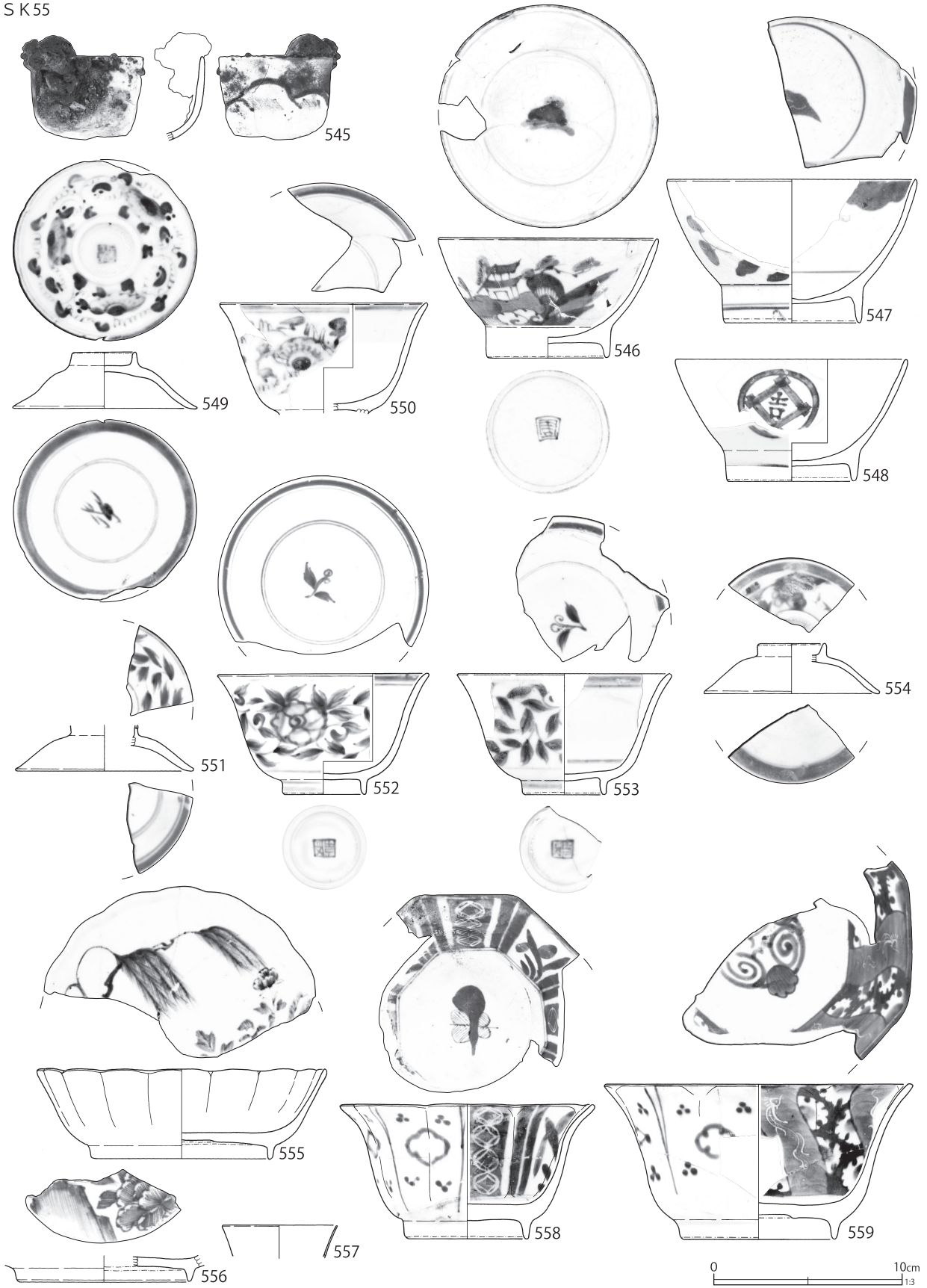
S K 53



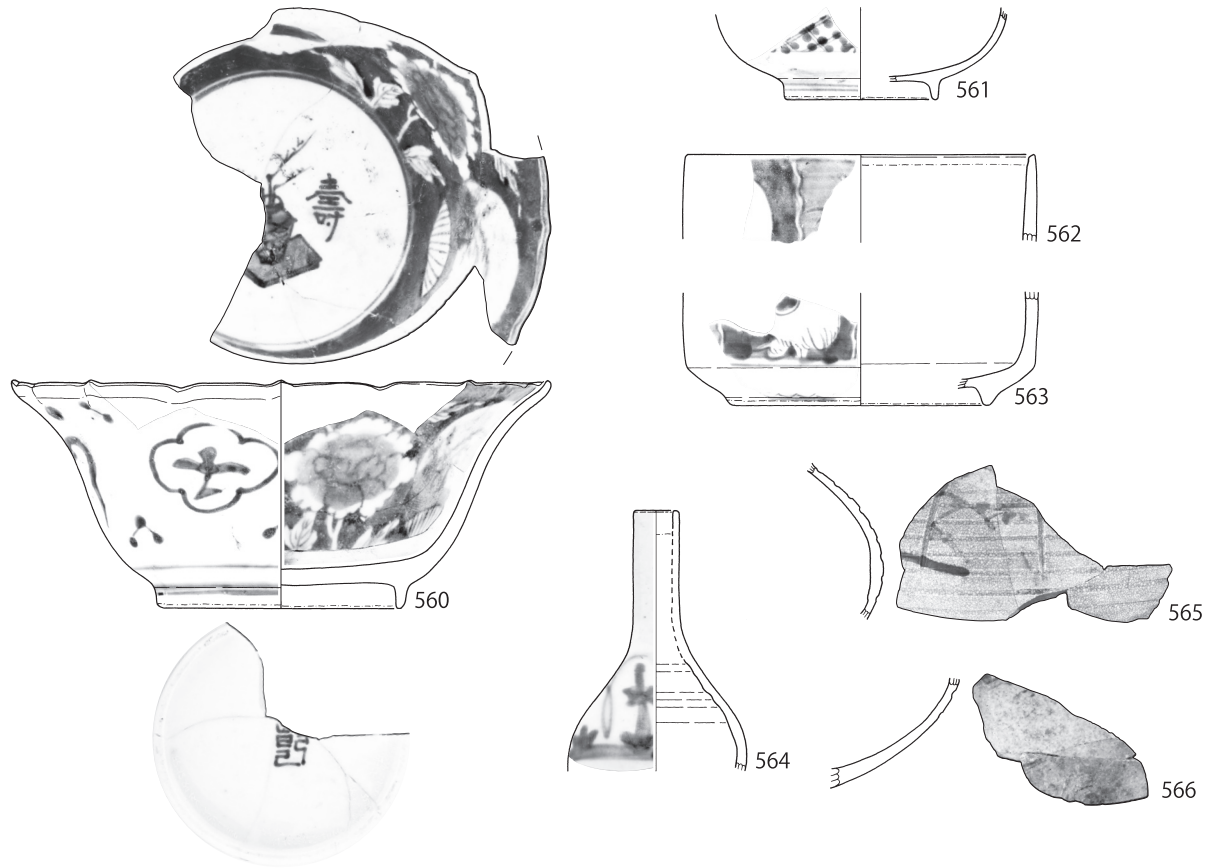
534 · 535 0 10cm 1:4 533 · 536 ~ 544 0 10cm 1:3

第 163 图 土壤出土遺物 (40)

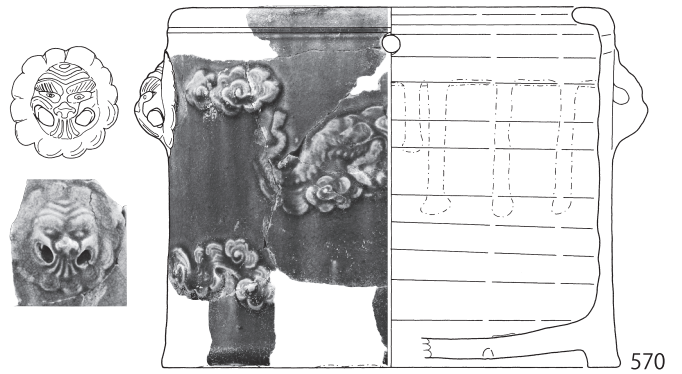
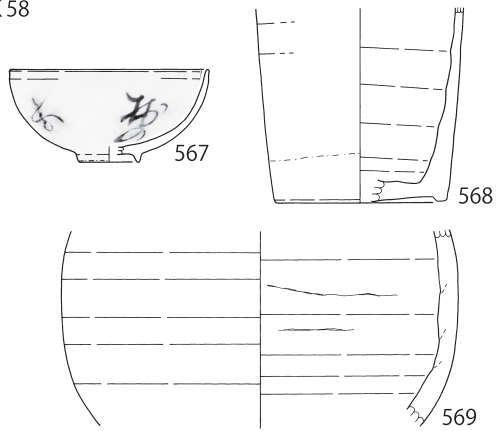
SK55



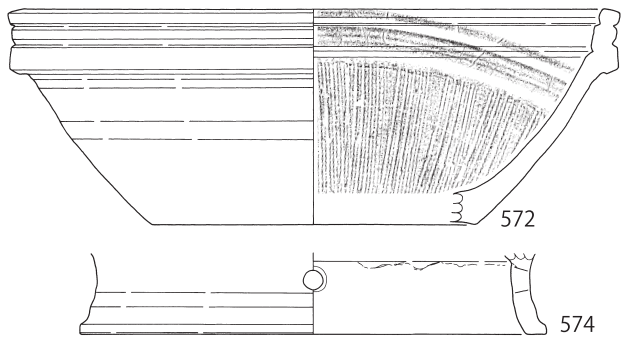
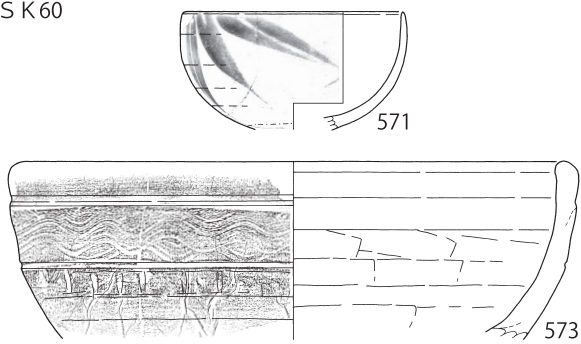
第 164 図 土壙出土遺物 (41)



S K 58

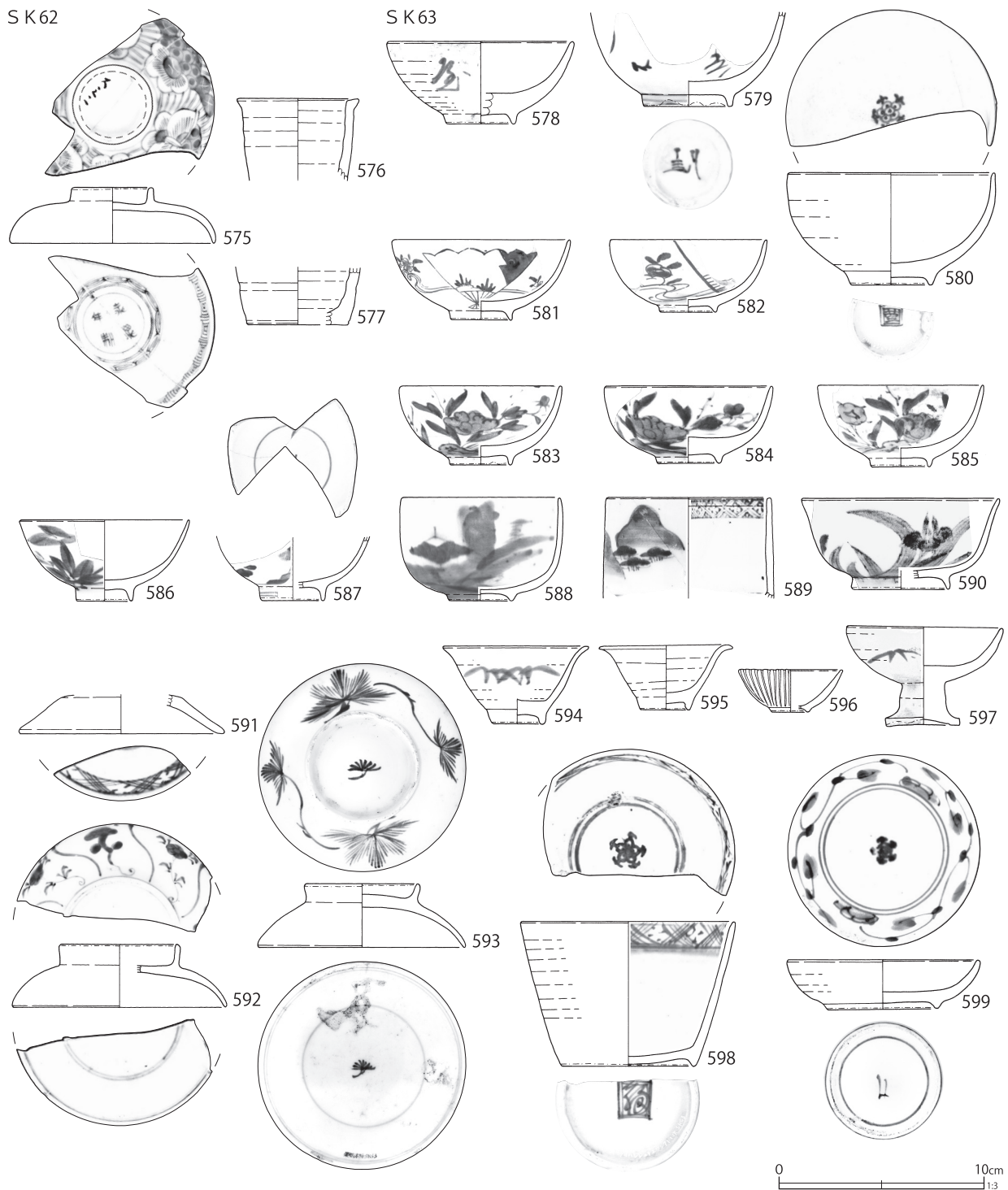


S K 60



569・570・572～574 0 10cm₁₄ 560～568・571・573 0 10cm₁₃

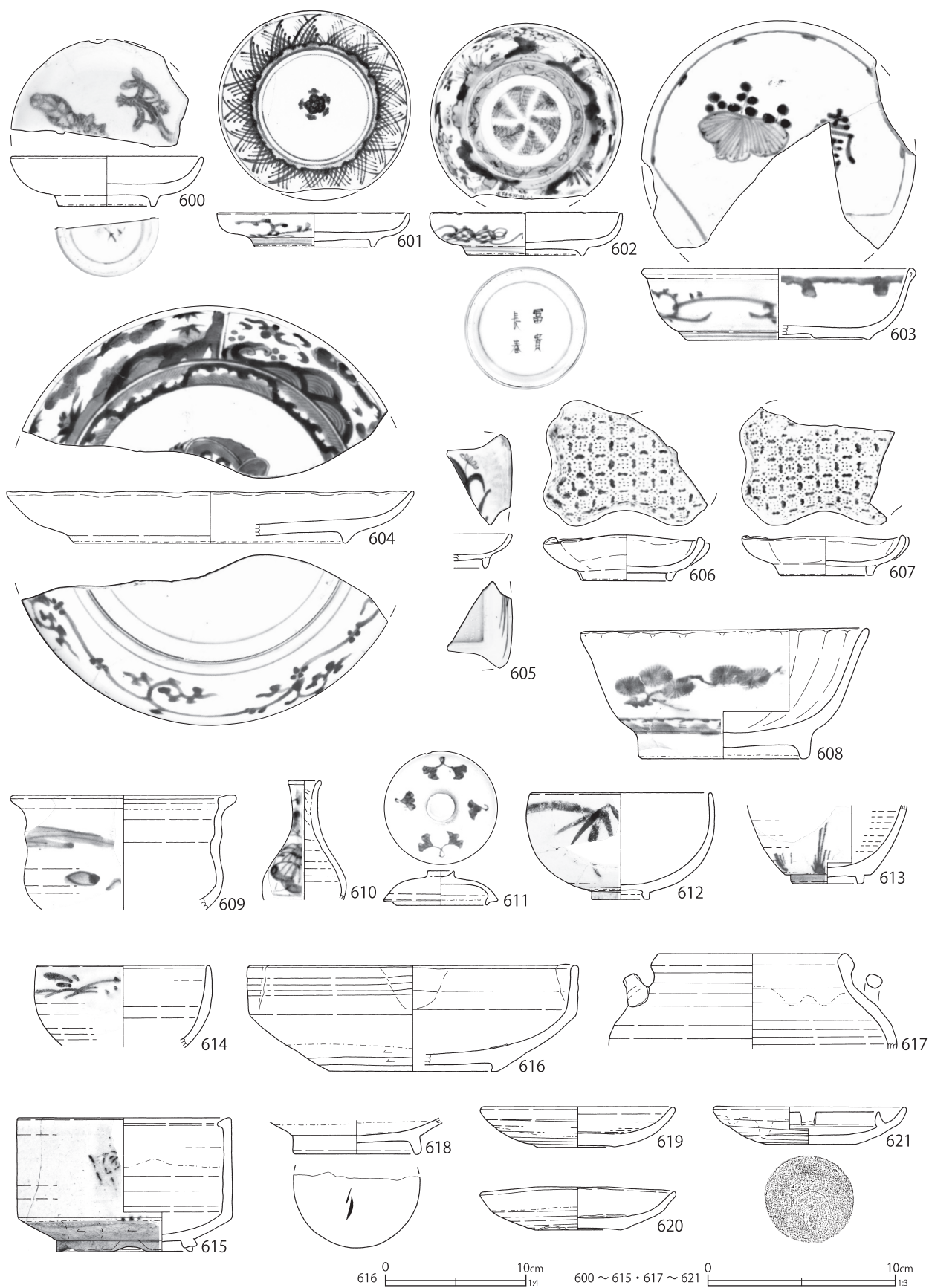
第 165 図 土壙出土遺物 (42)



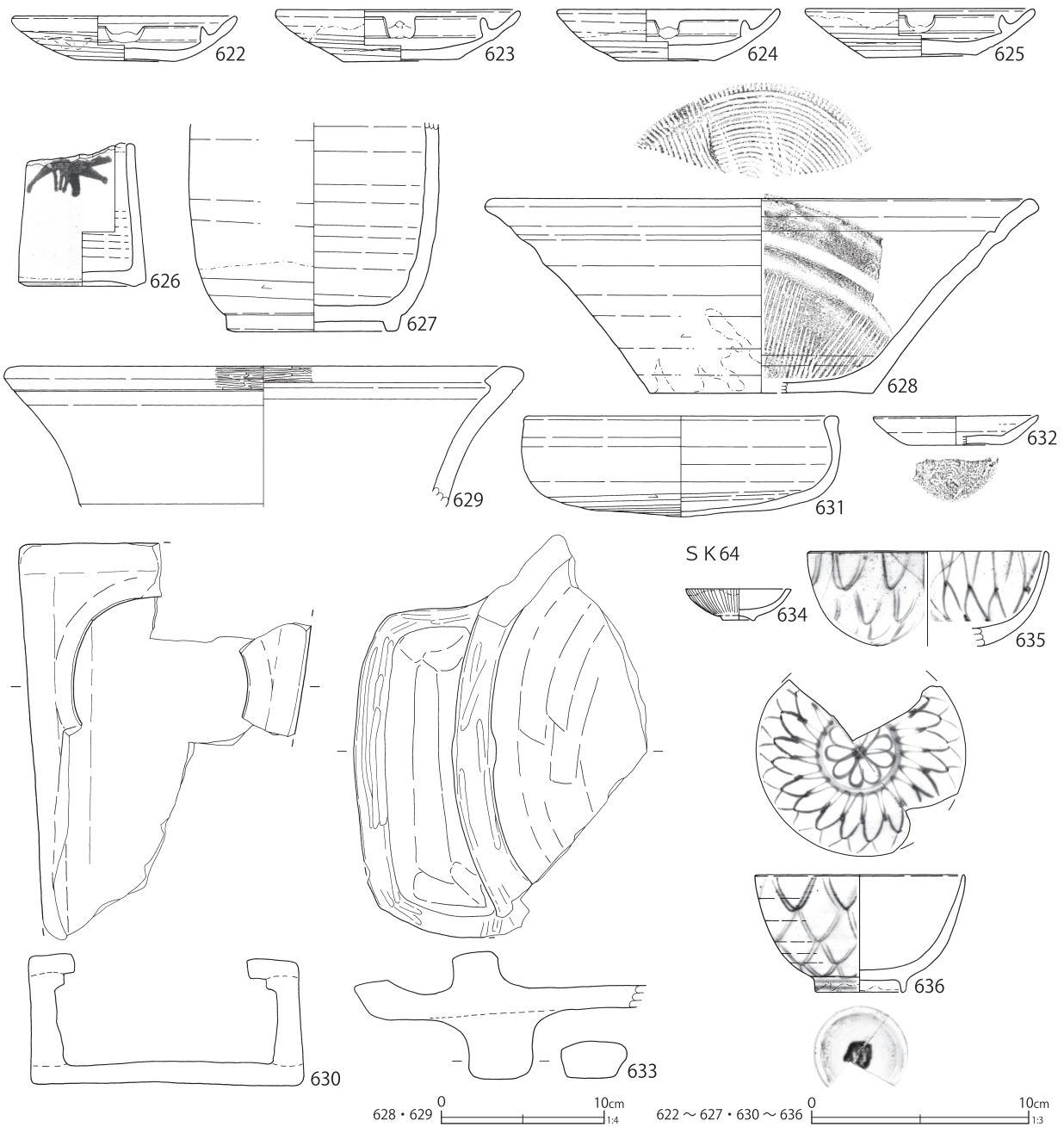
第166図 土壙出土遺物(43)

複関係にある。第36号土壙は長軸6mの長大な火災処理土壙である。第111号土壙はその下から検出された土坑で、木組みが認められる。長軸2.21mの不整形土壙である。第36号土壙の覆土は焼土ブロックと瓦を含み、出土したほぼ全て

の遺物が被熱している。陶磁器全体としては肥前系磁器の広東碗・筒形碗、京都信楽系陶器の半球碗が多い。筒形碗には体部中位に錆釉の横帯を巡らすものがみられる。第157・158図484~498は出土した陶磁器の一部である。491は双耳状の突



第 167 图 土壤出土遺物 (44)



第 168 図 土壌出土遺物 (45)

起が付く脚付きの器種で、外面に上絵付けが施される。京都信楽系陶器である。第230図44は軒棧瓦、第260図15は砥石である。陶磁器様相や第111号土壌との新旧関係から19世紀前葉の帰属で、文化・文政期の火災に伴う可能性が高い。

第111号土壌はこれより古い遺構である。掘方内には四周の壁に横板材が残り、南壁では二段分、他の壁では一段分遺存する。本来は全体に二段以

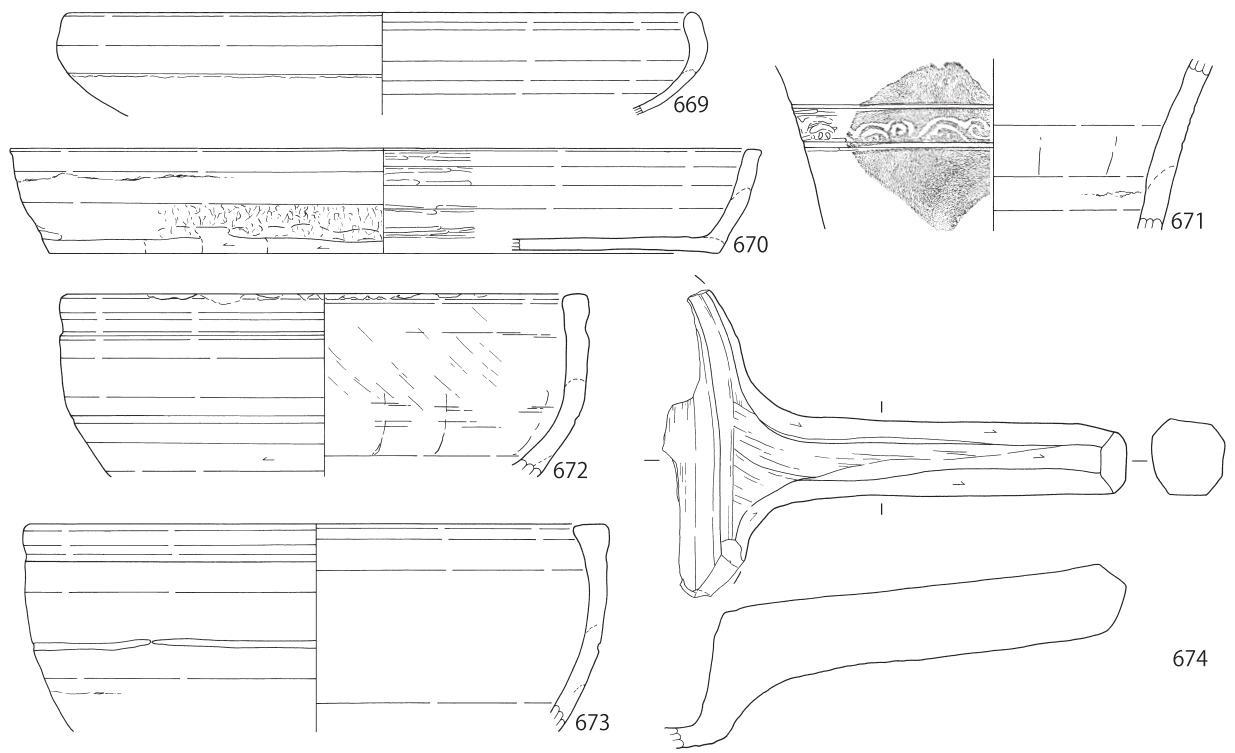
上の板材があった可能性がある。西壁板材の上端面には埋め釘が15~18cm程の間隔で残っていた。板材は杭で内側から押さえていたらしく、杭は遺存していなかったが、腐食した杭の痕跡が掘方下面と覆土中に残っていた。構造は第1号土壌に類似し、地下蔵の一種と思われる。

第182・183図862~885は出土した陶磁器類である。864の瀬戸美濃系磁器端反碗が最新期の遺

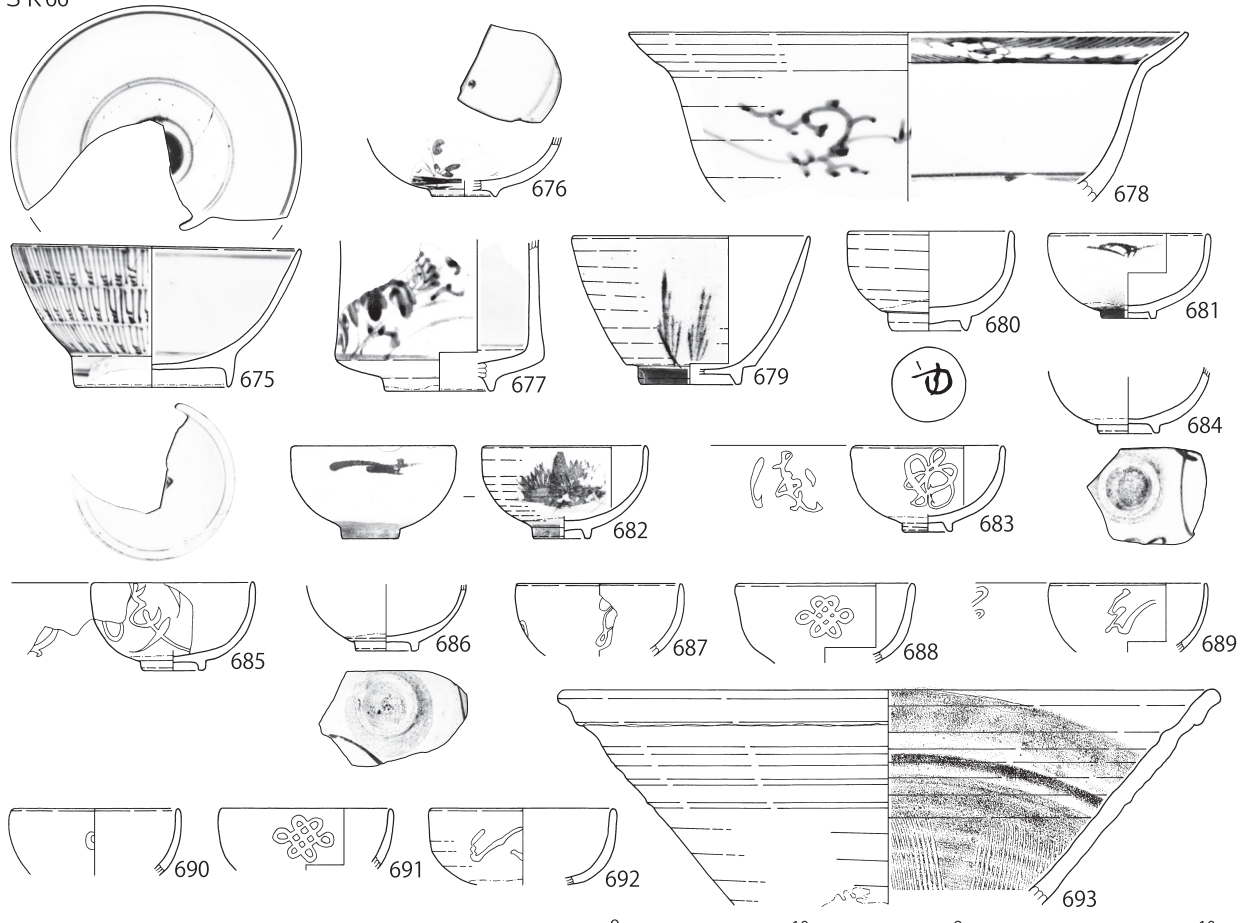
SK 65



第 169 図 土壙出土遺物 (46)

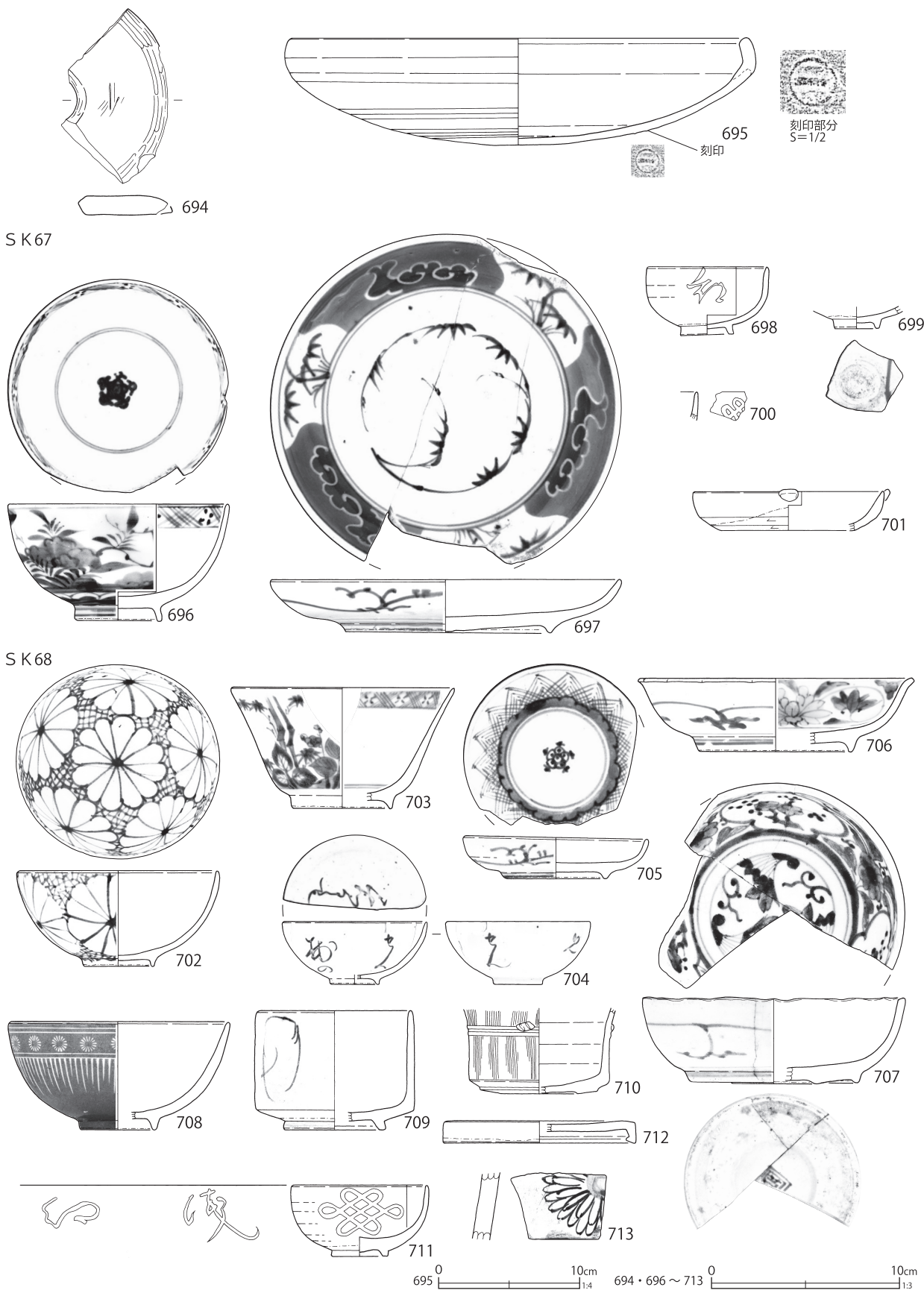


SK 66



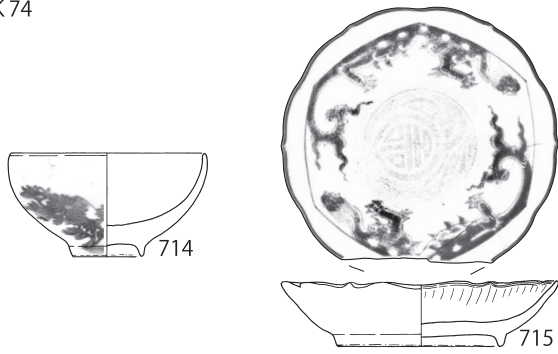
669 ~ 673 · 693 0 10cm 1:4 674 ~ 692 0 10cm 1:3

第 170 図 土壙出土遺物 (47)

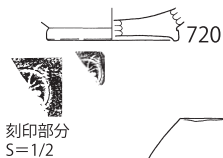
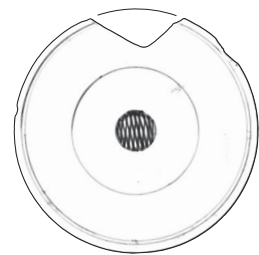
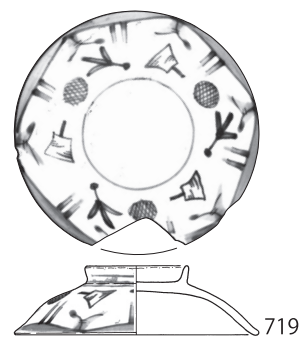
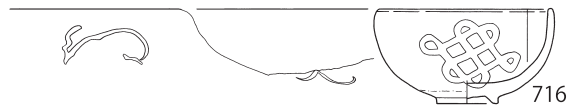
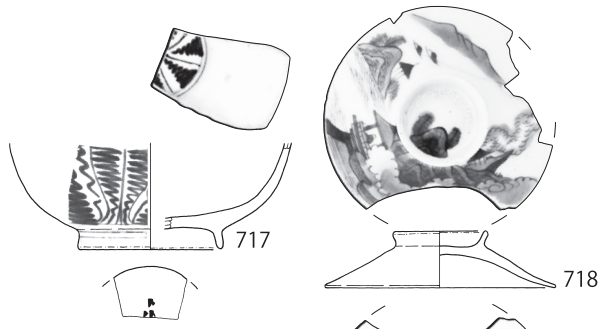
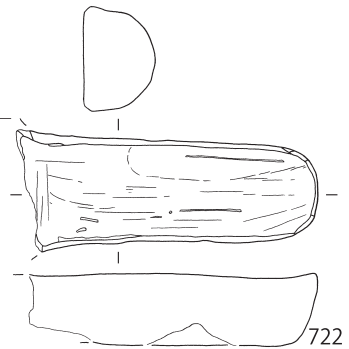
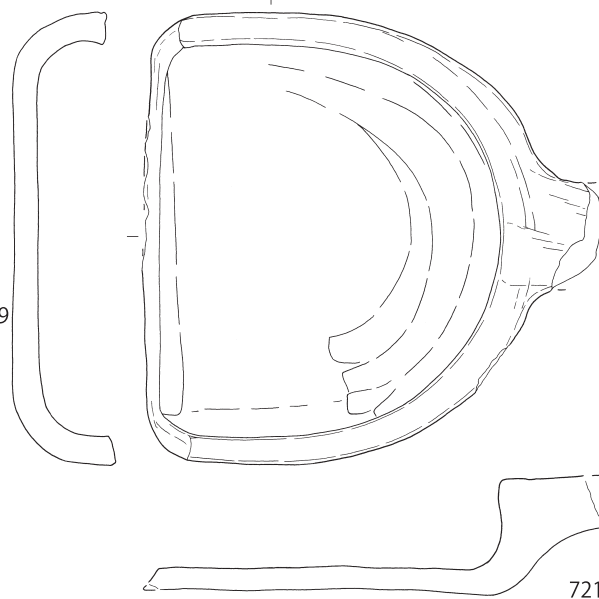
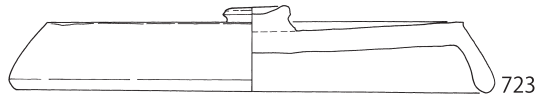


第 171 图 土壙出土遺物 (48)

SK74



SK75

刻印部分
S=1/2

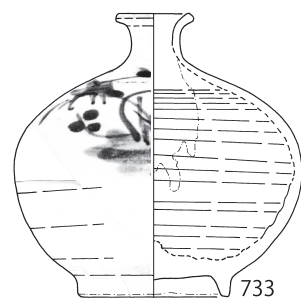
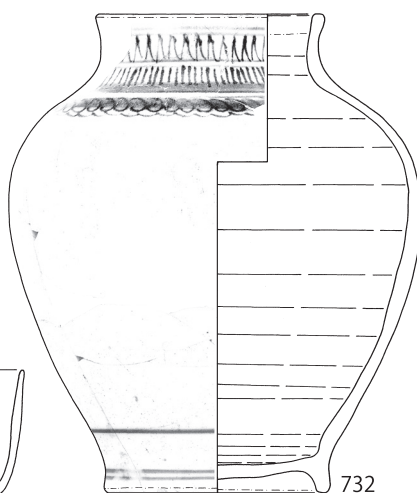
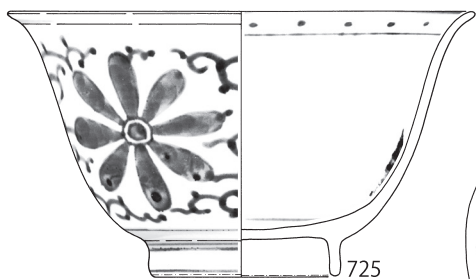
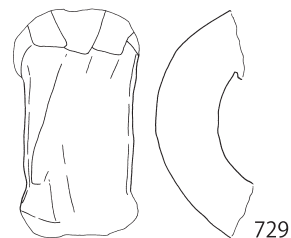
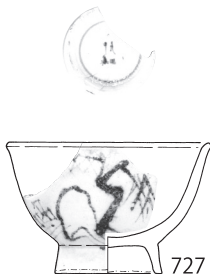
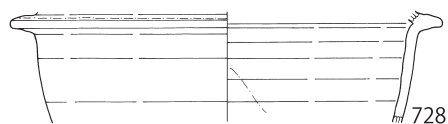
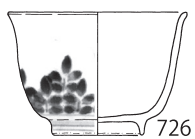
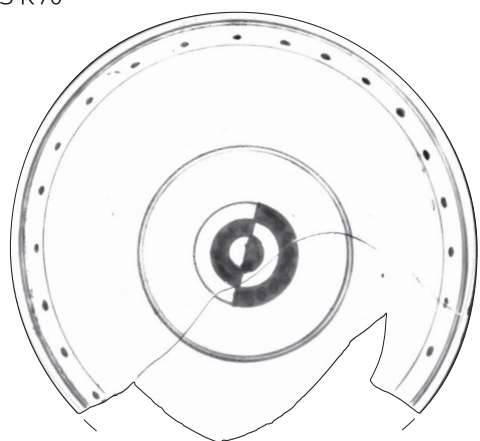
723・724 0 10cm 1/4 714～722 0 10cm 1/3

第172図 土壙出土遺物(49)

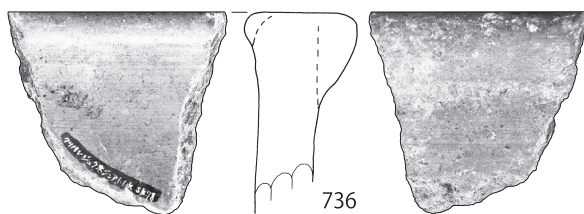
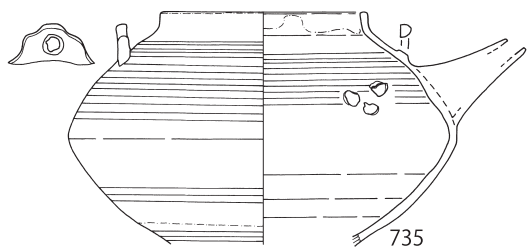
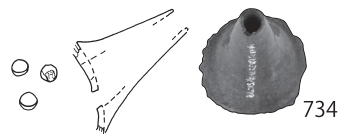
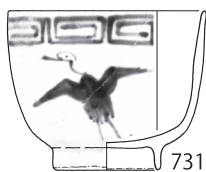
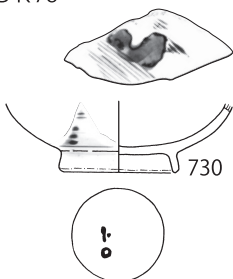
物で、他に肥前系磁器八角鉢が確認される。868は鴛鴦を模す磁器水滴である。870は大堀相馬焼の坏で、内面に鉄絵で馬を描く。871は萩焼の開口碗である。873は糠白釉が掛けられた陶器鉢類の口縁部とみられる。産地不詳だが、類形の陶器は第150号土壙からも出土している(第185図931)。883は小形の焙烙とみられる。882はさら

に小形だが、底部全面を回転ケズリすることや、第119号土壙出土例(第183図893・「楽」刻印あり)との類似から把手付鍋と考えられる。いずれも江戸在系土器である。栗橋宿跡から出土する把手付鍋は大部分が在系で、江戸在系のは僅かである。第225図10はミニチュアで土瓶を模す。第264図87は篆刻文字を刻みつけた蠟石製

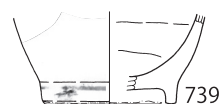
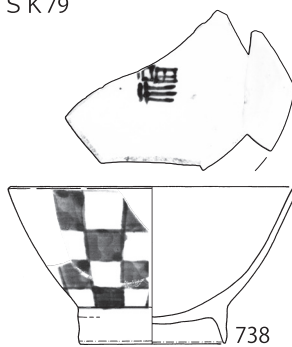
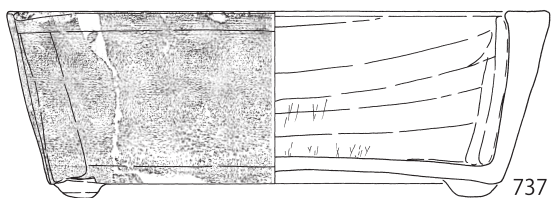
SK76



SK78



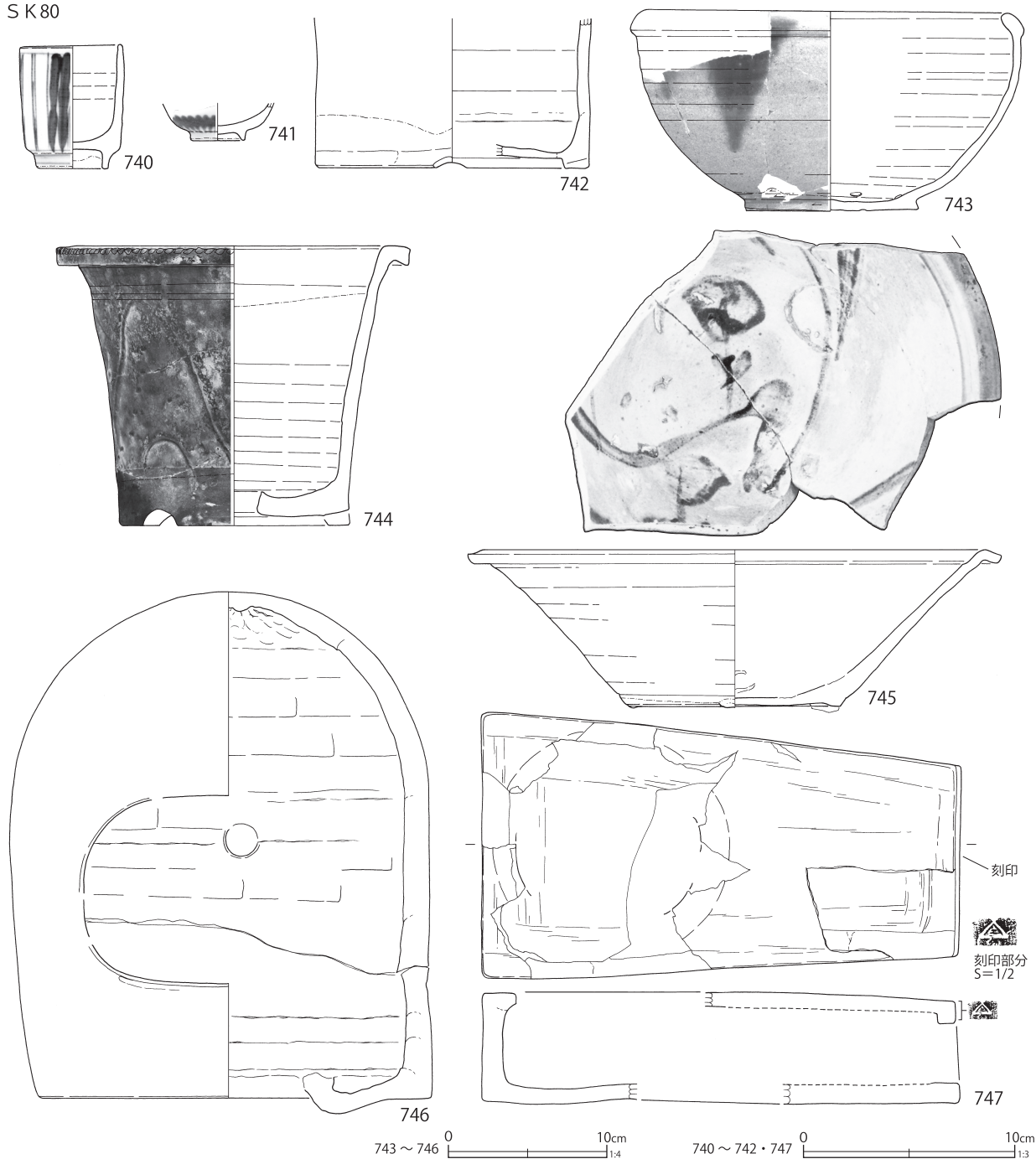
SK79



0 10cm 1/4 737 0 10cm 1/3 725 ~ 736 · 738 · 739

第173图 土壙出土遺物 (50)

S K 80



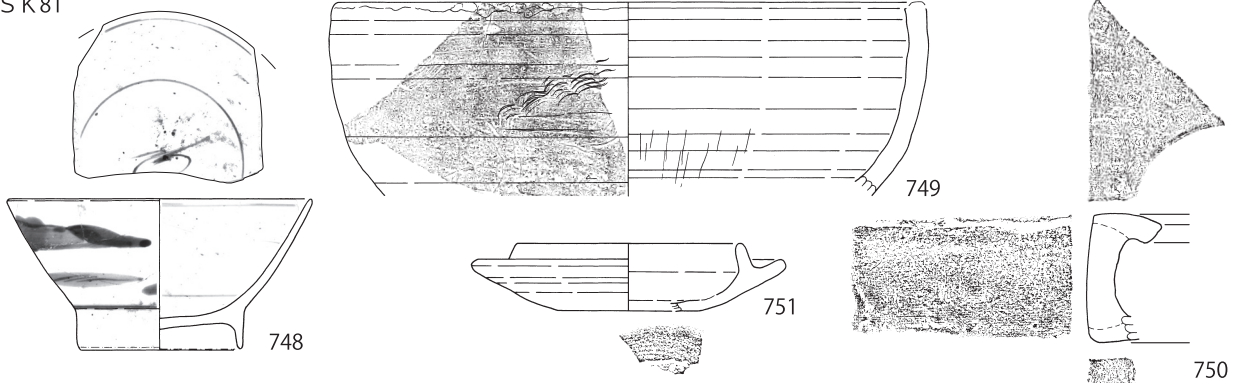
第174図 土壇出土遺物(51)

品で印章と思われる。両面に文字を刻み、その面に朱が遺存する。なお、覆土中からハマグリ、アワビが一定量出土しており、一部に被熱が認められる。貝類の分析結果は第V章-4に、分析資料を含めた数量は第80表に示す。重複関係から第36号土壇より古いが、遺物の様相に時期差は見出せない。19世紀初頭～前葉に帰属する。

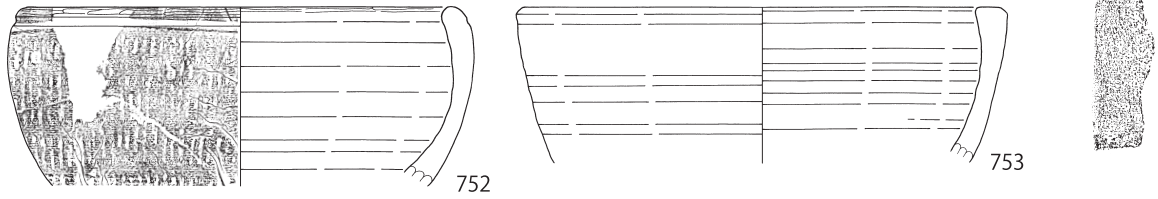
第39号土壇 (第100図)

C 6-A 2 グリッドに位置する楕円形の火災処理土壇で、覆土は焼土・炭化木主体層である。出土した陶磁器(第158図～162図500～531)の多くは被熱しており、南へ大きく離れた池状遺構の出土陶磁器と顕著に接合した。最新期の磁器は500の被熱した瀬戸美濃系磁器端反碗で、第11号

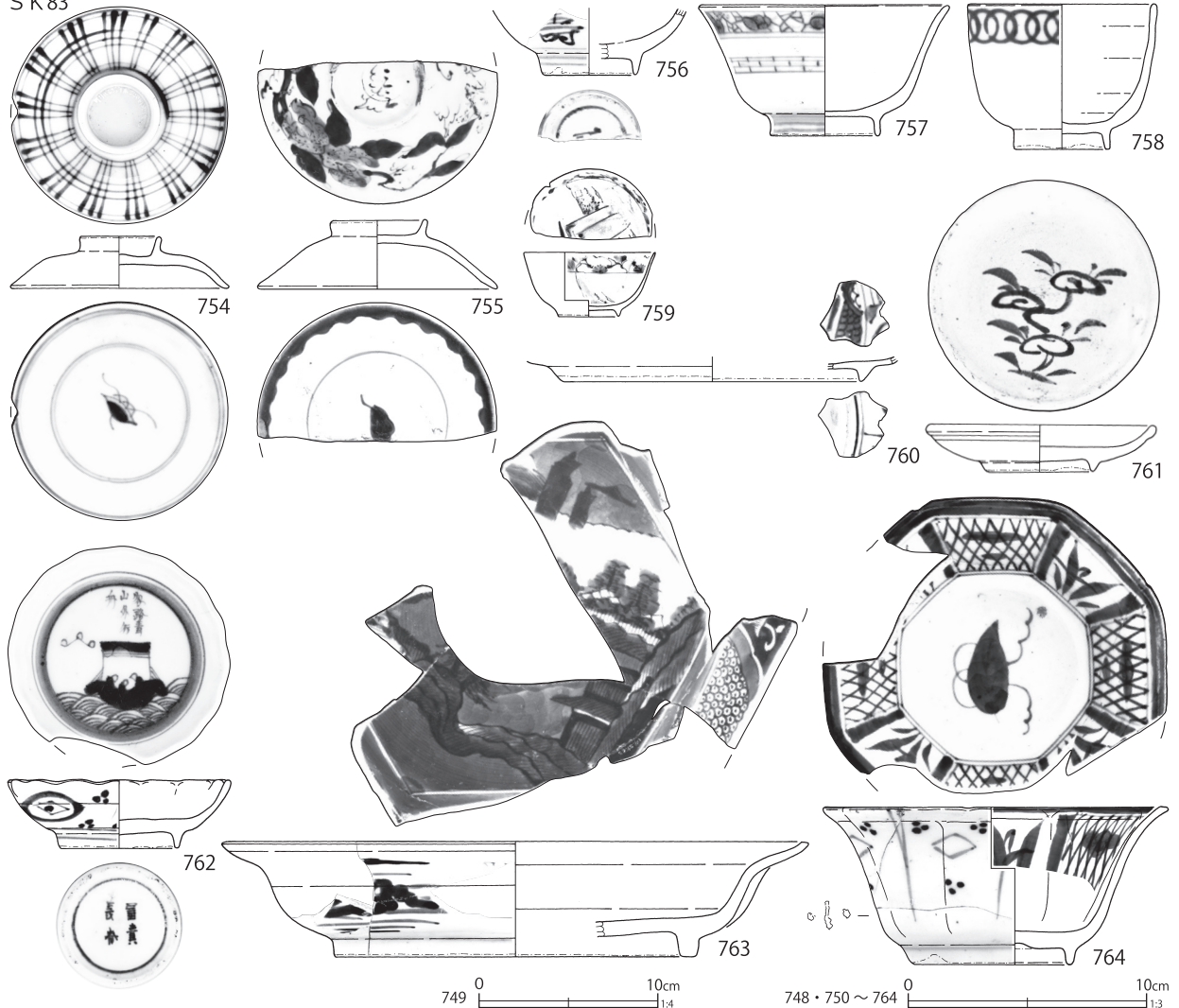
S K81



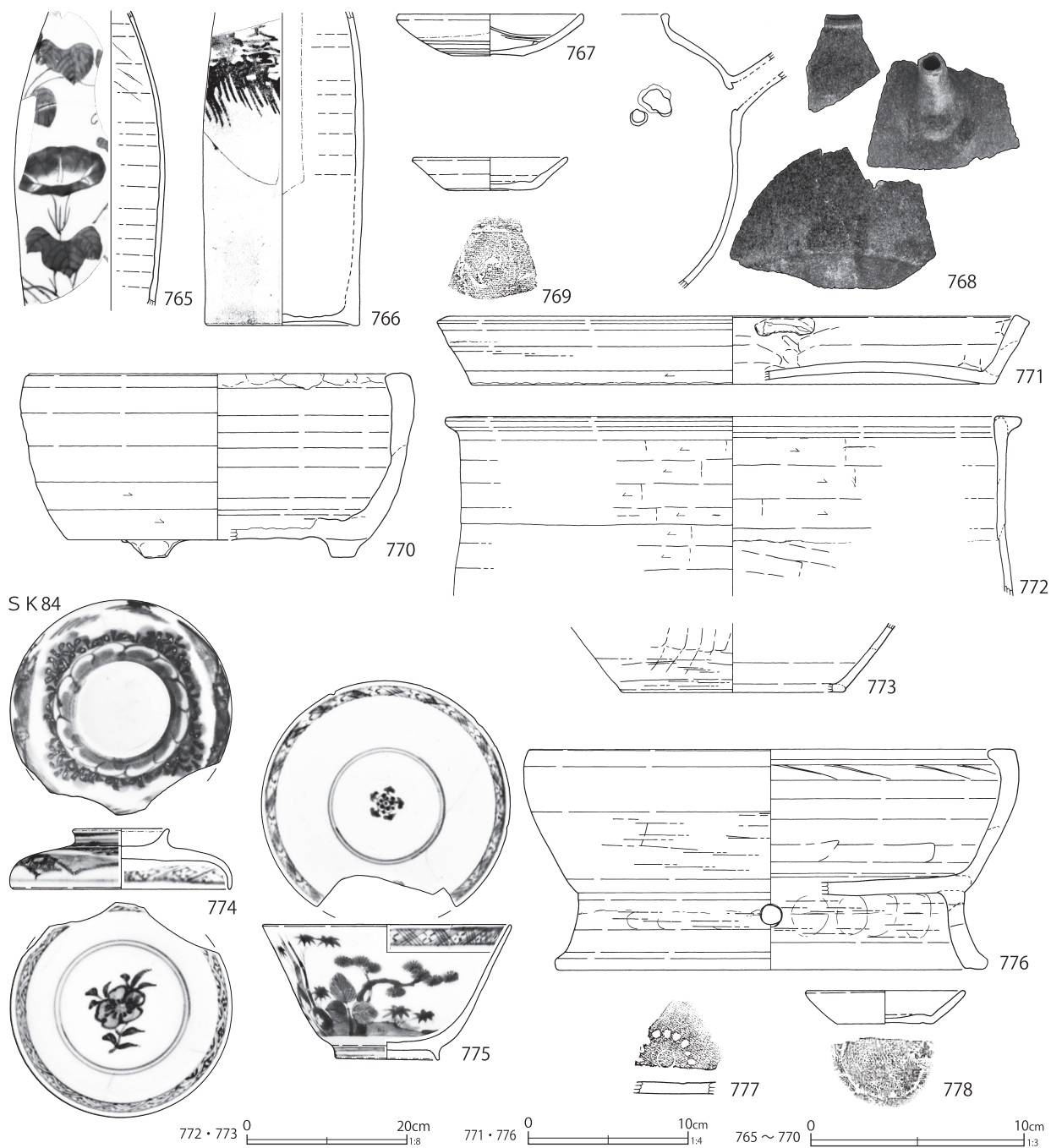
S K82



S K83



第 175 図 土壙出土遺物 (52)



第176図 土壌出土遺物 (53)

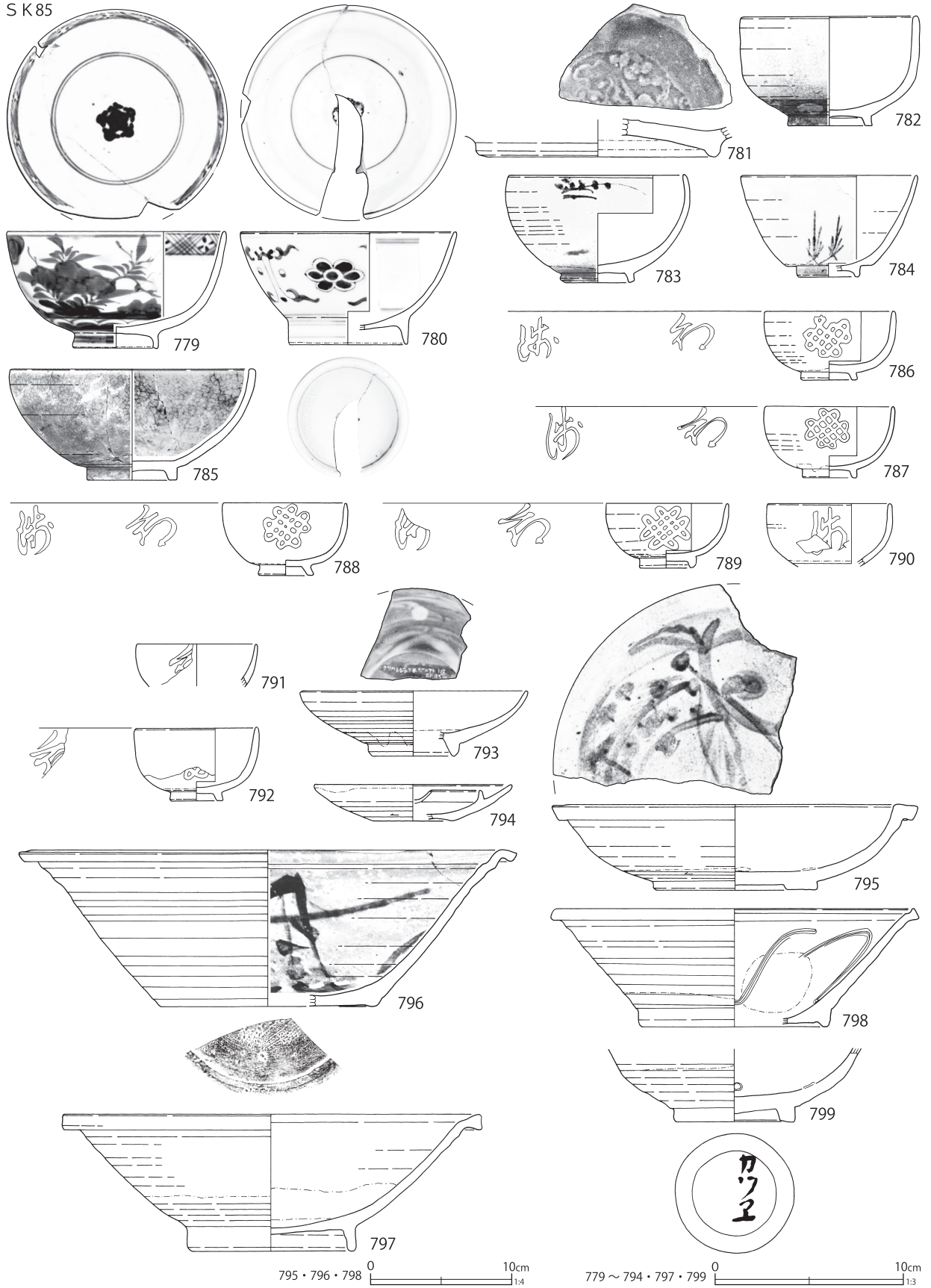
土壌の遺物と接合した。組物の皿類が多く出土したのが特色で、2個体以上の同形同文の磁器皿は原則図示した。515・516の皿と518～524の磁器皿は、他の遺構に同文資料が見当たらない。527の瀬戸美濃系磁器植木鉢は表採の大破片と接合しており、後世の混入であろう。531は板状の耳が付く焙烙で、栗橋宿跡での類例は極めて少ない。

被熱遺物は19世紀前葉までのもので、文化・文政期の火災処理に伴う土壌と推定される。

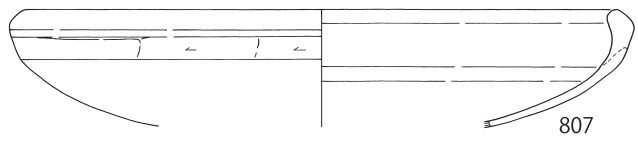
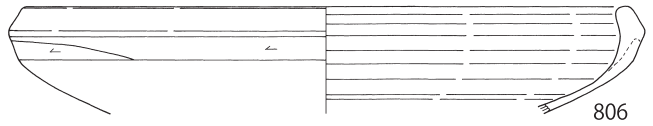
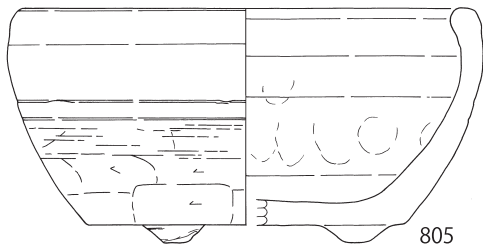
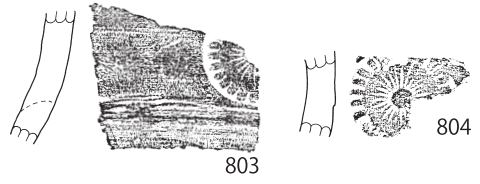
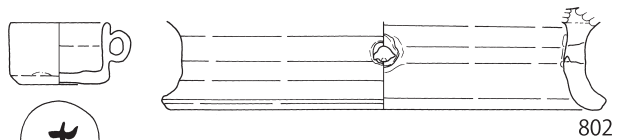
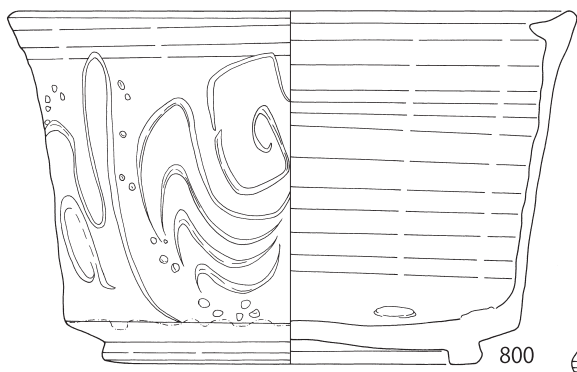
第55号土壌 (第103図)

C6-A1グリッドに位置する。長軸1.14mとやや小形の火災処理土壌である。瀬戸美濃系磁器端反碗と蓋 (第164図549～554) の複数個体に被熱が認められる。肥前系磁器八角鉢 (558・

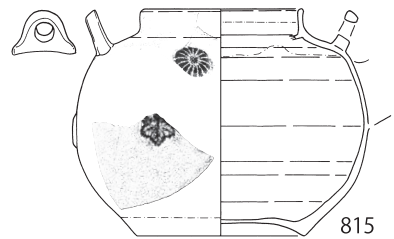
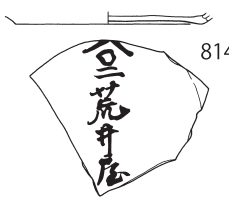
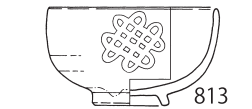
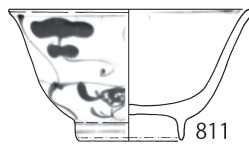
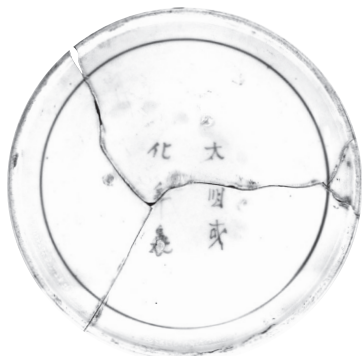
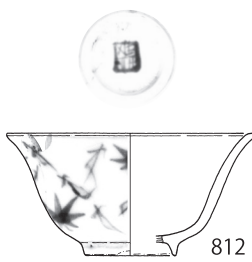
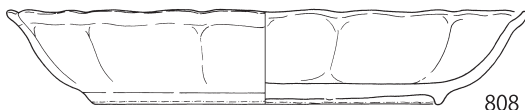
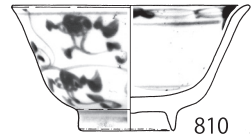
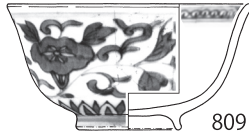
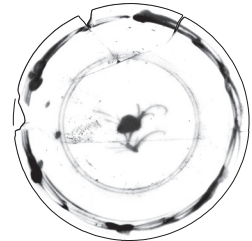
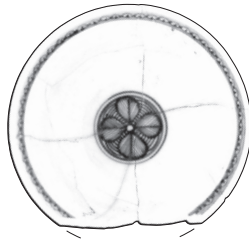
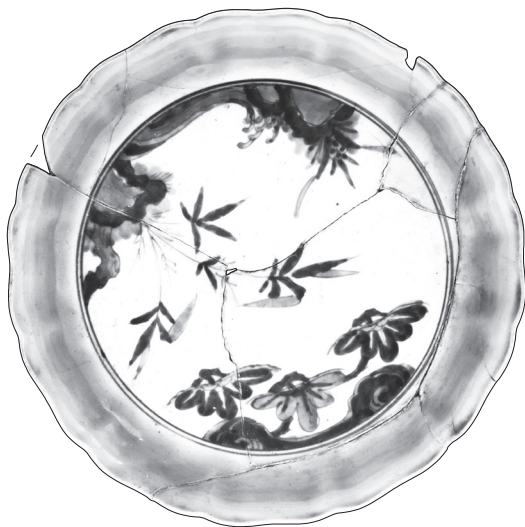
S K85



第 177 図 土壙出土遺物 (54)

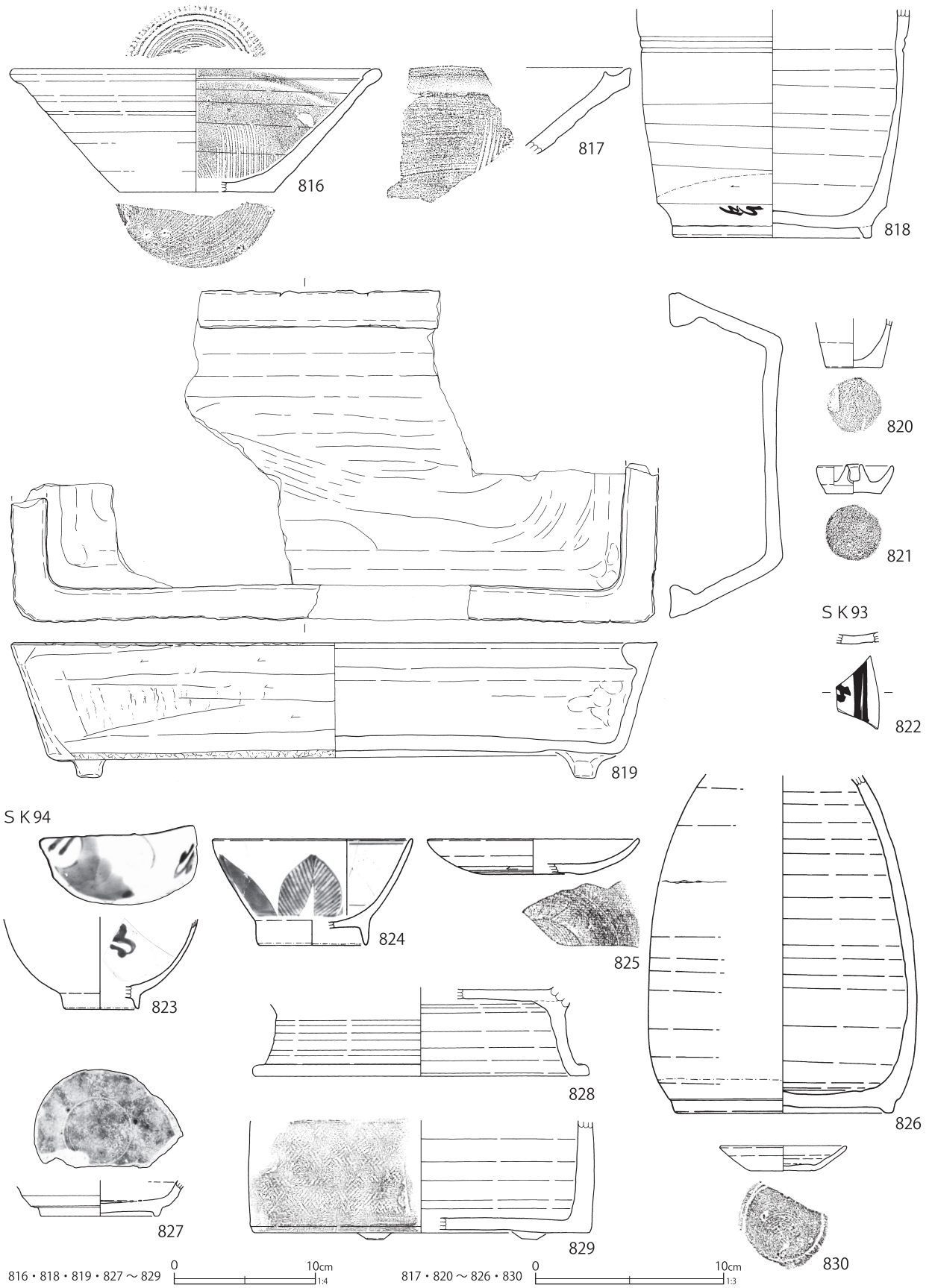


SK 86



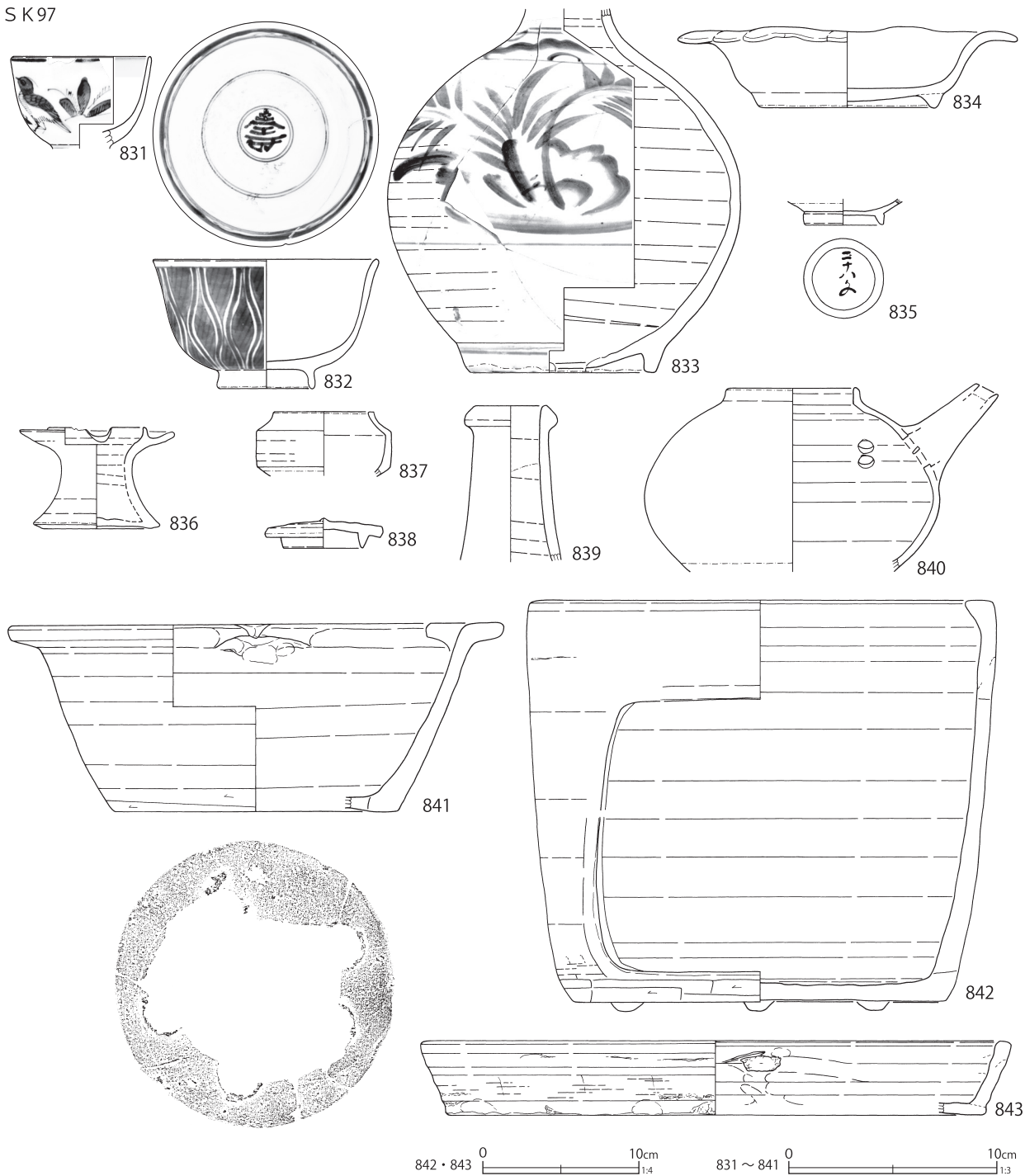
0 10cm 1/4 800・802・806~808 0 10cm 1/3 801・803・805・809~815

第 178 图 土壤出土遺物 (55)



第 179 图 土壙出土遺物 (56)

SK97



第180図 土壇出土遺物 (57)

559) の被熱個体も多い。磁器に多角形の鉢が多い点は第25号土壇の様相と共通する。

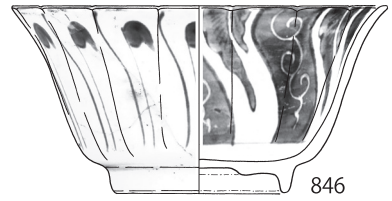
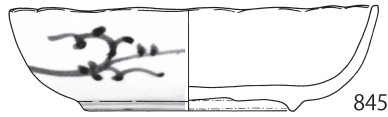
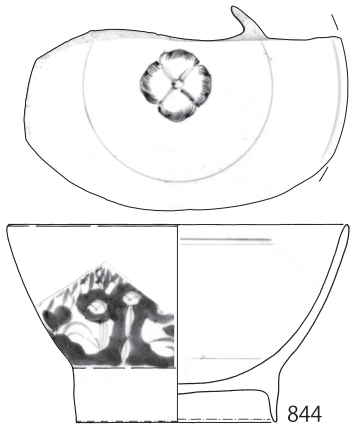
出土遺物より19世紀前葉の火災に伴う土壇と考えられる。

第65号土壇 (第103図)

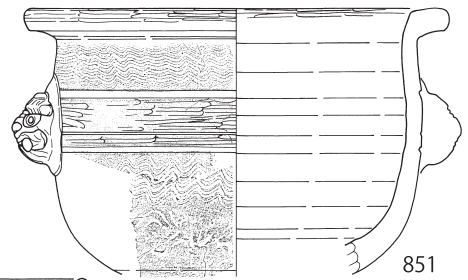
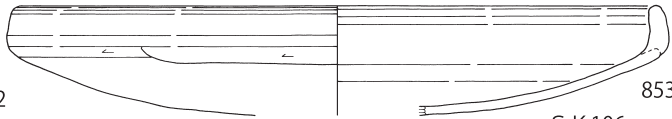
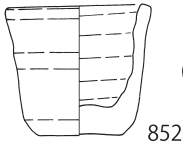
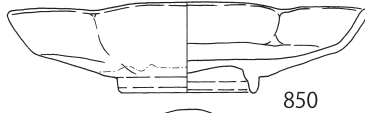
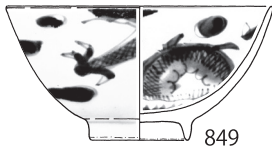
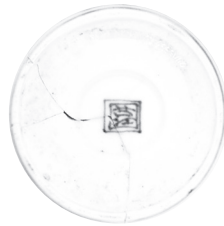
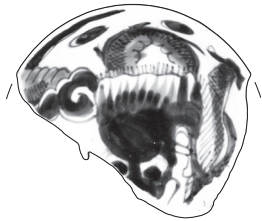
C6-A2・B2グリッドに位置する。楕円形

に近い不整形の土壇である。第144号土壇と重複し、本跡が新しいことが土層で確認されているが、第144号土壇にはかなりの近代遺物が混在しており、両者の遺構形状・範囲には疑問も残る。なお、本跡にも若干の近代陶磁器が含まれ、遺構範囲に攪乱が存在した可能性がある。

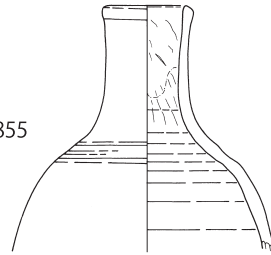
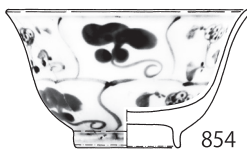
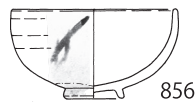
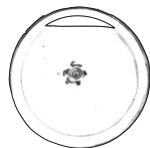
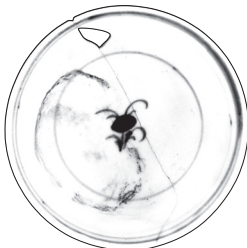
S K 98



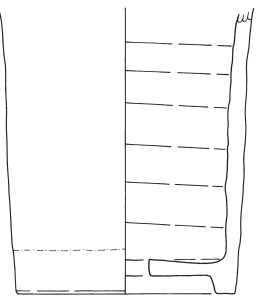
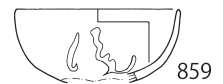
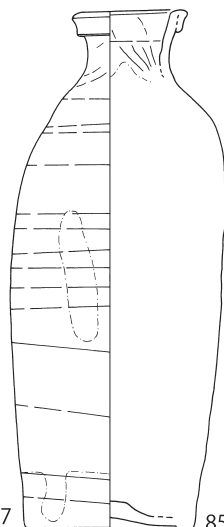
S K 100



S K 101



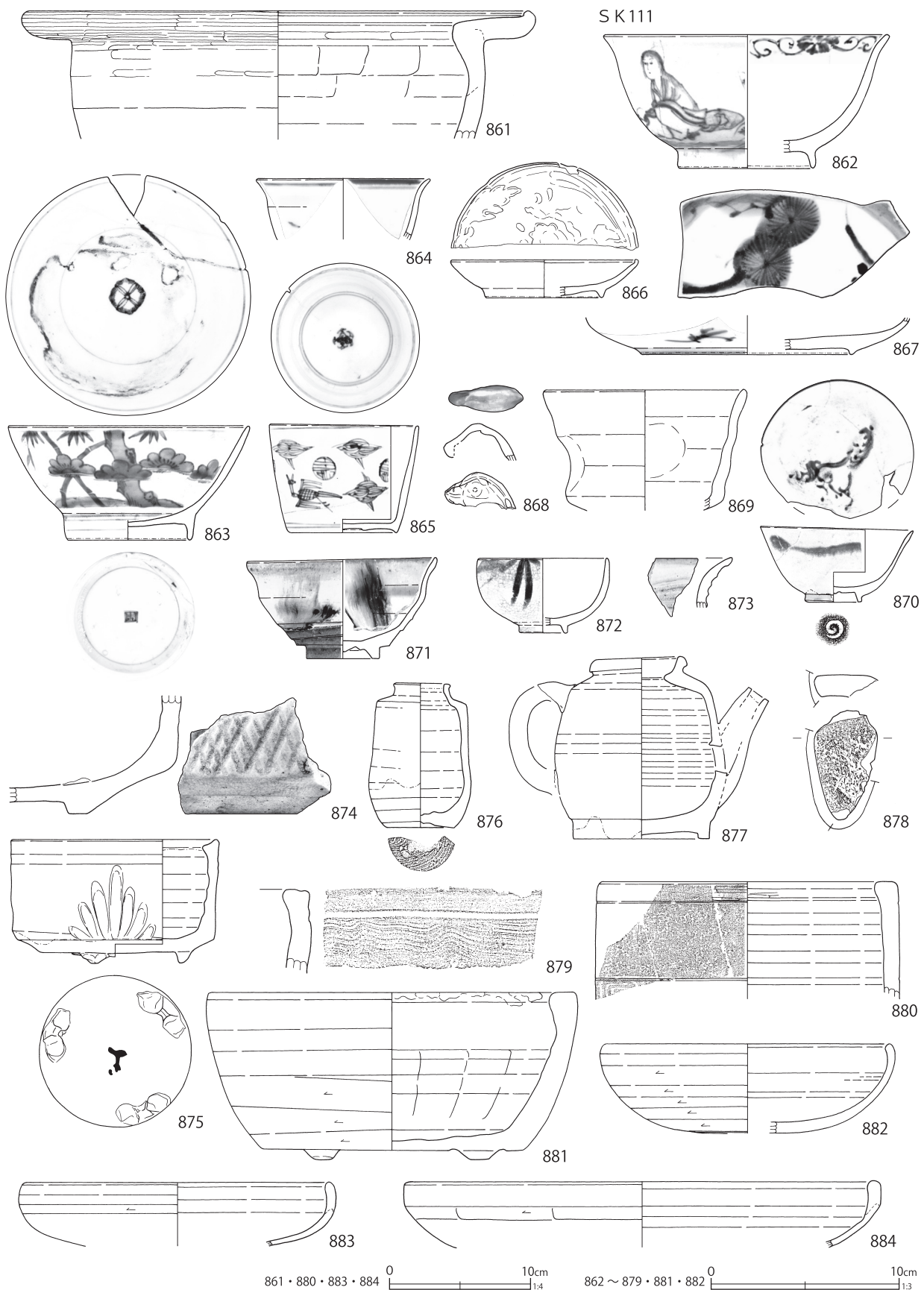
S K 106



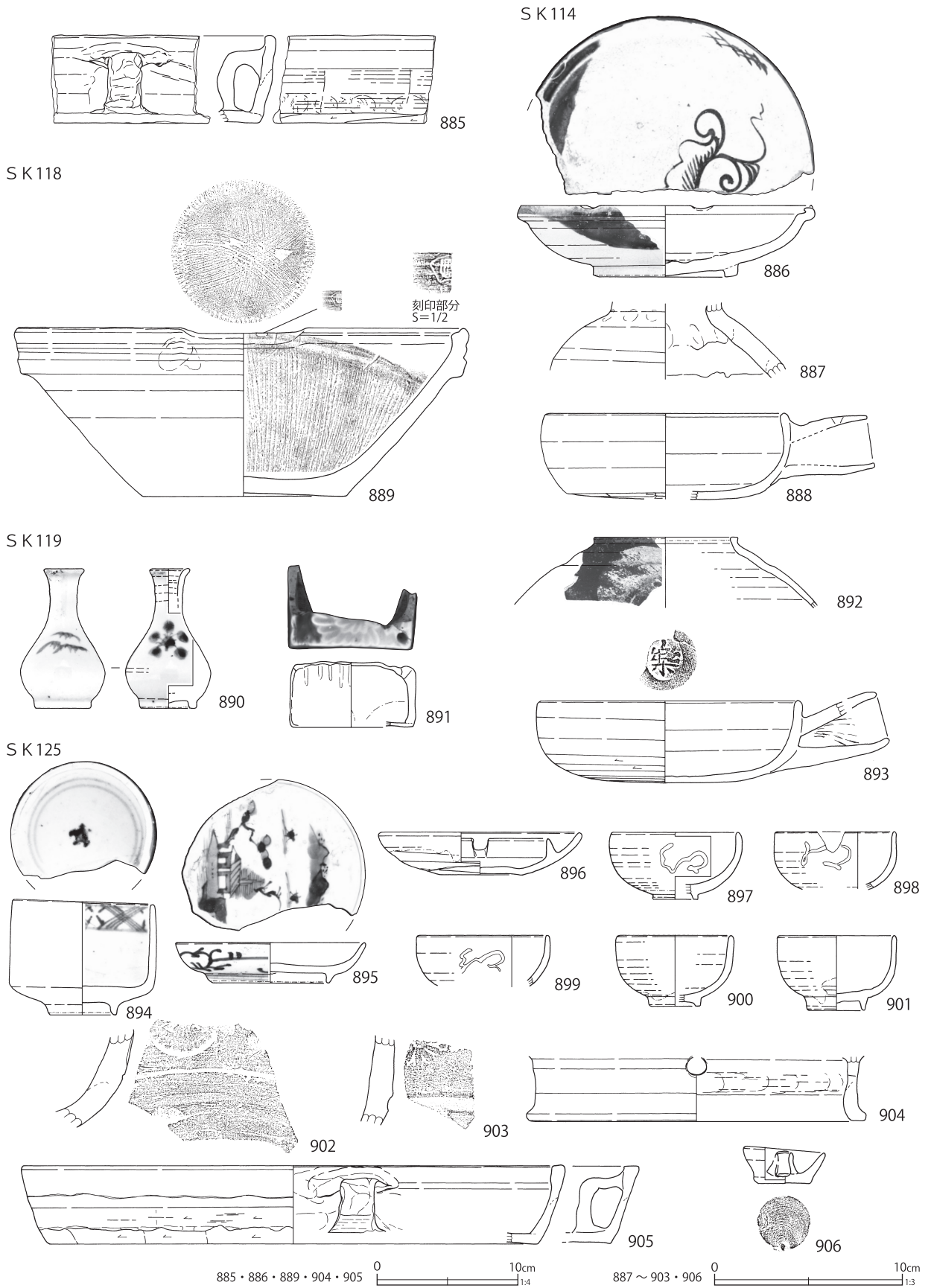
0 10cm 1:4

0 10cm 1:3

第 181 图 土壙出土遺物 (58)

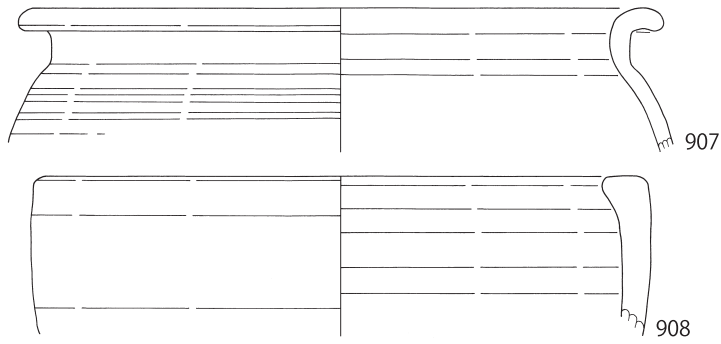


第 182 図 土壙出土遺物 (59)

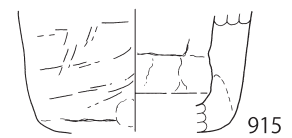
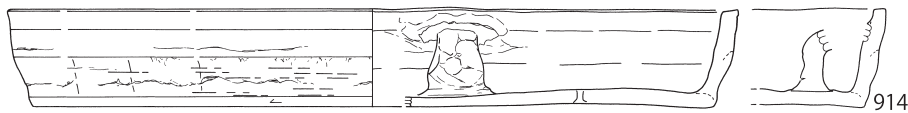
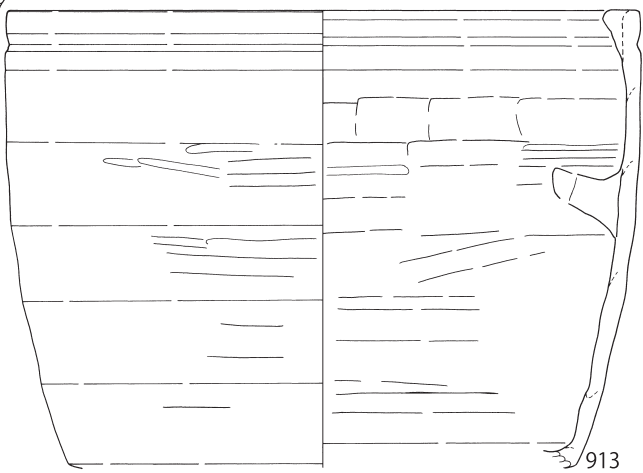
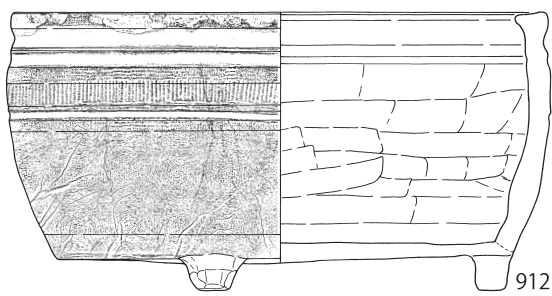
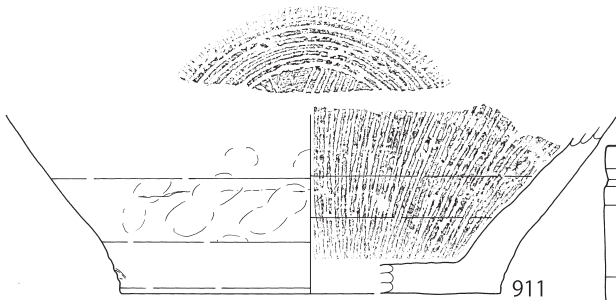
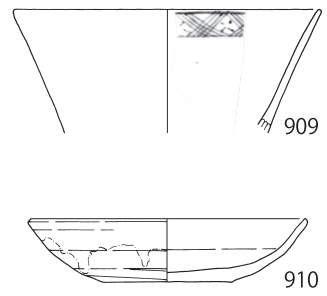


第183图 土壙出土遺物(60)

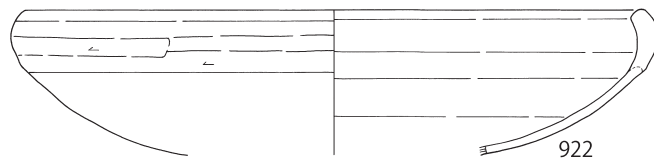
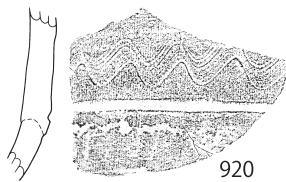
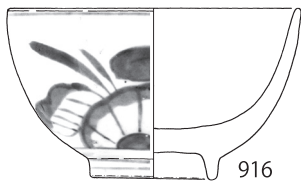
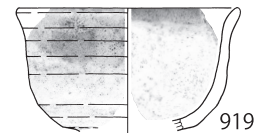
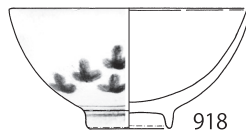
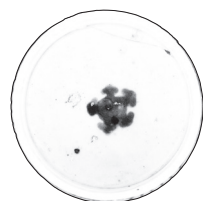
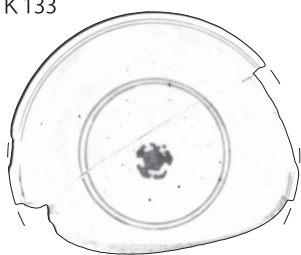
SK127



SK131



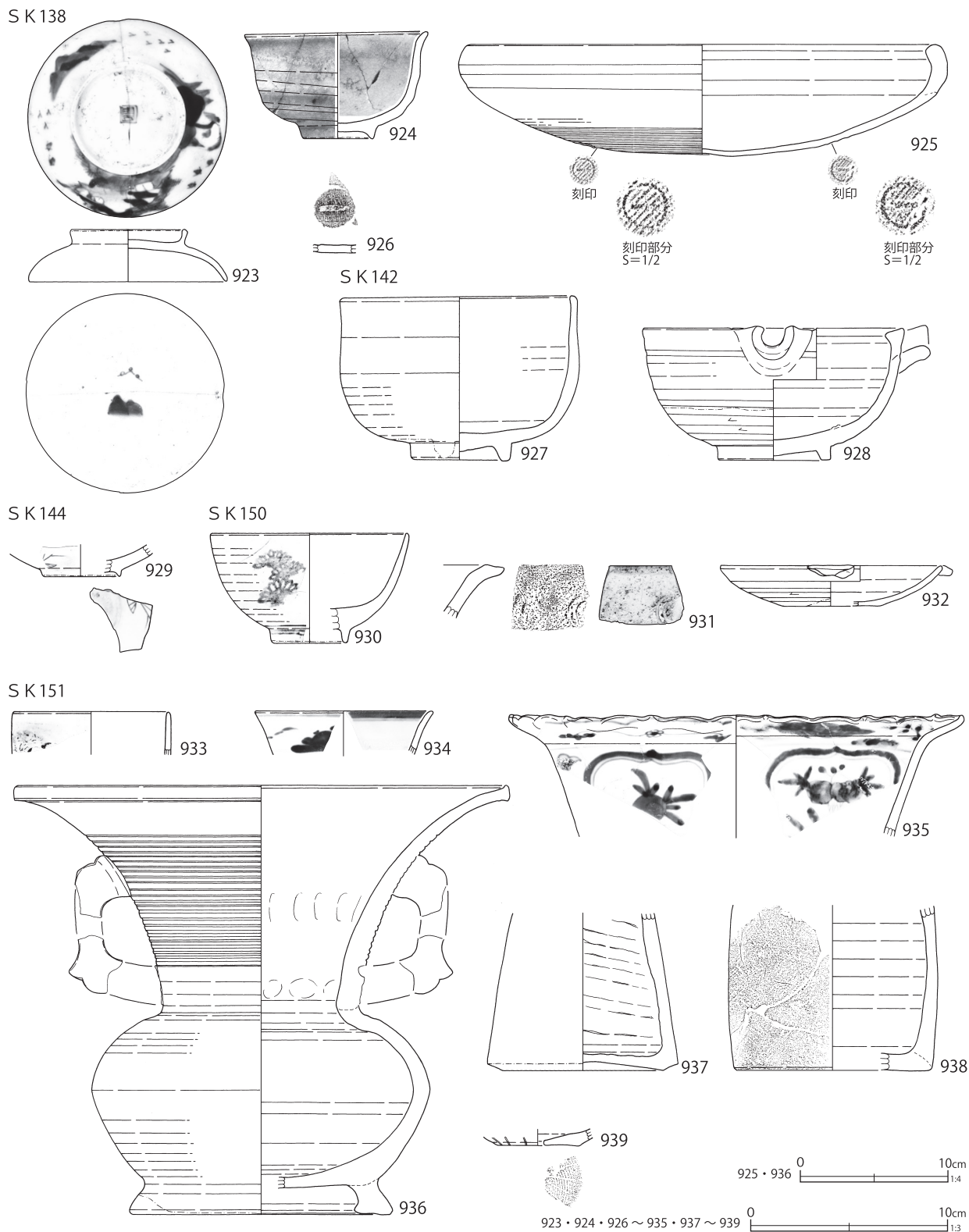
SK133



912 ~ 914 · 922 0 10cm 1/4

907 ~ 911 · 915 ~ 921 0 10cm 1/3

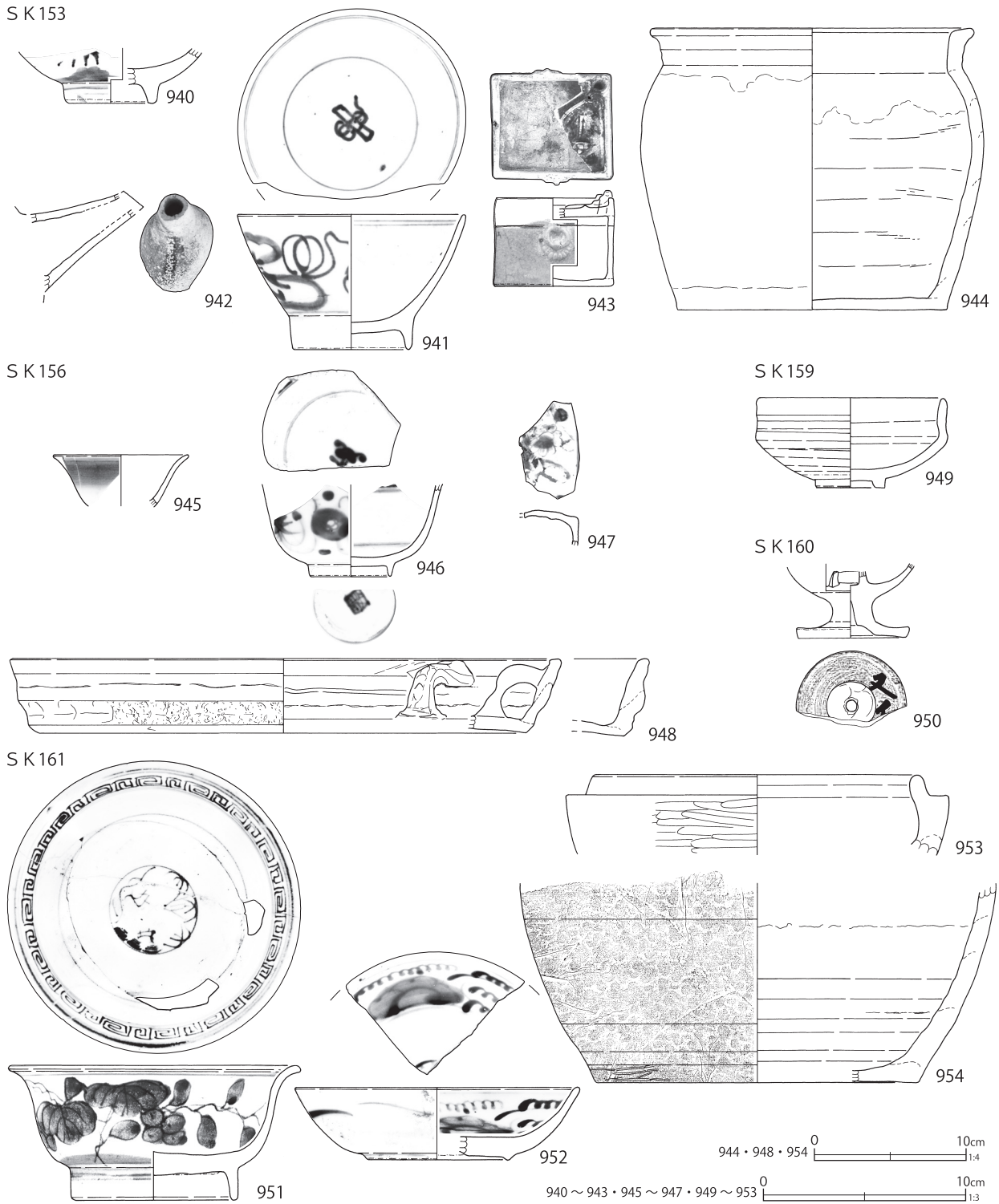
第 184 図 土壙出土遺物 (61)



第 185 図 土壙出土遺物 (62)

第169・170図637～674は出土した陶磁器で、瀬戸美濃系磁器に大振りの湯呑形碗（644）がある。654～660に示した「紅浅」銘上絵付けの京

都系陶器坏が多い。第226図6は薄い環状の土製品で穿孔がみられる。外面周囲には太鼓の鉾のような表現がある。第245・246図84～112に木製品



第 186 図 土壇出土遺物 (63)

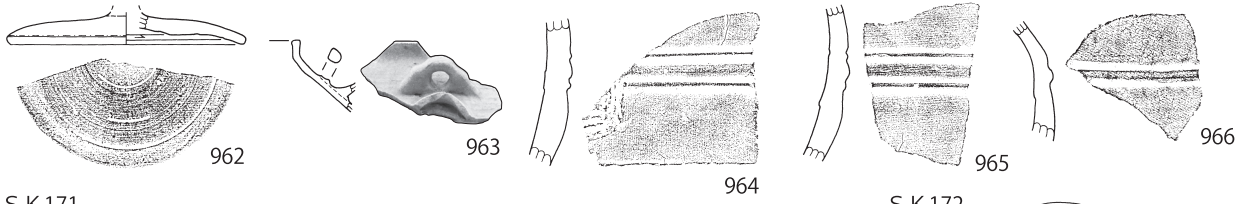
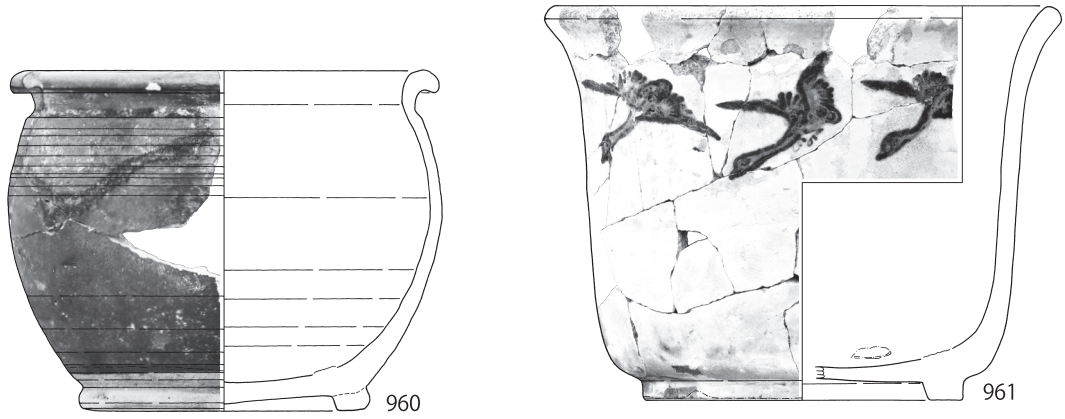
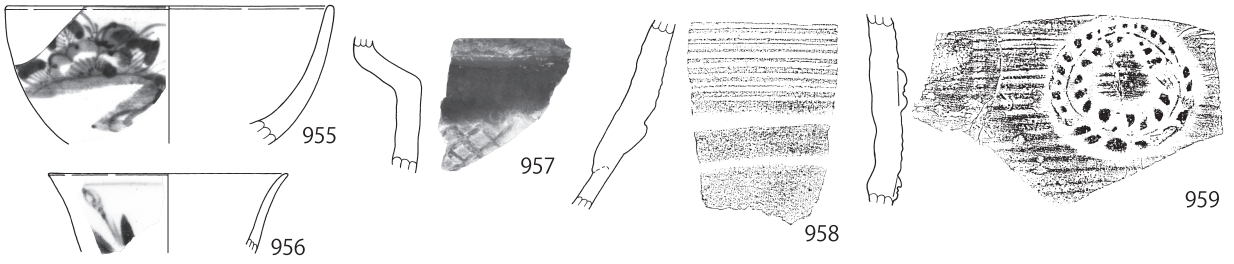
を示す。91の漆碗には黒漆で「本」と書かれる。同様の例は第76号土壇の漆碗にみられ（第247図136）、池状遺構出土の磁器皿にも「本」の墨書がある（第72図10）。

陶磁器の様相から19世紀初頭頃に帰属する。

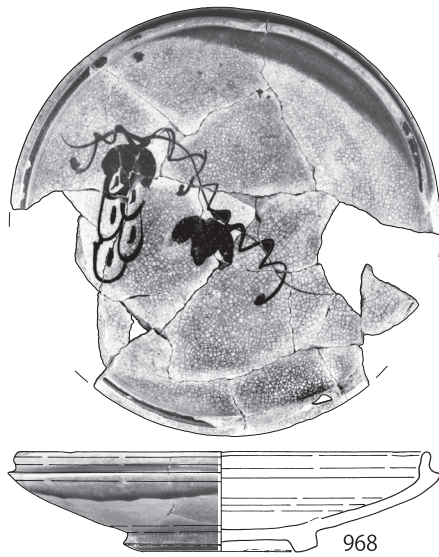
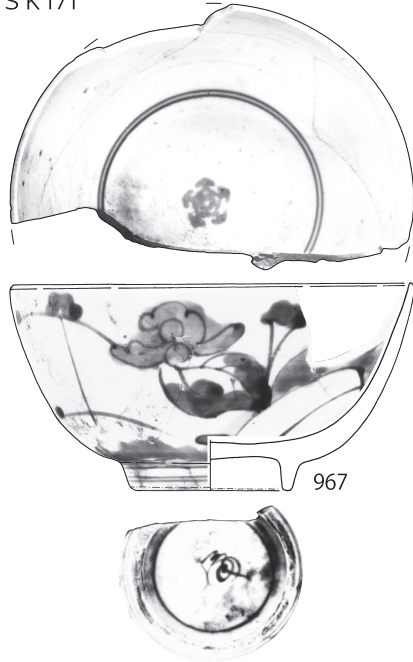
第75号土壇（第105図）

C 6-A 2・3グリッドに位置する方形の土壇で、覆土には板を中心とする木材が含まれる。陶

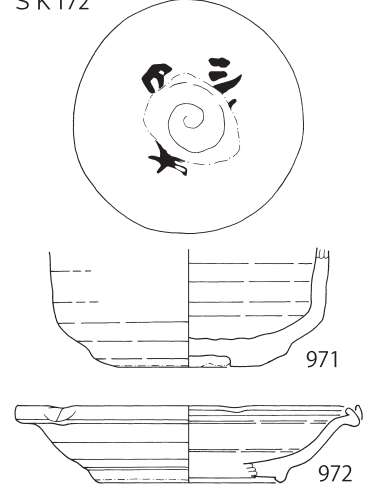
S K 166



S K 171



S K 172

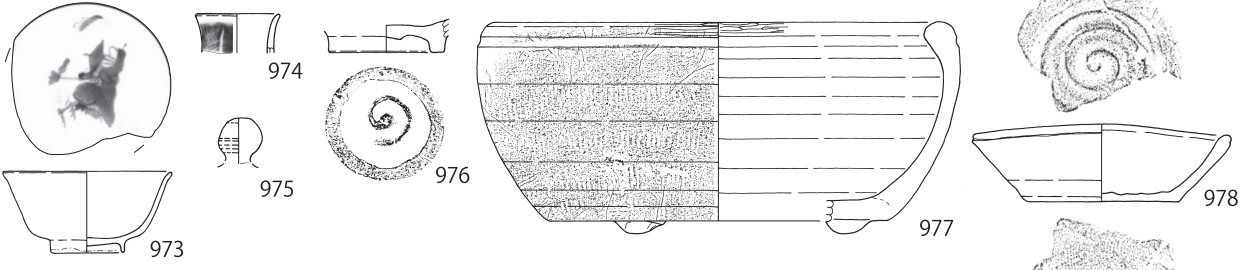


961・968～970 0 10cm 1/4

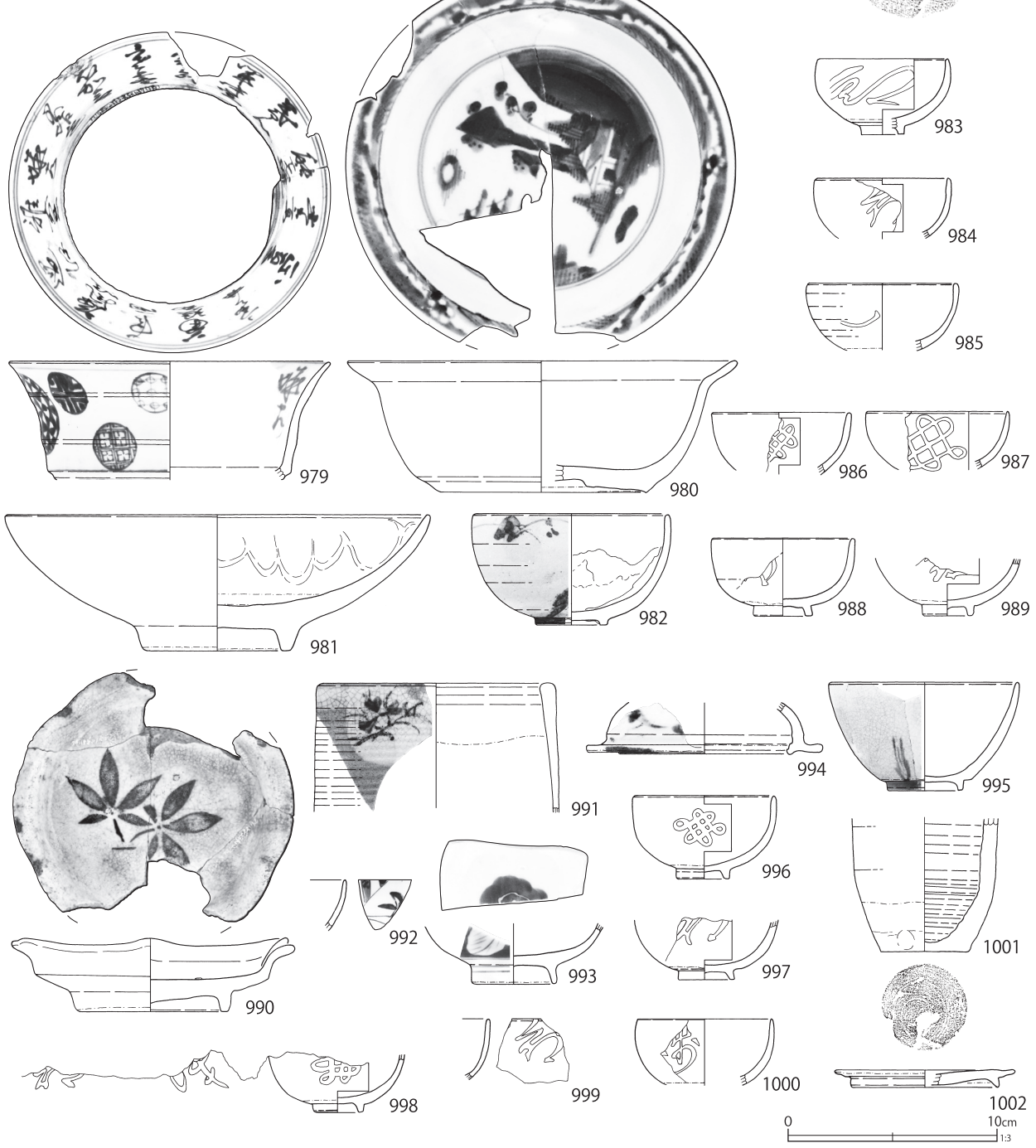
955～960・962～967 0 10cm 1/3

第 187 图 土壙出土遺物 (64)

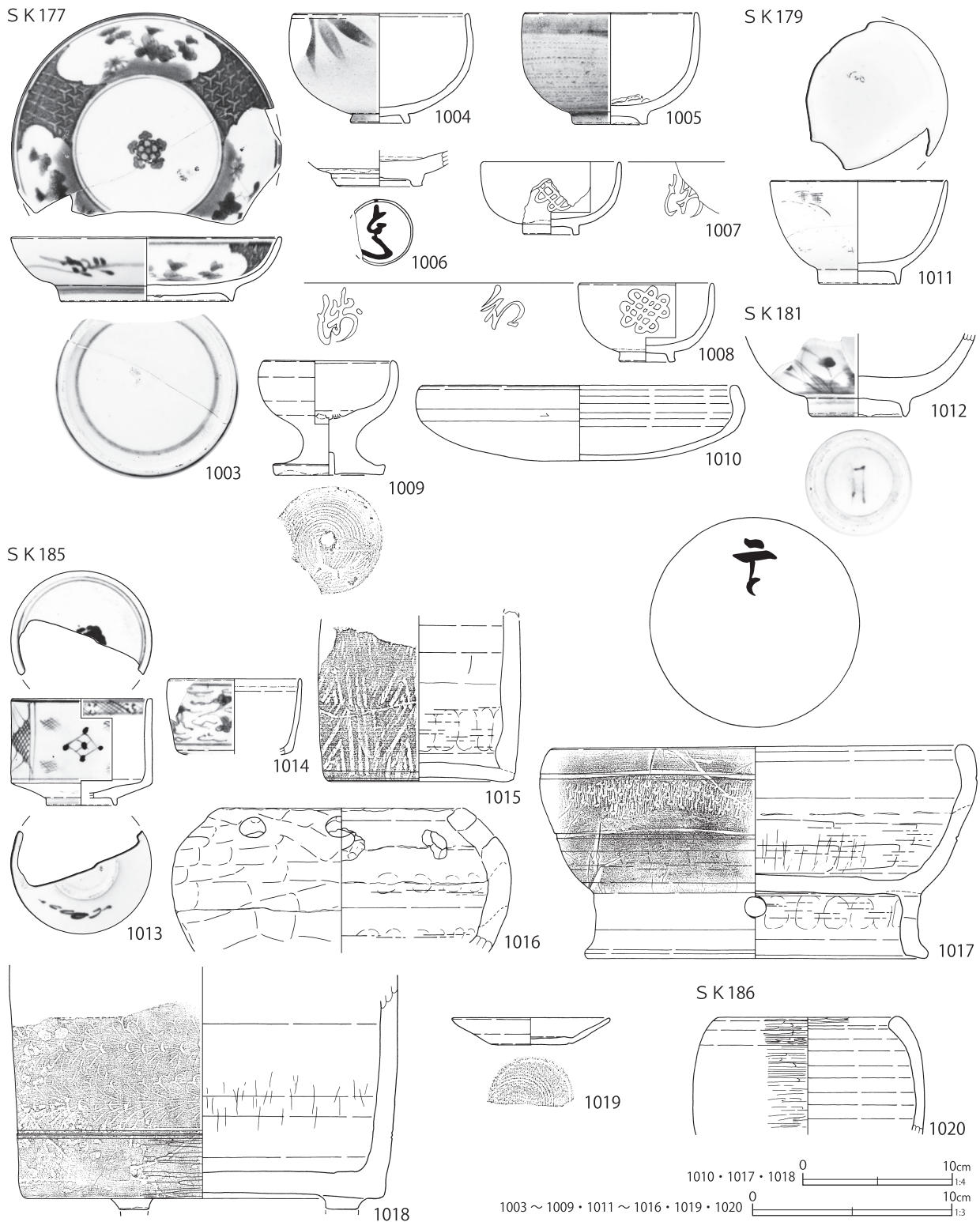
SK 175



SK 176



第 188 図 土壙出土遺物 (65)



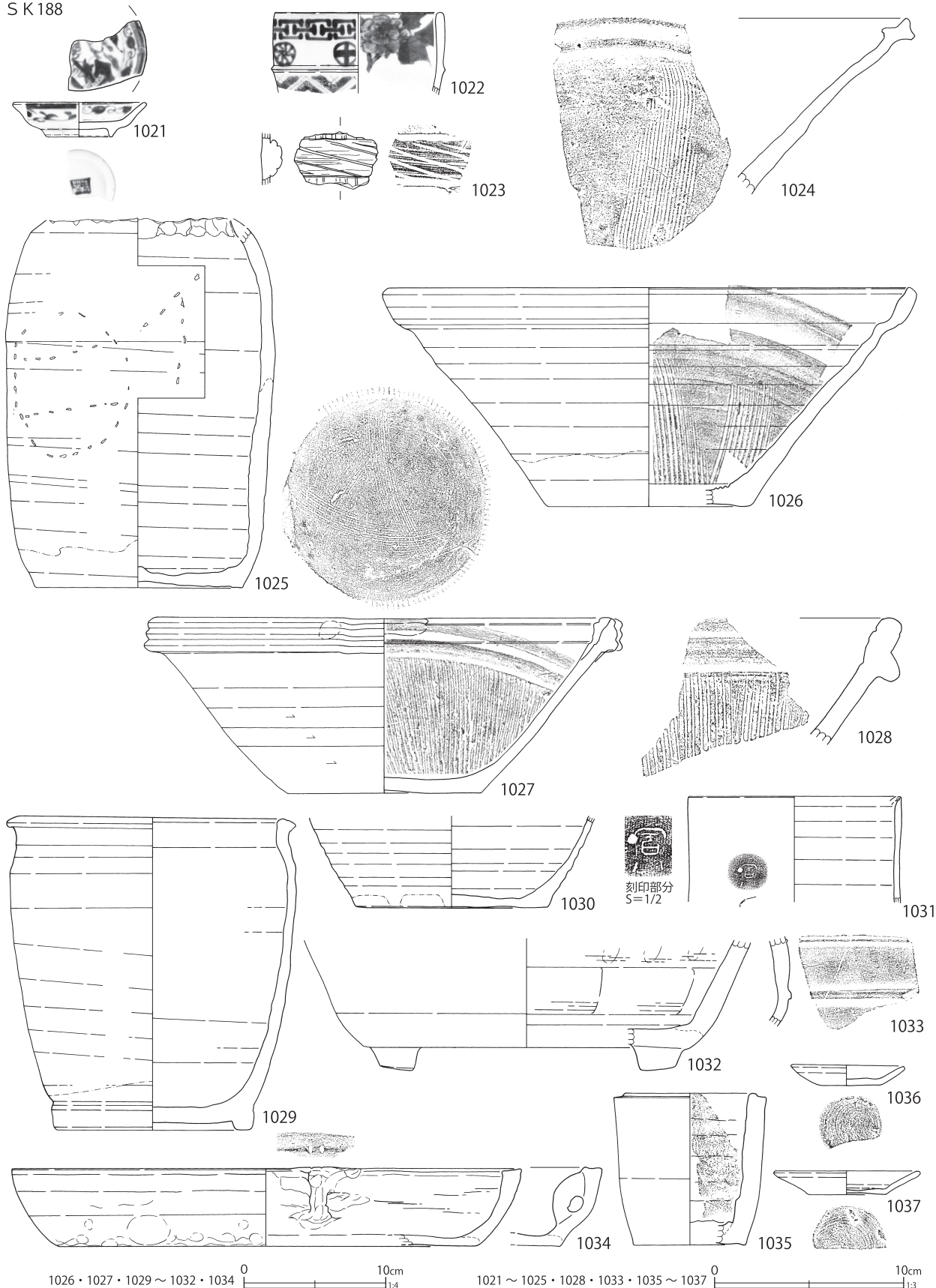
第 189 図 土壇出土遺物 (66)

磁器は瀬戸美濃系磁器の碗・蓋・坏や被熱した陶器青緑釉土瓶がみられたことから、19世紀前葉の遺構と考えられる。

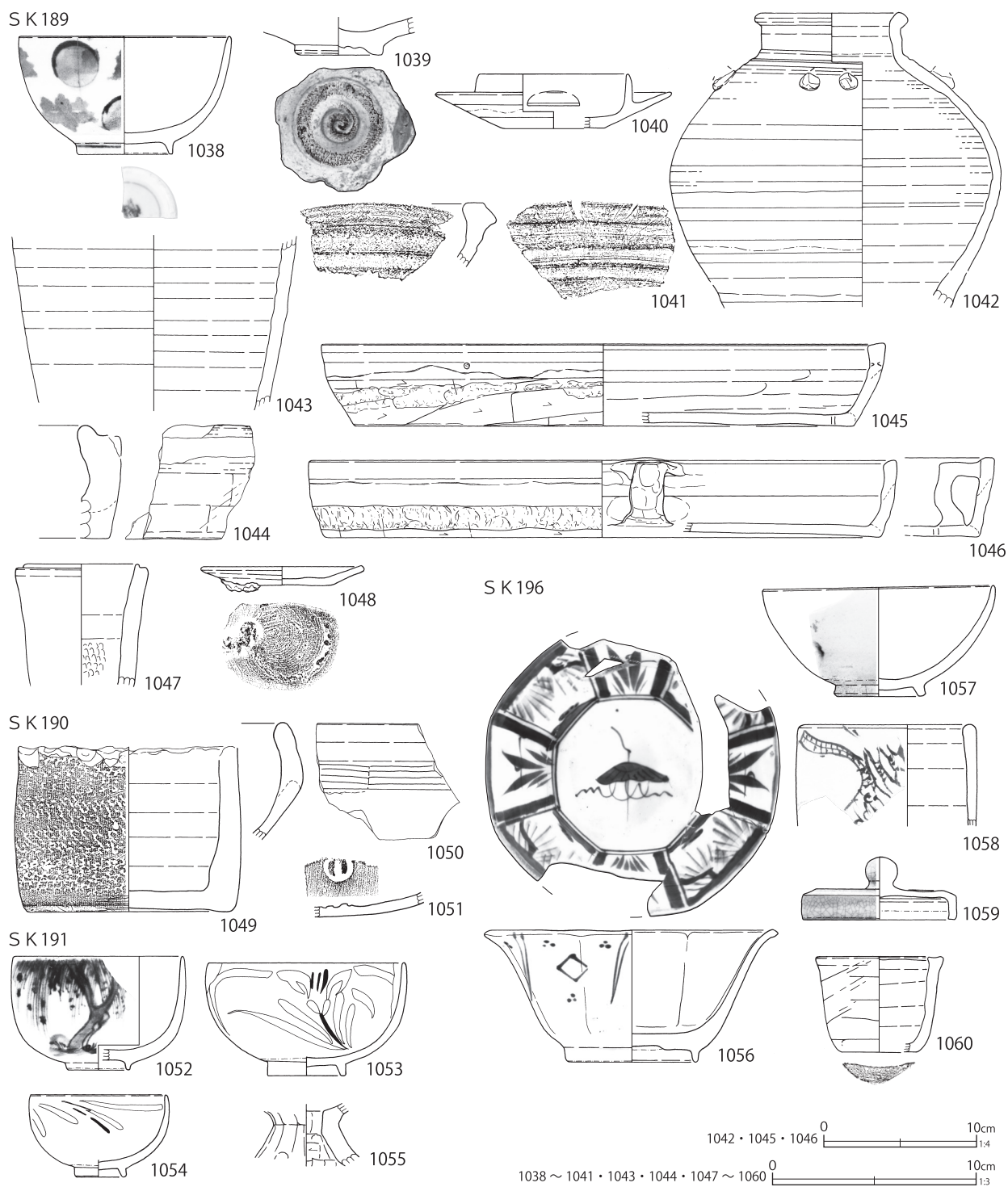
第172図717～724に出土した陶磁器の一部を示

した。第247図134は木製品の玉で髪飾り類と思われる。孔が貫通しており軸とは別作りと思われる。なお、玉と軸が一体化して彫刻されたものに第97号土壇出土例（第248図155）がある。第261

S K 188



第 190 图 土壤出土遺物 (67)



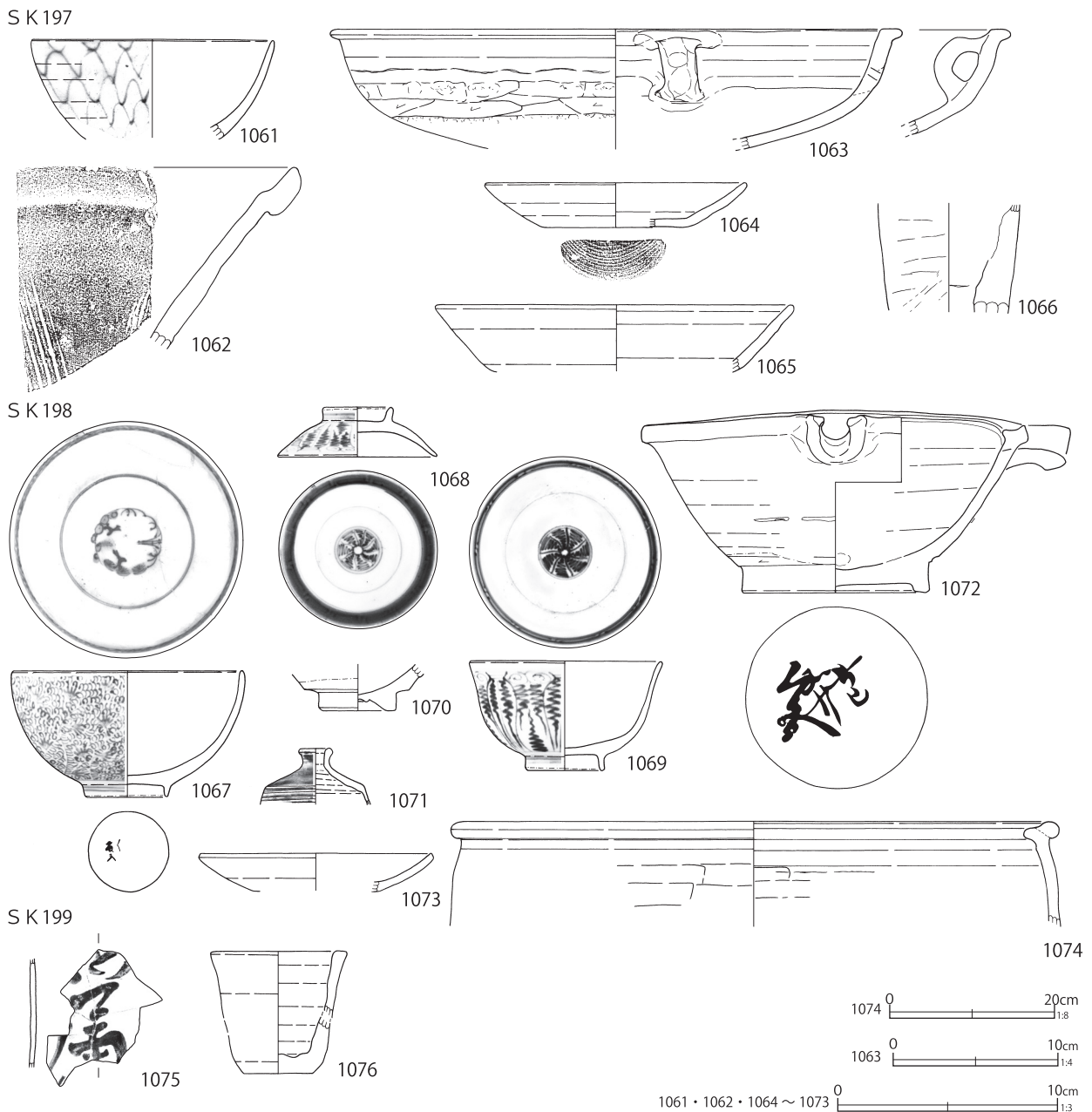
第 191 図 土壌出土遺物 (68)

図23は切石石材の破片で、刃幅の広い工具による成形時の加工痕が顕著にみられる。

第160・161号土壌 (第112図)

C 6-B 2 グリッドに位置する東西に長い楕円形の土壌で、ほぼ平行して検出された。炭化物・

焼土を多く含む覆土 (写真図版20-6) から火災処理土壌と考えられる。第160号土壌の遺物はやや少なかった。第186図950に墨書のある陶器灯火具、第256図40に三角形の透孔がある銅製品を示す。第161号土壌からは被熱した陶磁器が出土



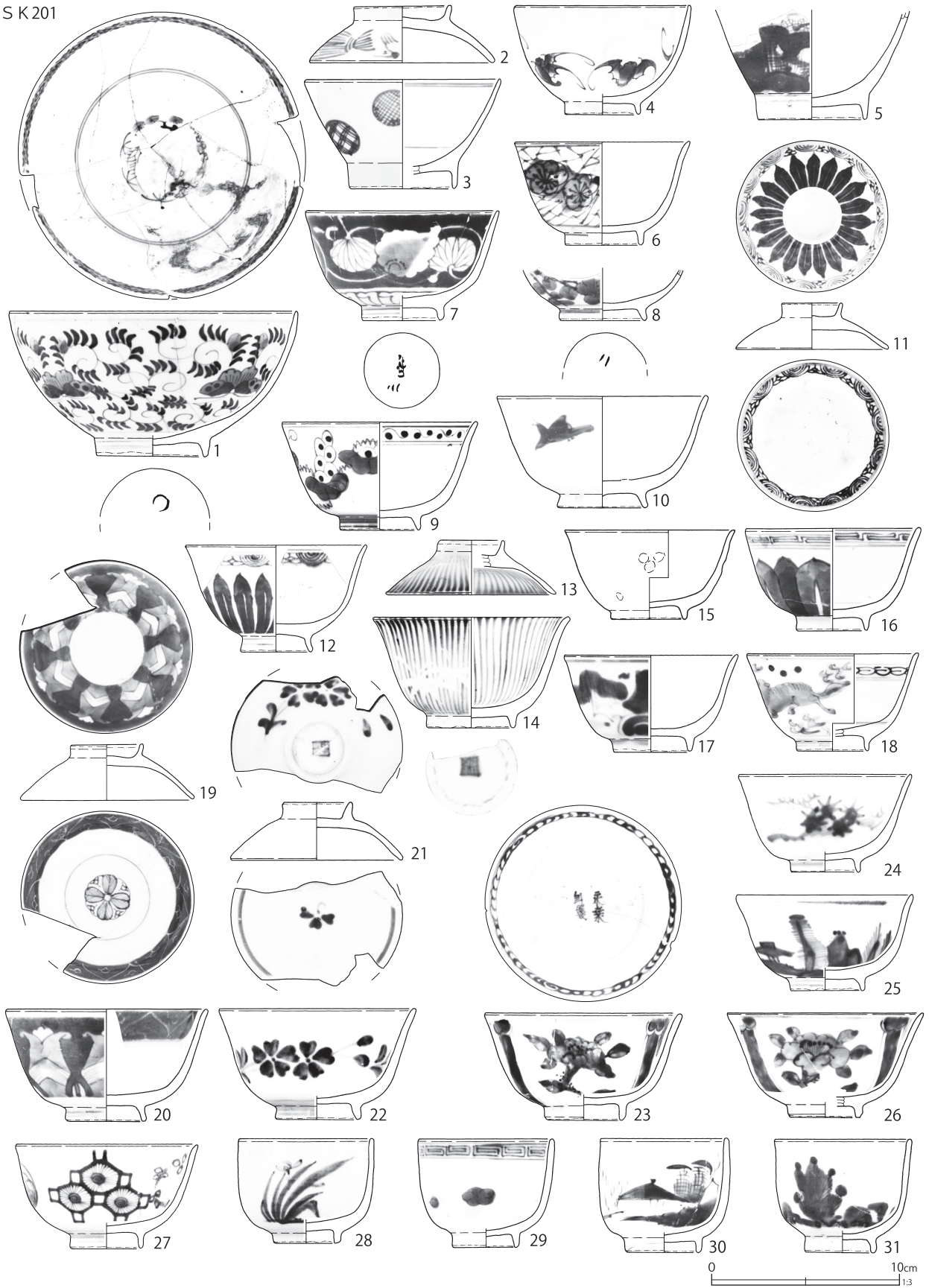
第192図 土壇出土遺物 (69)

した。第186図951～954に一部を示す。非掲載遺物に酸化コバルト染付爛の徳利があるが、後世の混在と考えられる。被熱遺物では陶器青緑釉土瓶等がみられ、文化・文政期の火災に伴うと考えられる。なお、第175号土壇と重複するが、重複関係に関する記録が無い。第175号土壇から文久永宝が出土していることや、陶磁器（第188図973～978）の様相から第160・161号土壇が古いと考えられる。

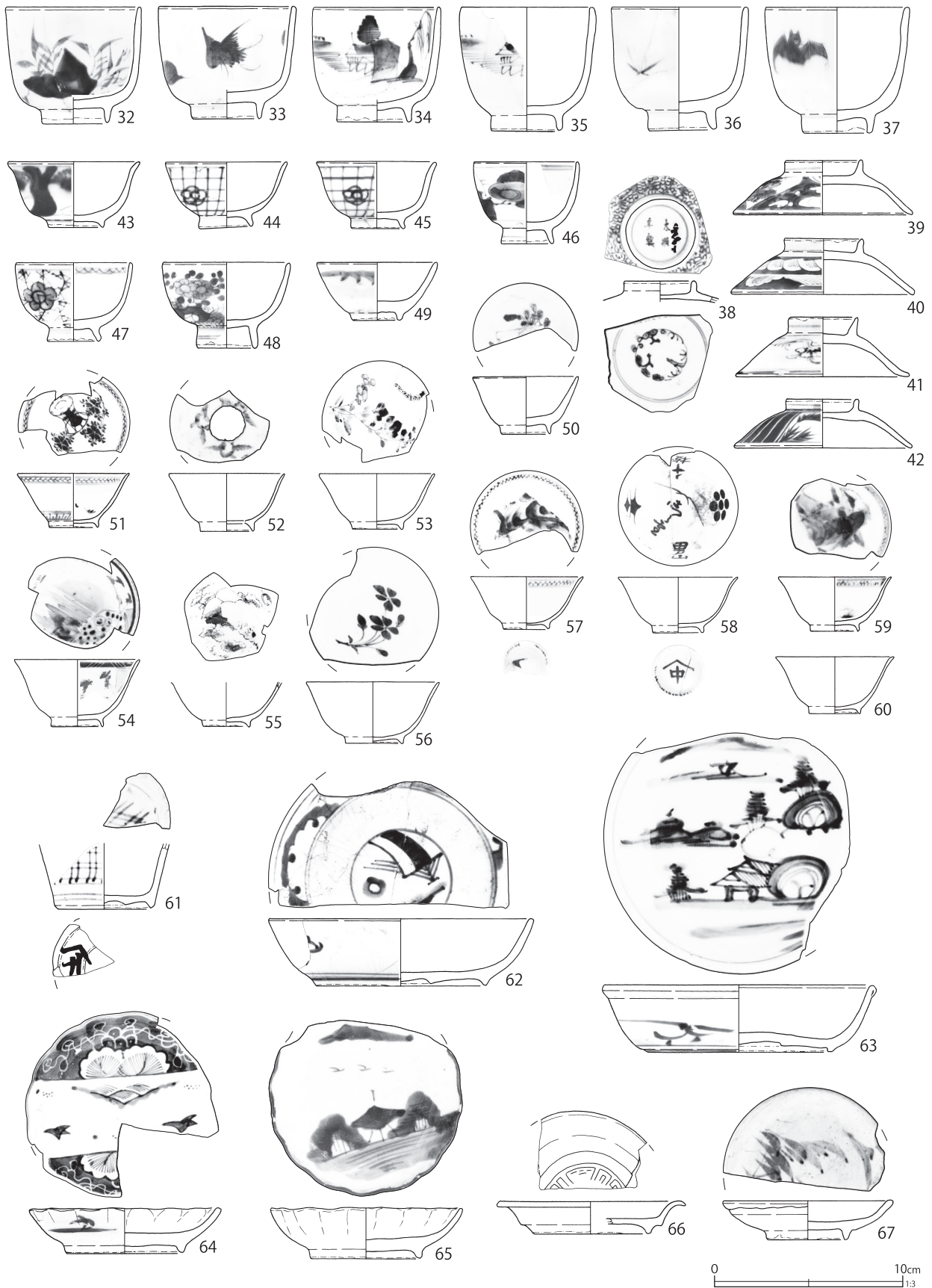
第188・189号土壇 (第111図)

本陣出入口部分に想定されるC6-C3～4、D3・4グリッドに位置する。第188号土壇は大型の長方形土壇である。覆土は東から流れ込む斜方向の堆積で、焼土とシルトが互層をなす(写真図版20-7)。被熱した壁土材が多量に含まれていた。なお、第3号溝跡の延長線上の覆土上層に杭が打ち込まれているので、溝跡より古い土壇と考えられる。

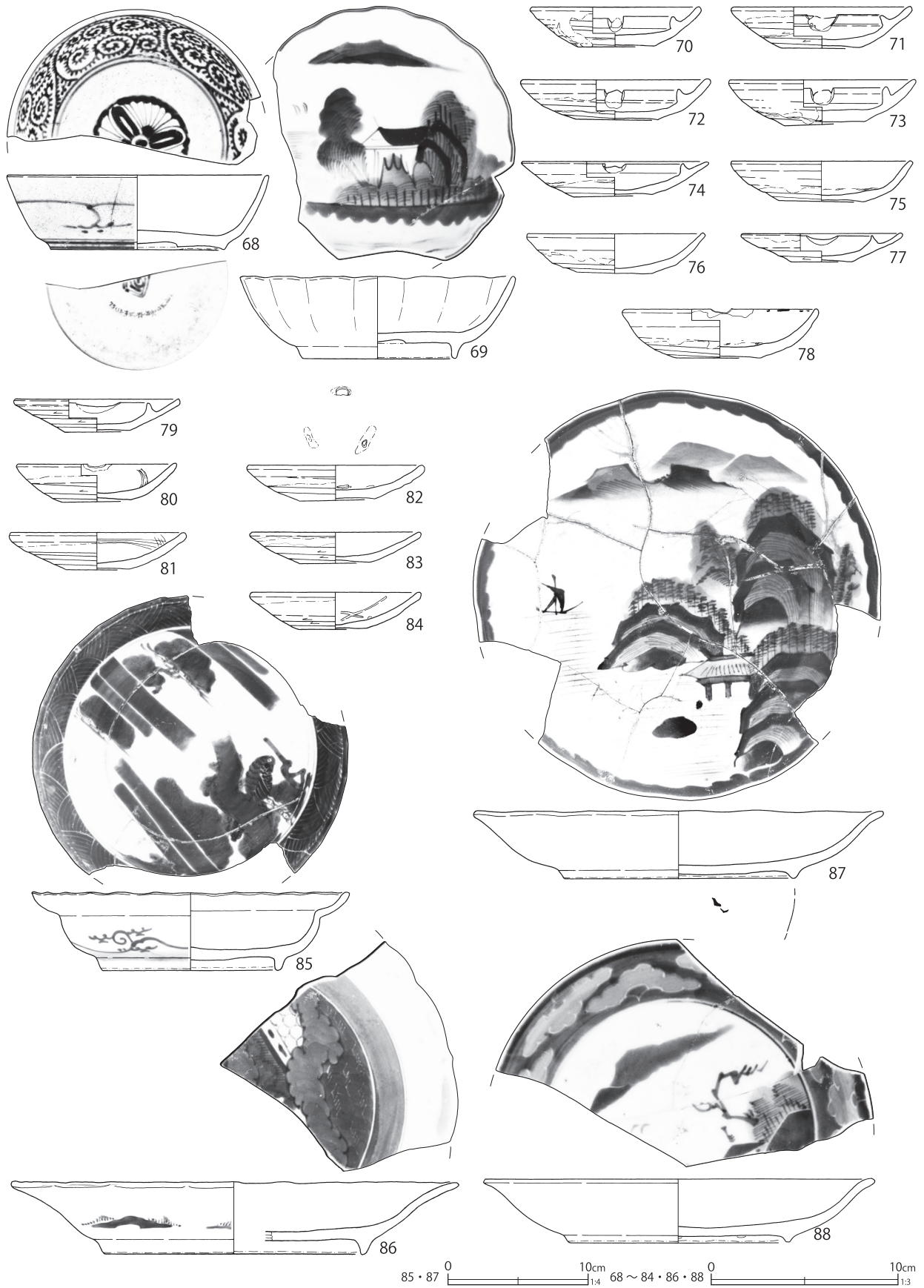
SK201



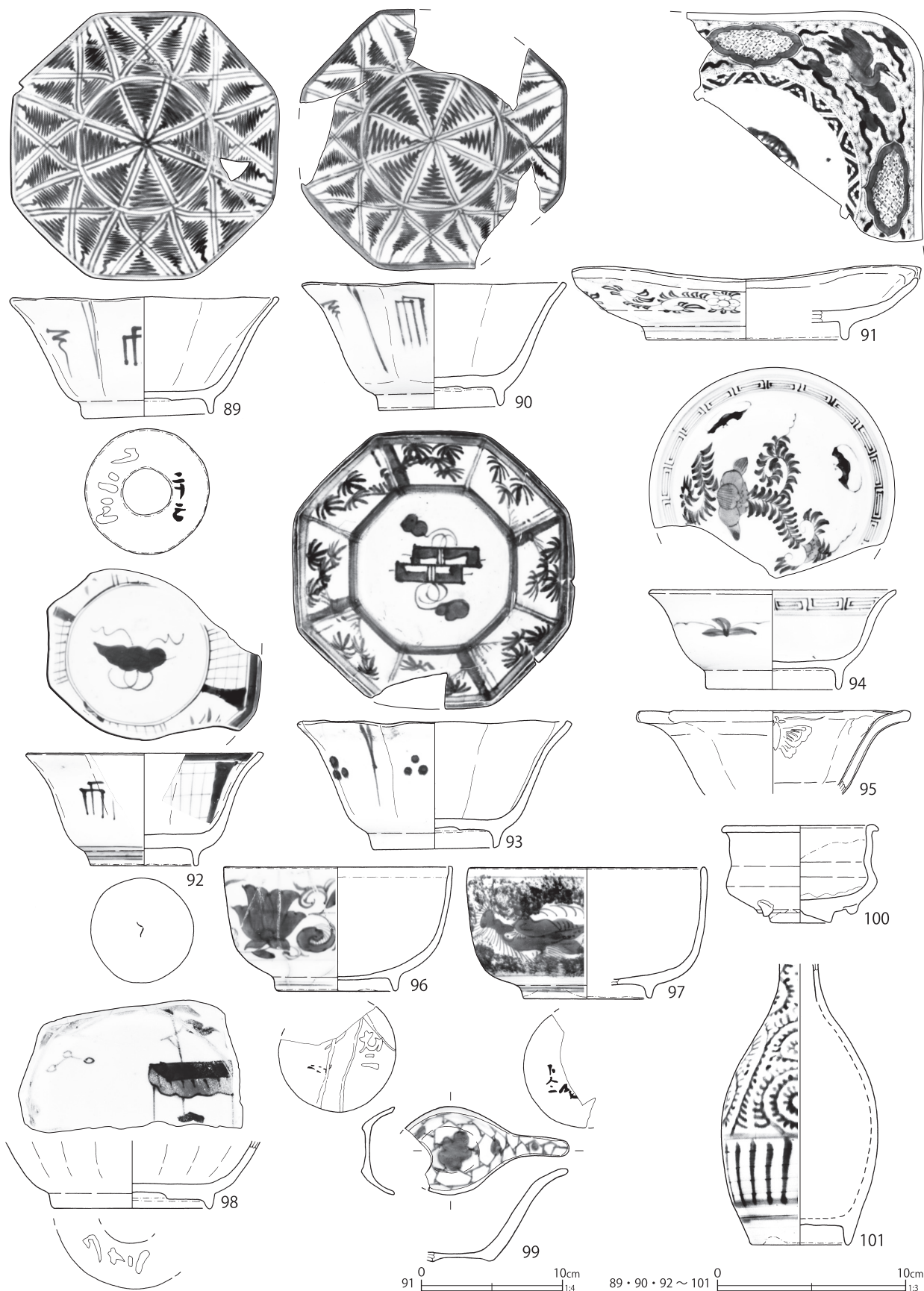
第 193 图 土壙出土遺物 (70)



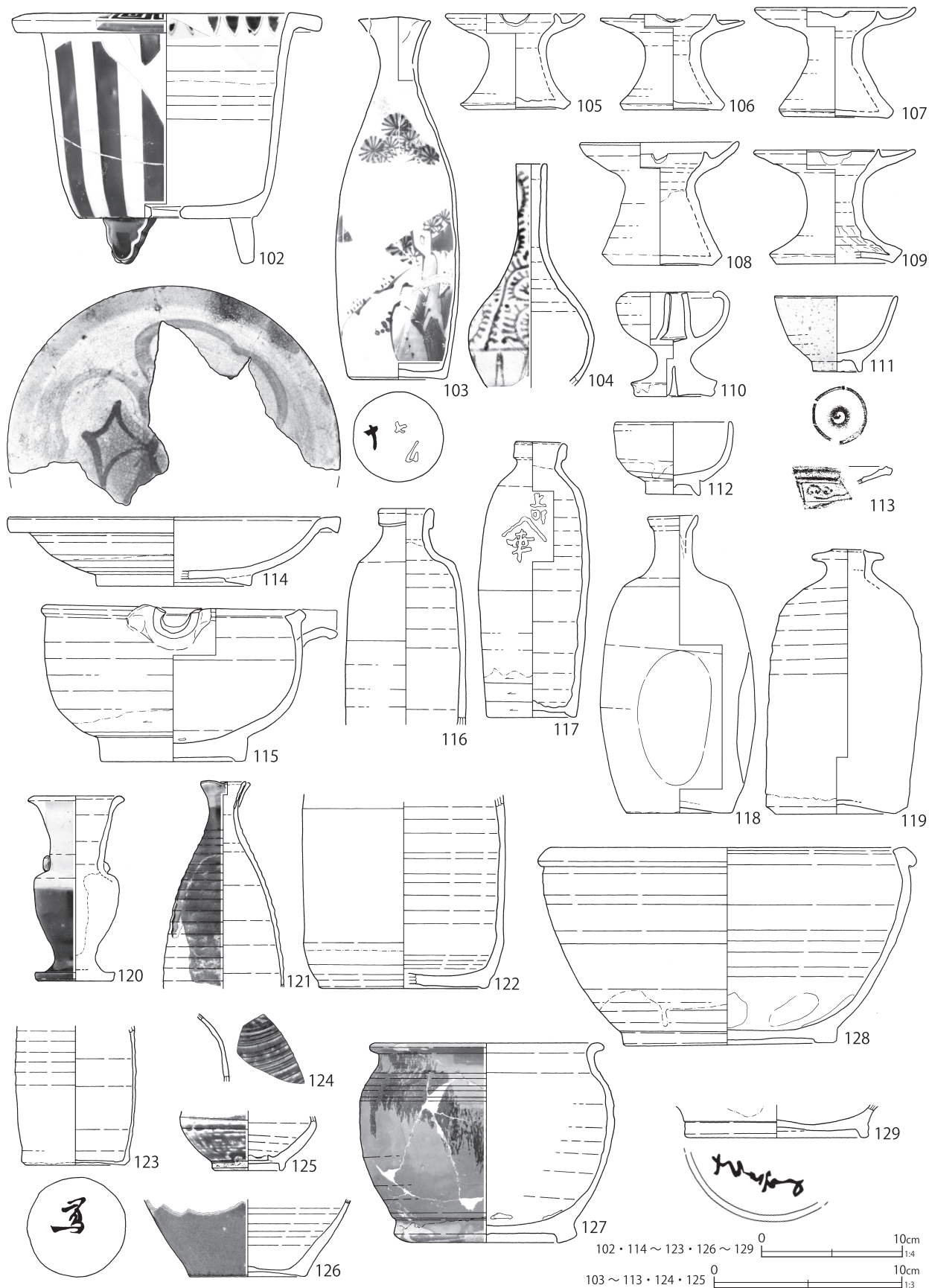
第 194 图 土壤出土遺物 (71)



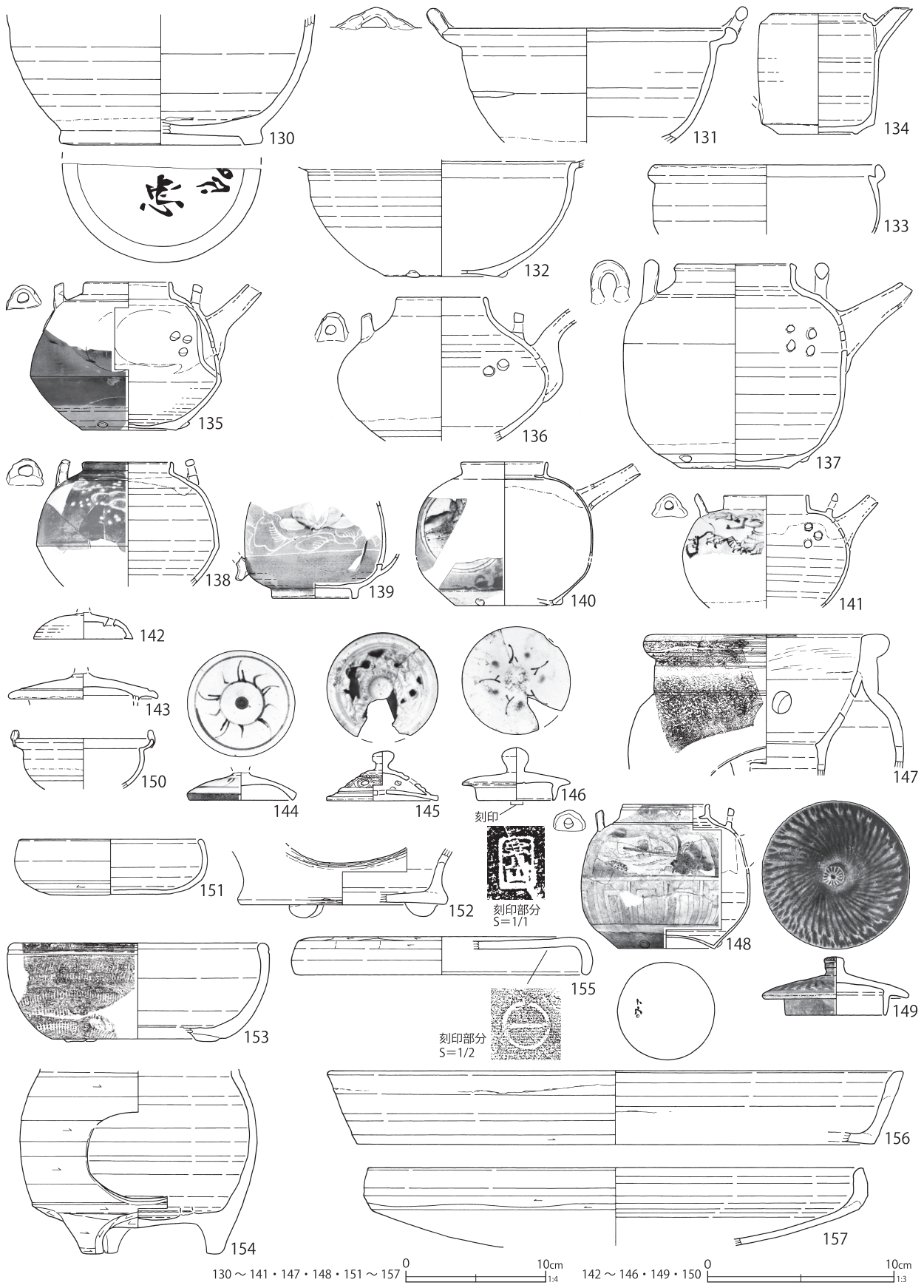
第195图 土壙出土遺物 (72)



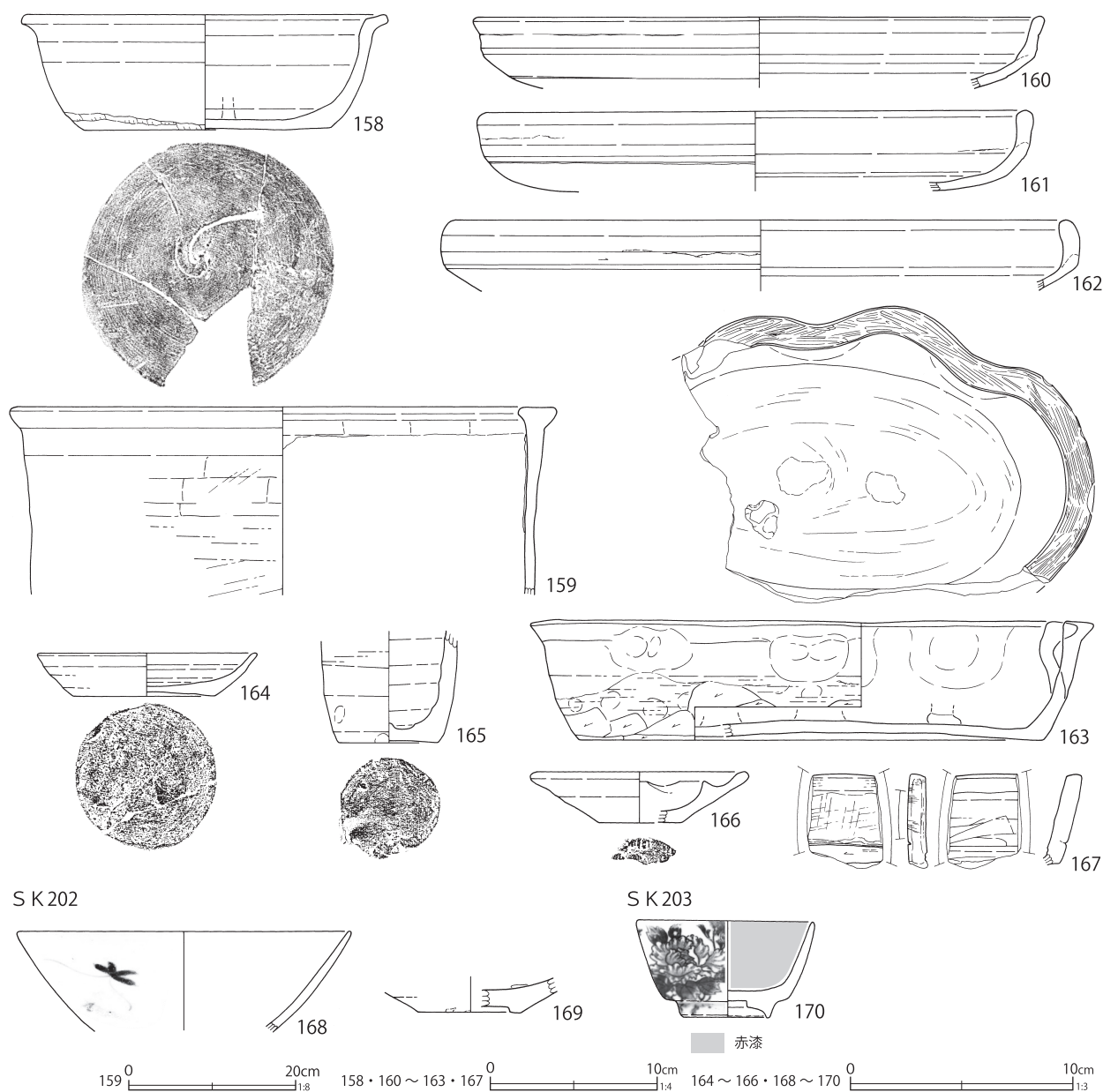
第 196 图 土壤出土遺物 (73)



第 197 图 土壙出土遺物 (74)



第 198 图 土壤出土遺物 (75)



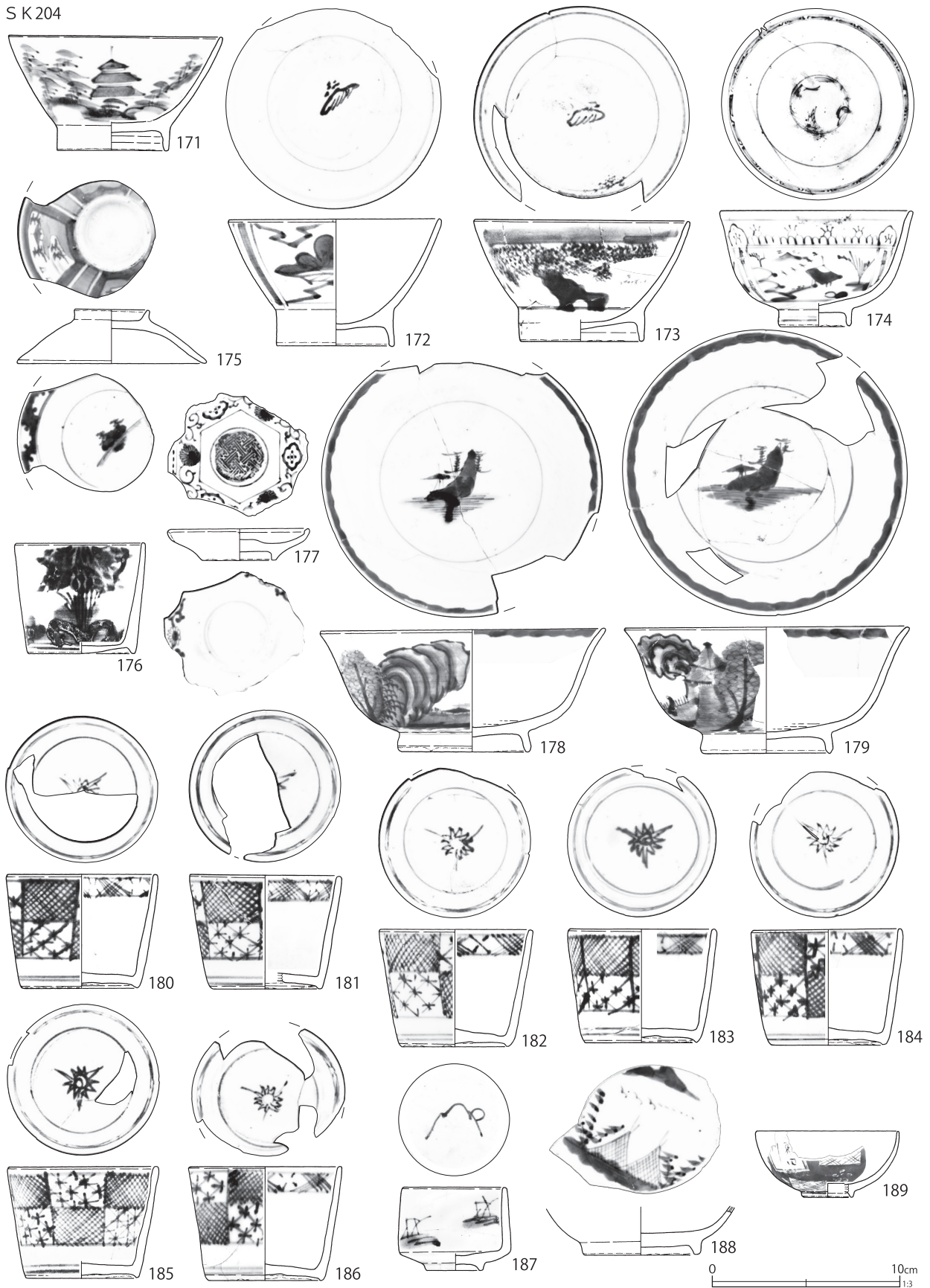
第199図 土壙出土遺物(76)

陶磁器では被熱したものが多くみられるが、覆土の堆積状況は他の多くの火災処理土壙と異なる。同じように斜め堆積が認められるのは第25号土壙であるが、本跡のほうがより焼土が少ない。第190図1021・1022は瀬戸美濃系磁器である。器面が若干荒れているが、明確な被熱痕は認められない。1023は産地不詳の陶器蓋物で桶のタガを模す。第9号土壙から同一個体(第128図54)が出土している。1031は京都産陶器である。所謂白色土器の涼炉で外面に刻印がある。1033は土器

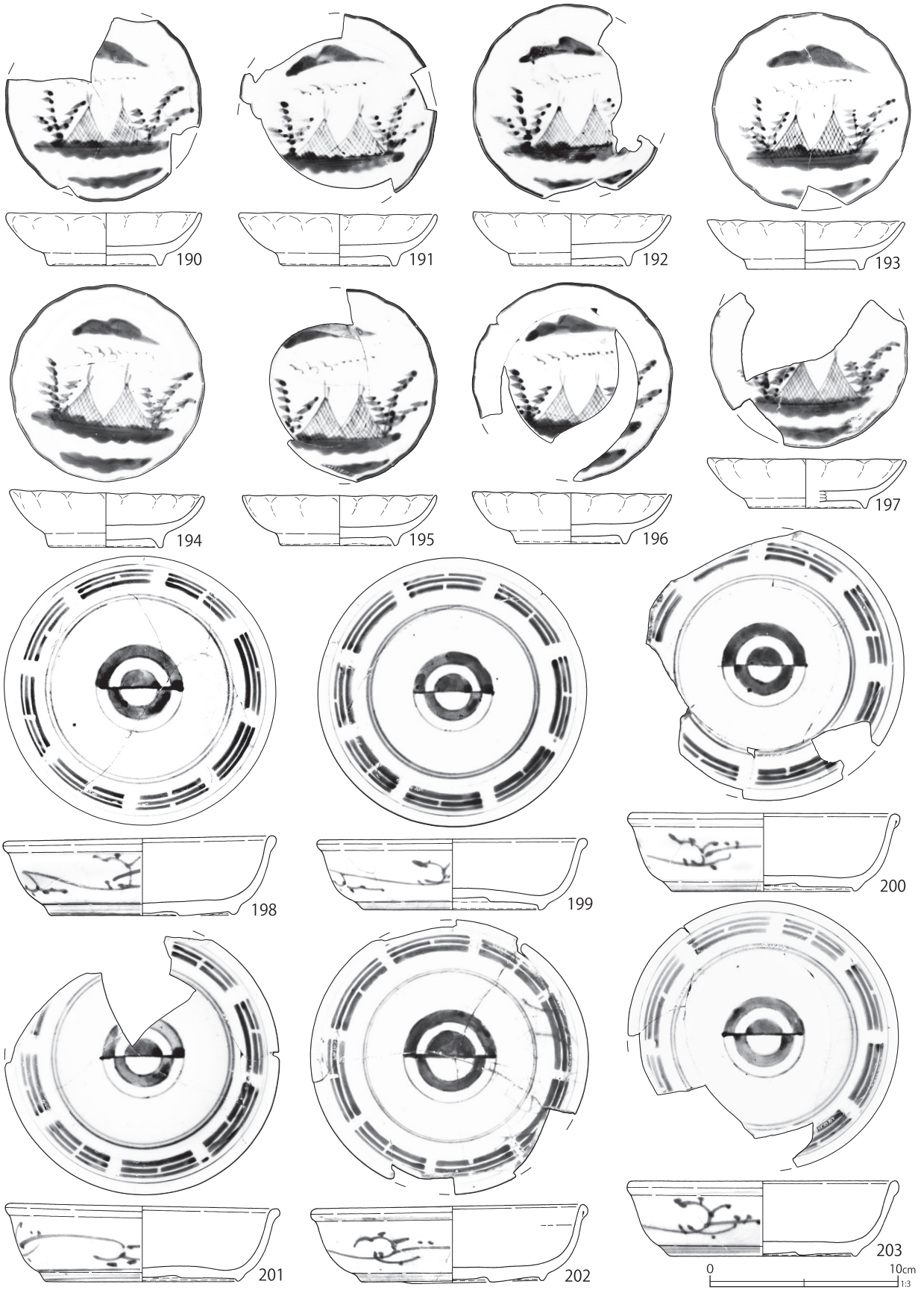
の火鉢類で、胎土は粉質、微細な金雲母を含む。表面には光沢のある塗布物がみられる。同様の遺物は、第166号土壙(第187図964~966)にもみられる。1034は金雲母を多く含む真壁系の焙烙である。内耳上端と口唇部の接点に焼成前の刻みがある。被熱した陶磁器が一定量あるが、やや新しい様相の遺物も含まれる。火災直後に構築されたものか否か、疑問も残る。

第189号土壙は第188号土壙に壊される小形の土壙であるが、両者の覆土は極めて似通ってい

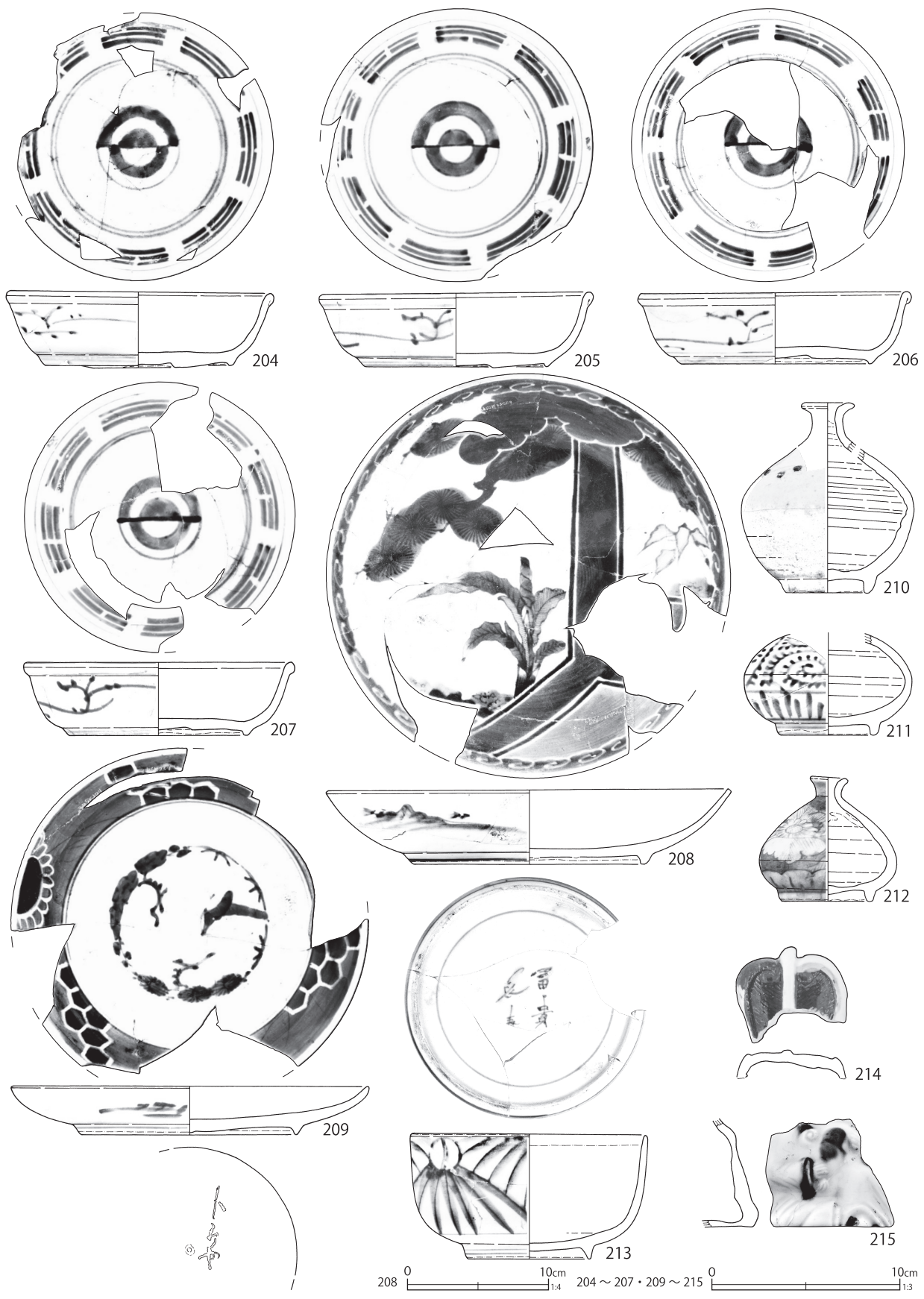
S K 204



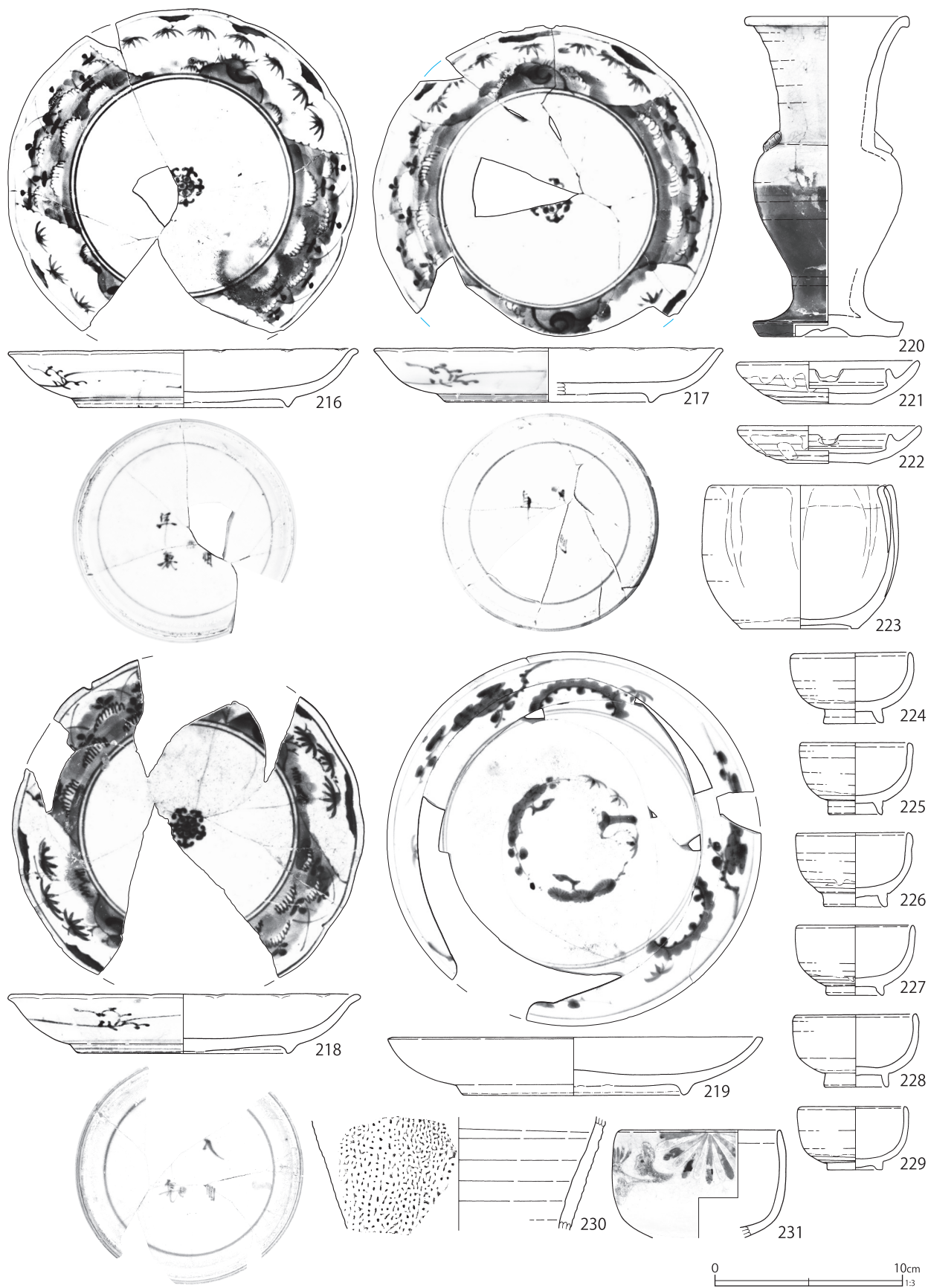
第 200 图 土壤出土遺物 (77)



第 201 图 土壙出土遺物 (78)



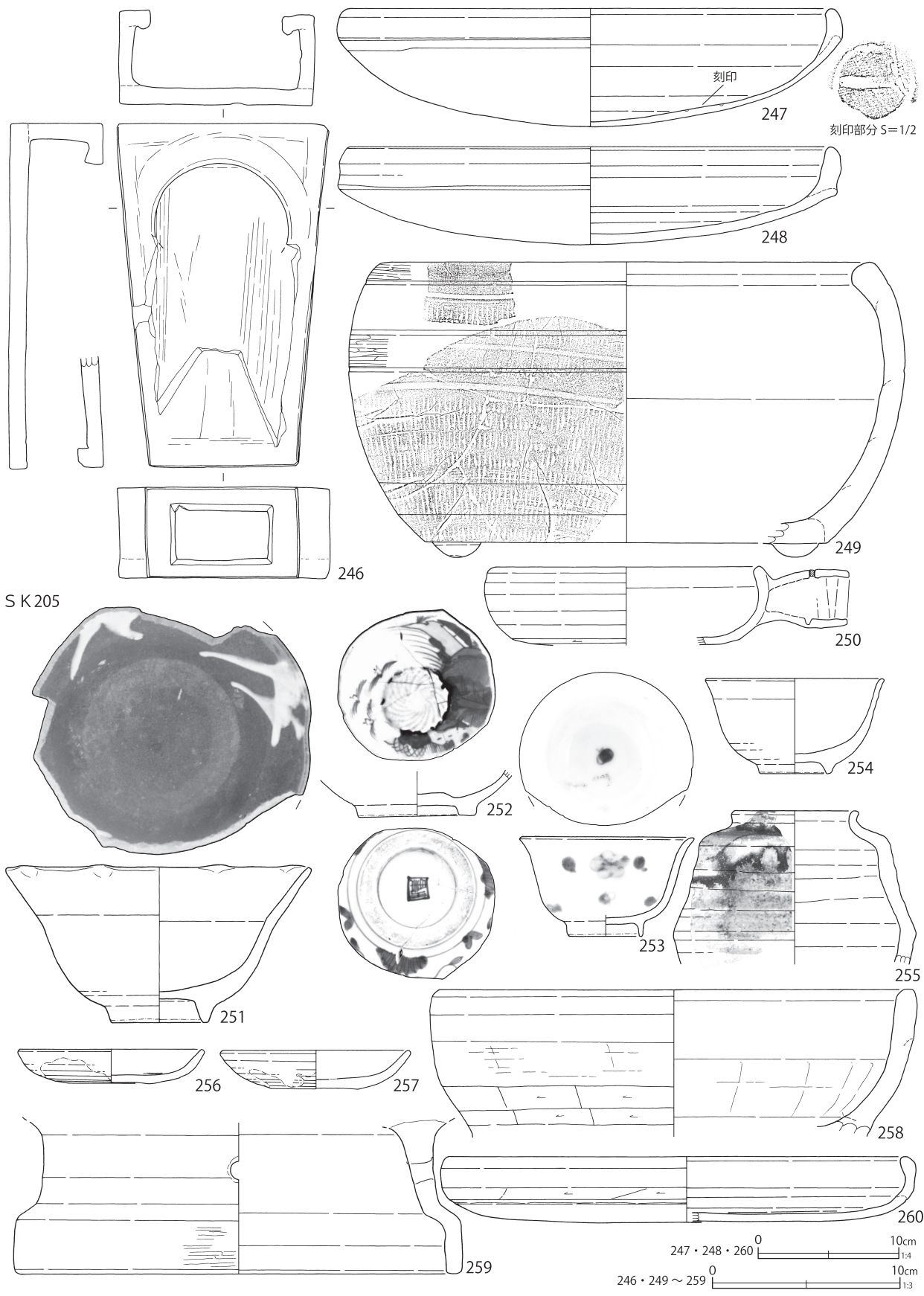
第 202 図 土壙出土遺物 (79)



第 203 图 土壙出土遺物 (80)



第 204 图 土壤出土遺物 (81)



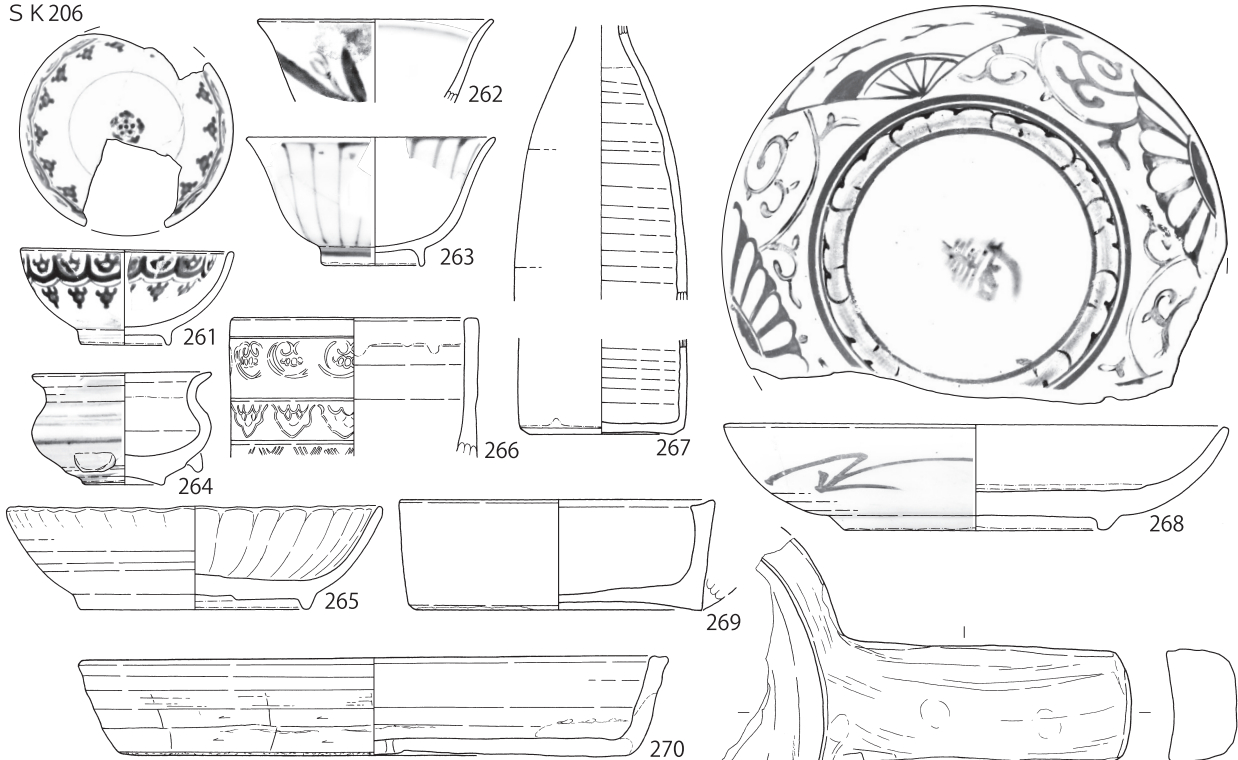
S K 205

刻印

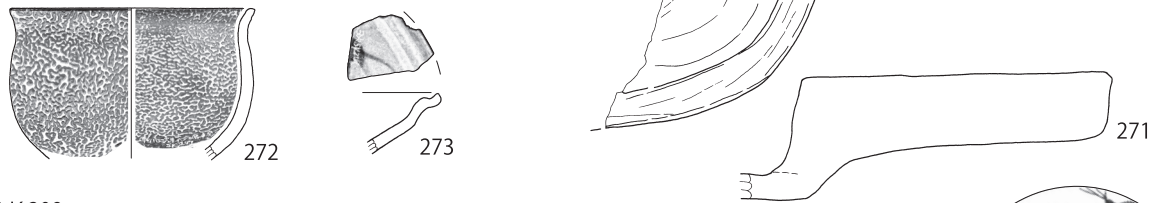
刻印部分 S=1/2

第 205 图 土壙出土遺物 (82)

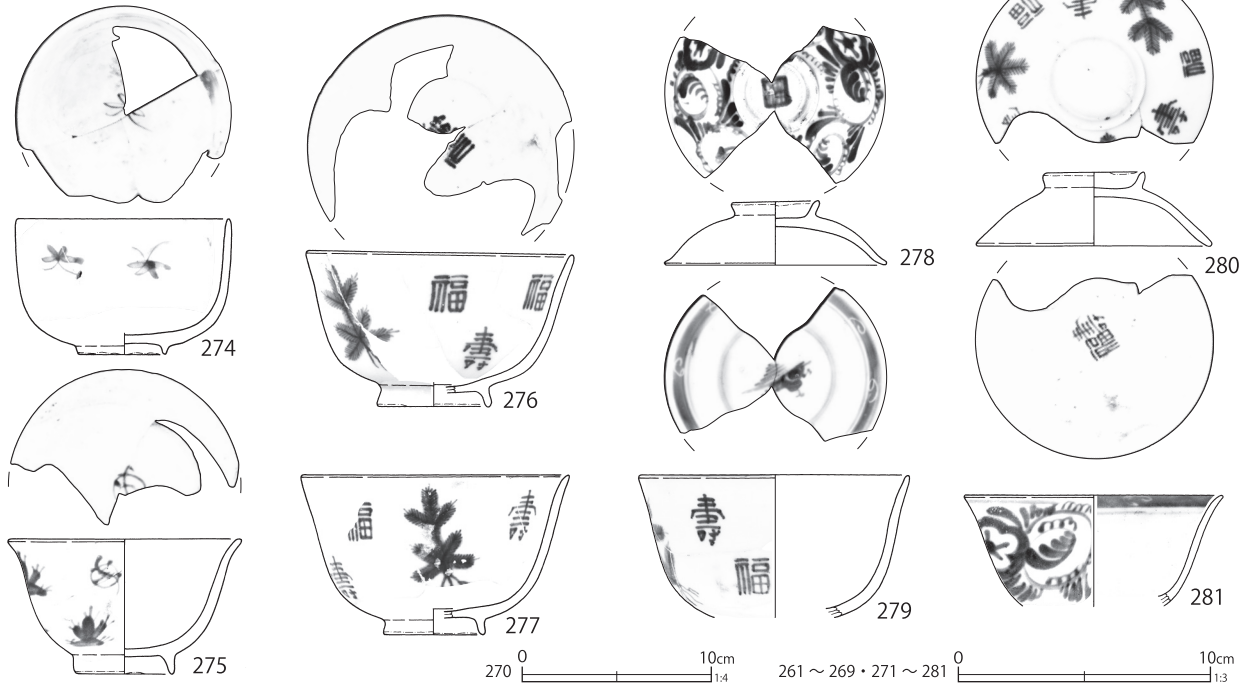
S K 206



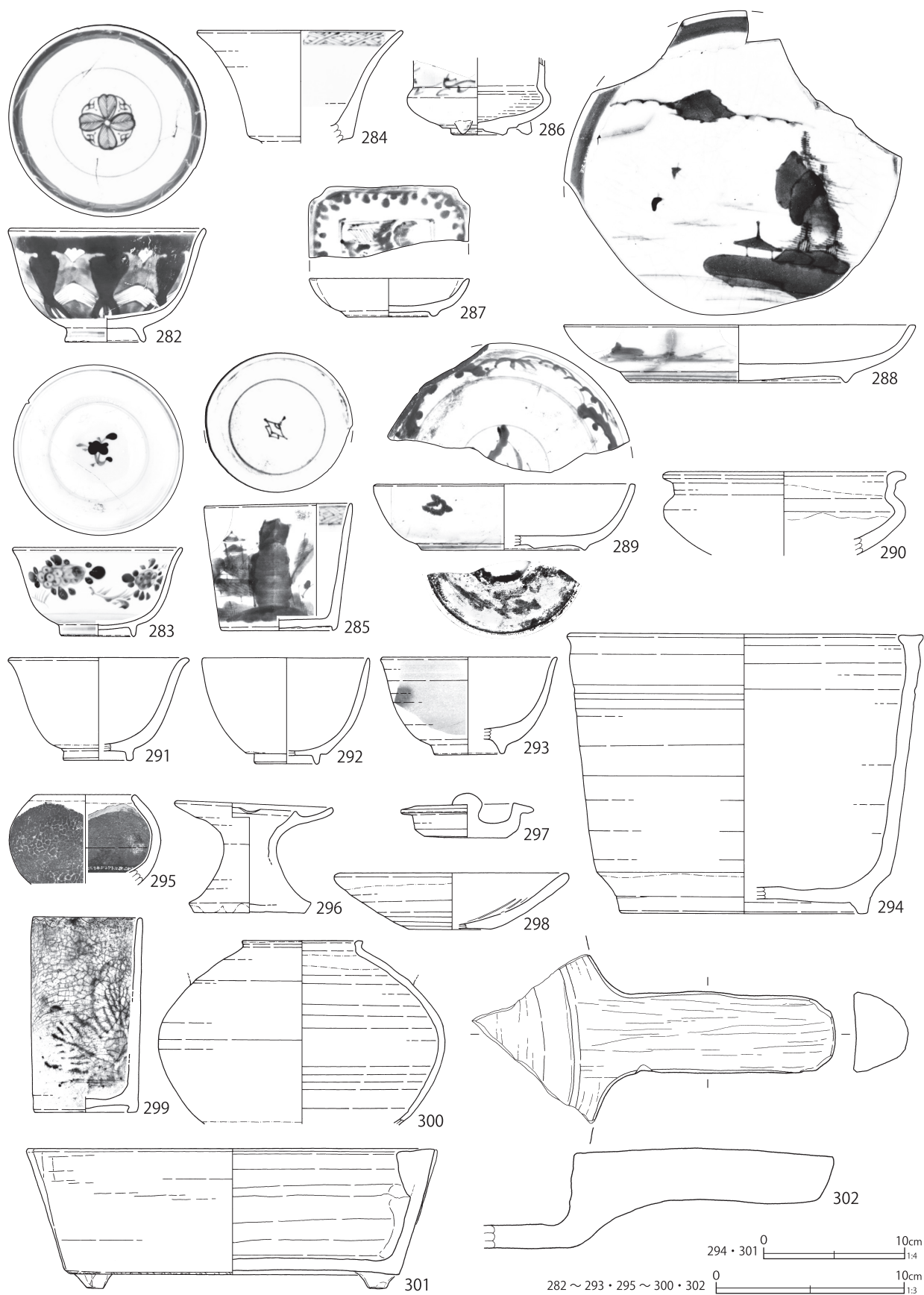
S K 207



S K 209

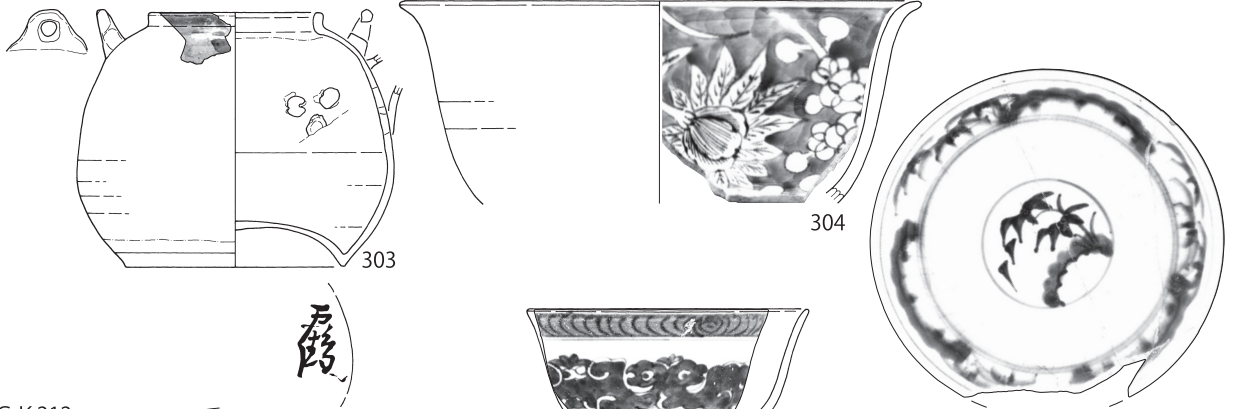


第 206 図 土壙出土遺物 (83)

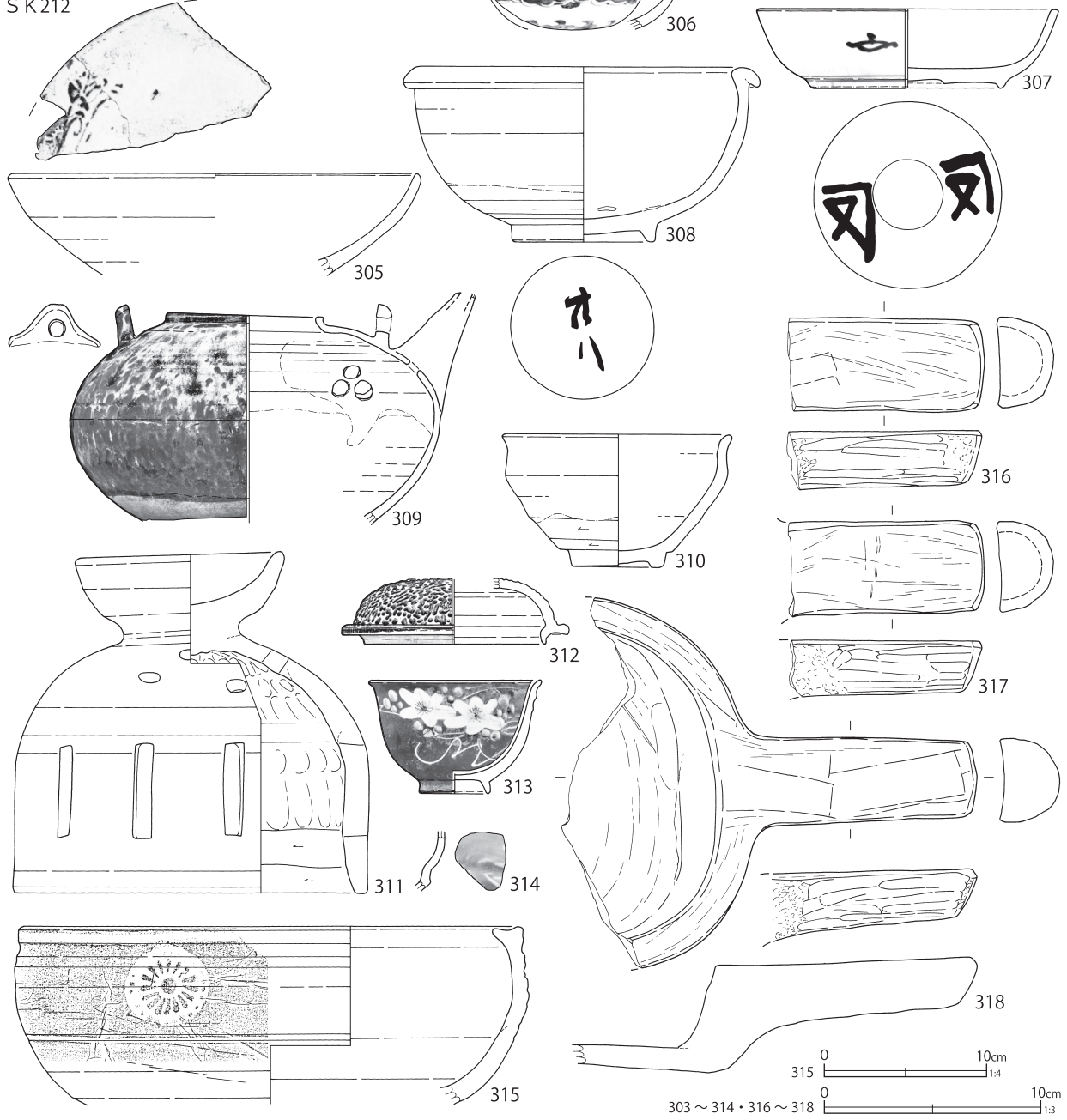


第 207 図 土壙出土遺物 (84)

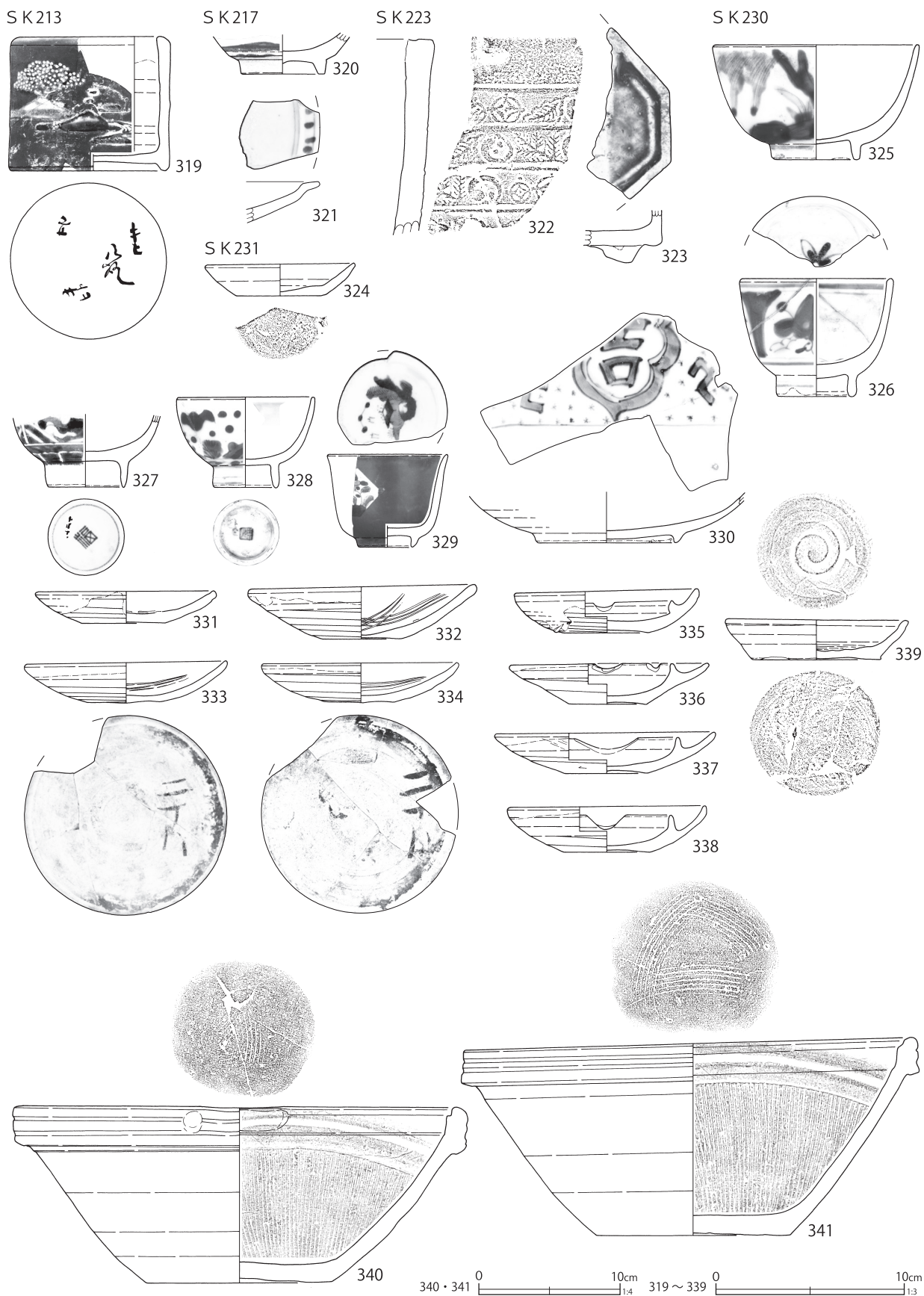
SK210



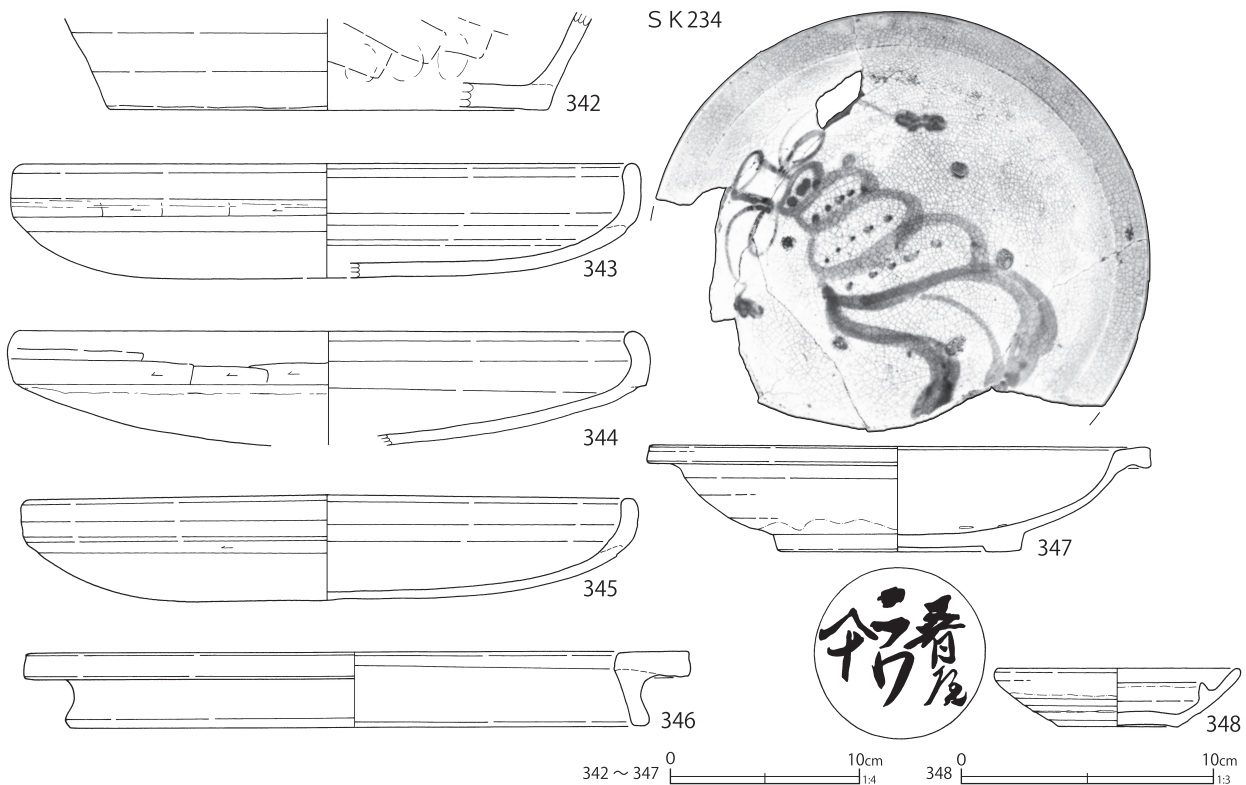
SK212



第 208 図 土壙出土遺物 (85)



第 209 图 土壙出土遺物 (86)



第210図 土壌出土遺物(87)

た。第191図1038～1048は出土した陶磁器であるが、18世紀以前のもものが主体である。1042は瀬戸美濃系陶器の祖母懐茶壺で、体部の丸みが強い。17世紀前半の所産と思われる、被熱している。

第198号土壌(第115図)

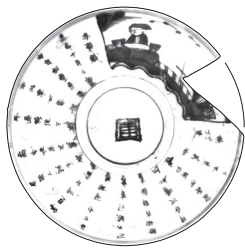
調査区北部のC6-B3グリッドに所在し、第201号土壌に近接して検出された。本陣敷地内の土壌と考えられる。北側は第4号井戸跡に掘り込まれているが、長軸2.7m以上の楕円形の土壌とみられる。ただし、南側底面が一段深く下がっており、炭化木を主体とする土が堆積していた。下部に別の土壌が重複していた可能性もある。

第192図1067～1074は出土した陶磁器の一部である。1070は萩焼碗の底部である。1071は陶器の小形徳利で、第201号土壌から同タイプのもものが出土している(第197図124・125)が、肩部の形状が異なり、別個体である。1073は施釉土器灯明皿で江戸在地系、1074は土器甕で在地系と考えられる。このほか、肥前系磁器の焼継痕があ

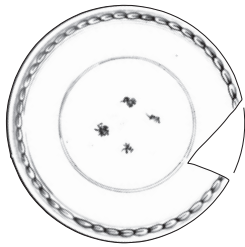
る八角鉢や瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗、真壁産土器甕が出土している。酸化コバルト染付の磁器は出土していない。また、第264図85・86に示した石製品の石筆が出土しているが、重複する第4号井戸跡から混入した可能性もある。遺構の最終埋没は、第4号井戸跡が構築される直前頃で、19世紀第3四半期と考えられる。

本跡からは第225図14や、第226図10～15に示したように、玩具類が多く出土した。14は亀を模したと思われる中空の人形類で、亀乗り童子人形と思われる。微細な雲母を含む橙色の胎土で江戸在地系と考えられる。内面は指頭ナデ痕が粗く残る。外面には透明釉を施し、一部緑釉で彩色する。腹部側面(脇腹部分)に二重亀甲の「亀」刻印がある。「亀」刻印は、伏見人形の原型師、欽古堂亀祐の手によるものとされる(中野2011)が、本跡出土例は江戸在地系であり、類例が無い。原型の移動があったものか、江戸近郊で型を模したのか、問題を提起している。

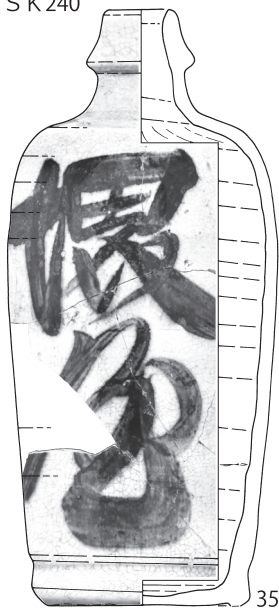
S K 237



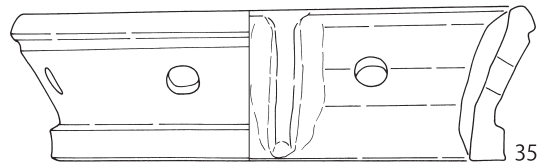
349



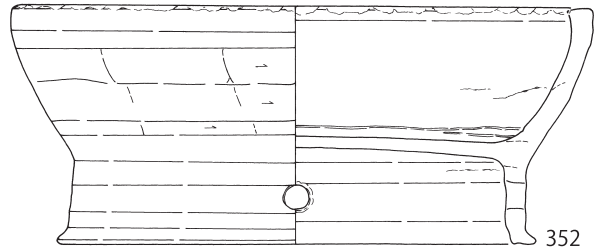
S K 240



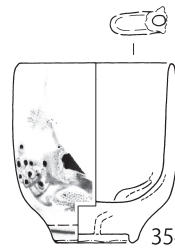
350



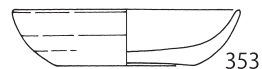
351



352

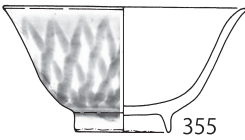


354

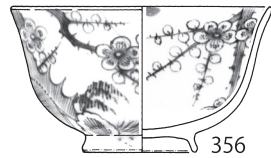


353

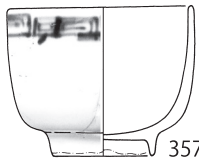
S K 242



355



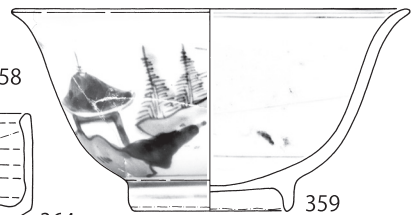
356



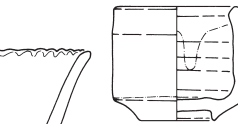
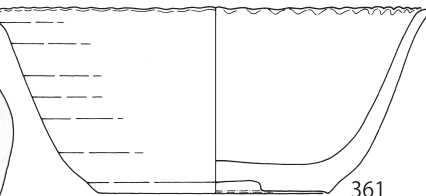
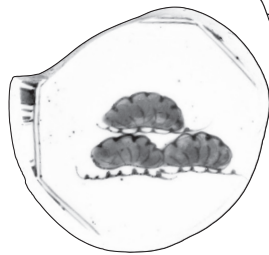
357



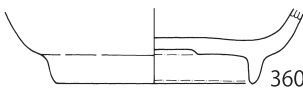
358



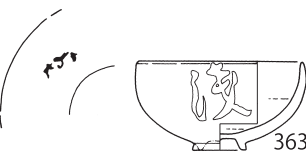
359



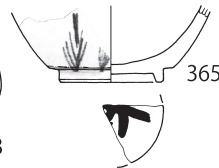
364



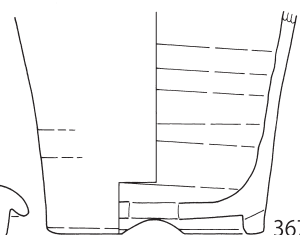
360



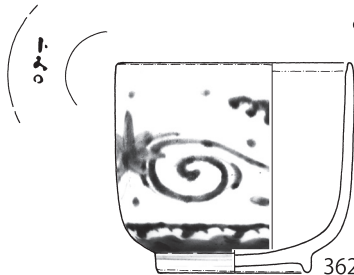
363



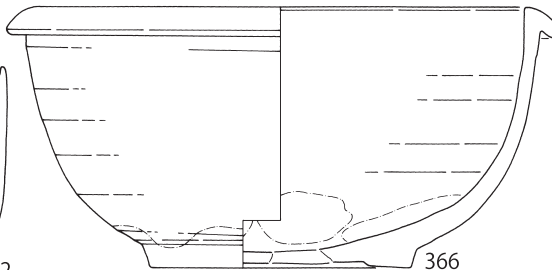
365



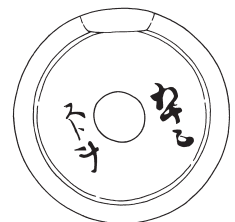
367



362

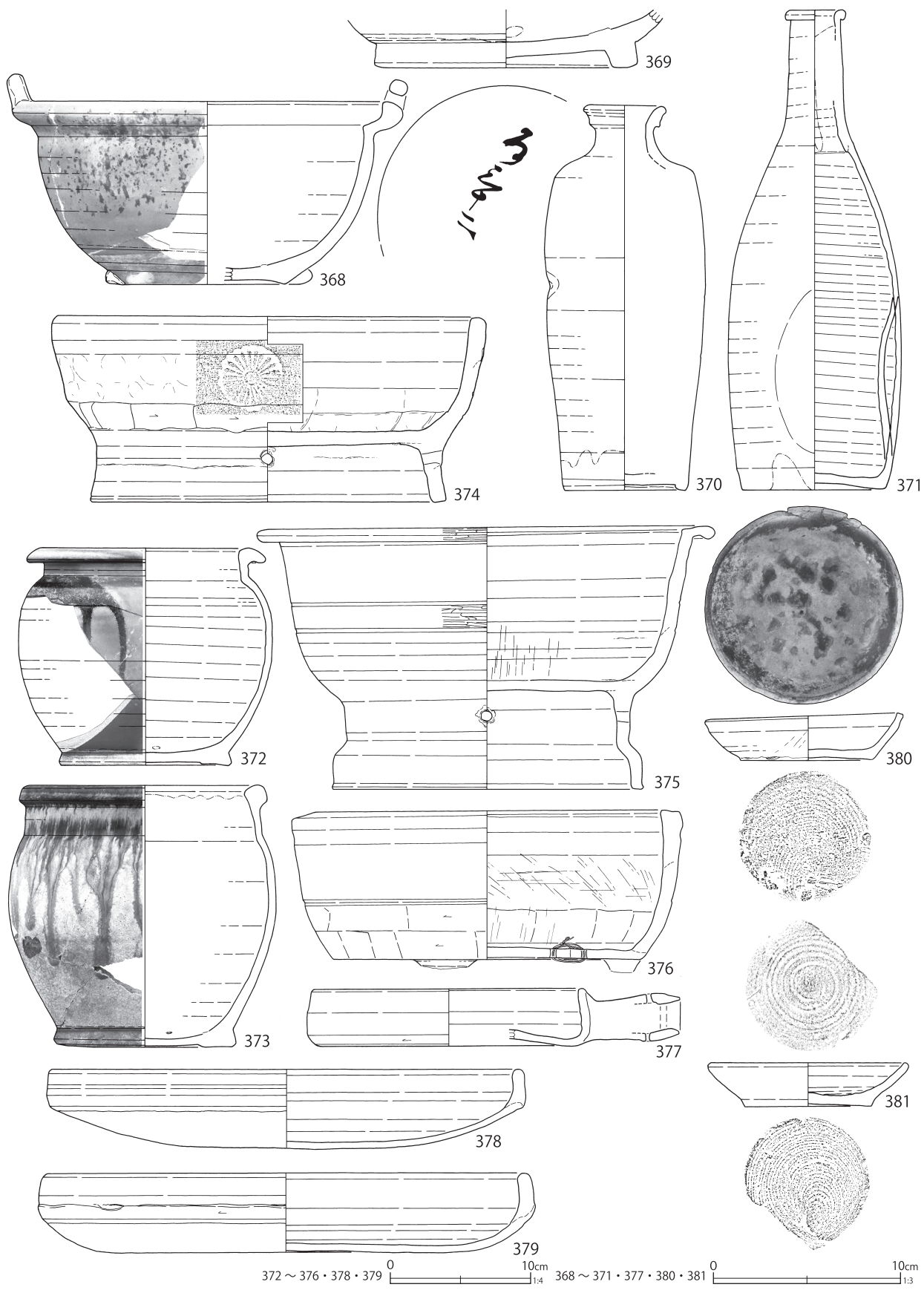


366



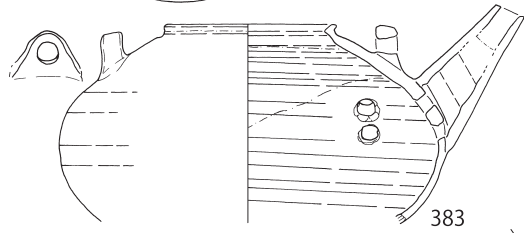
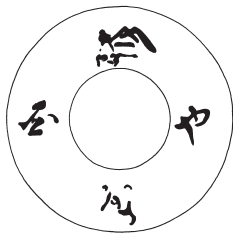
351 · 352 · 366 0 10cm 1:4 349 · 350 · 353 ~ 365 · 367 0 10cm 1:3

第 211 図 土 壙 出 土 遺 物 (88)

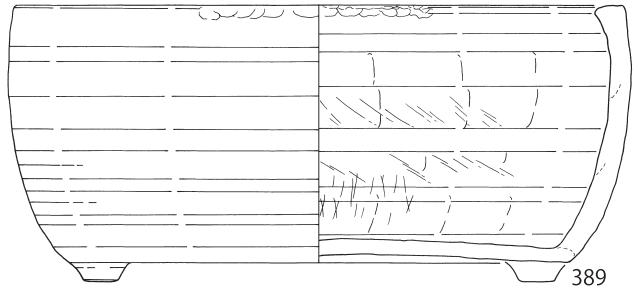
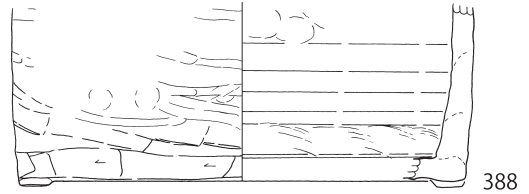
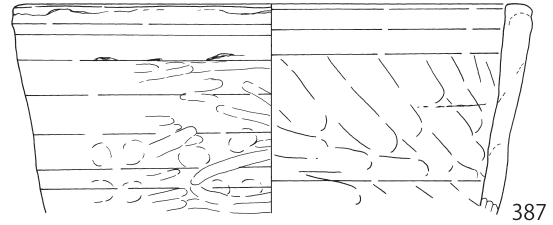
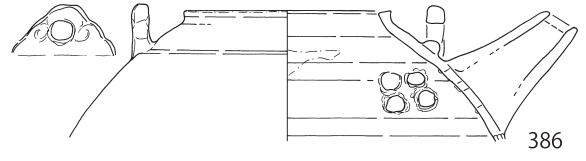


第 212 図 土壙出土遺物 (89)

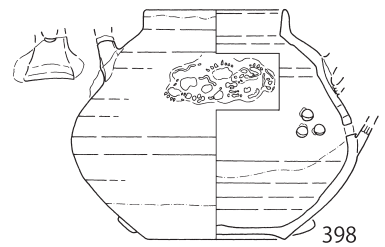
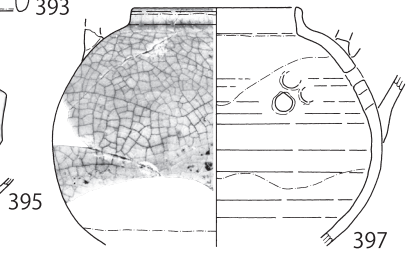
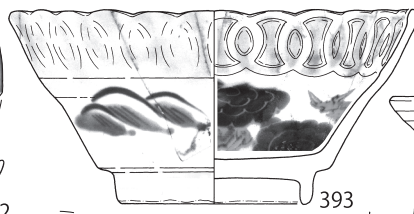
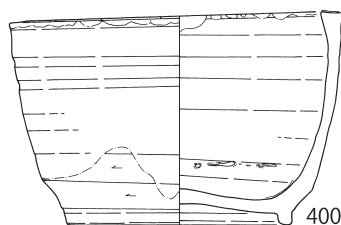
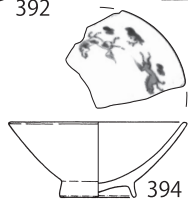
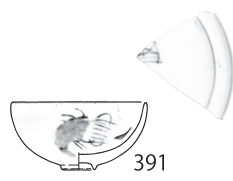
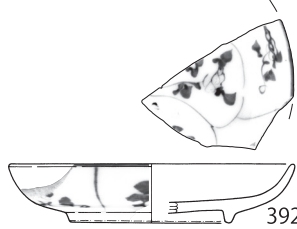
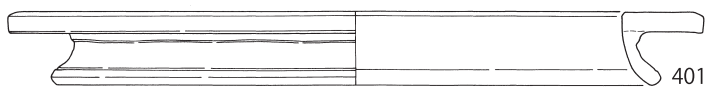
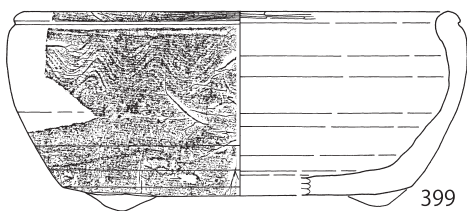
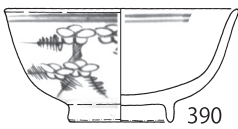
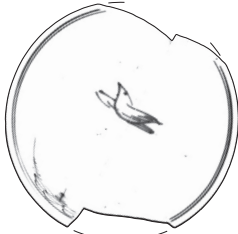
S K 243



S K 246



S K 247

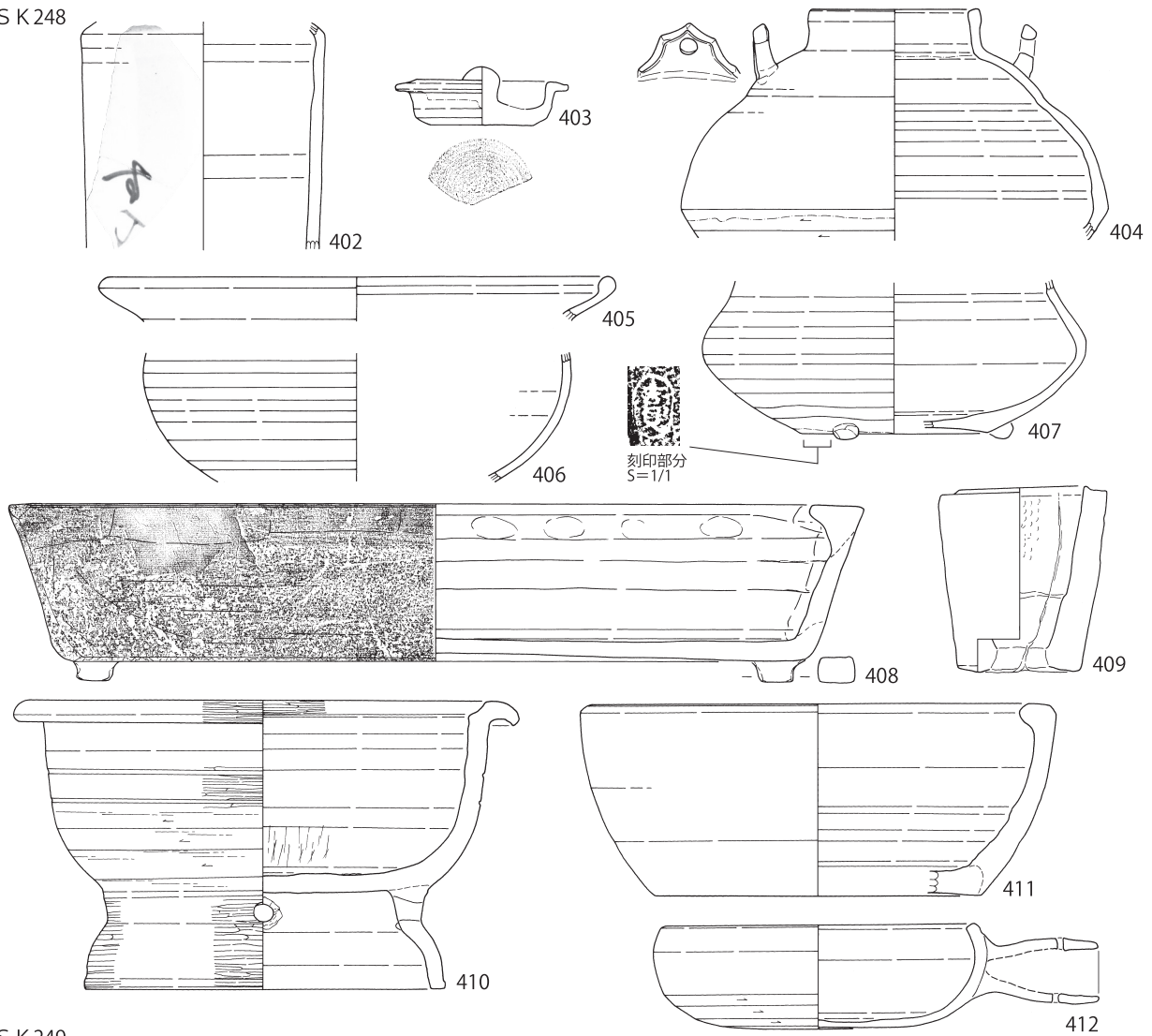


387 ~ 389 · 400 · 401 0 10cm 1:4

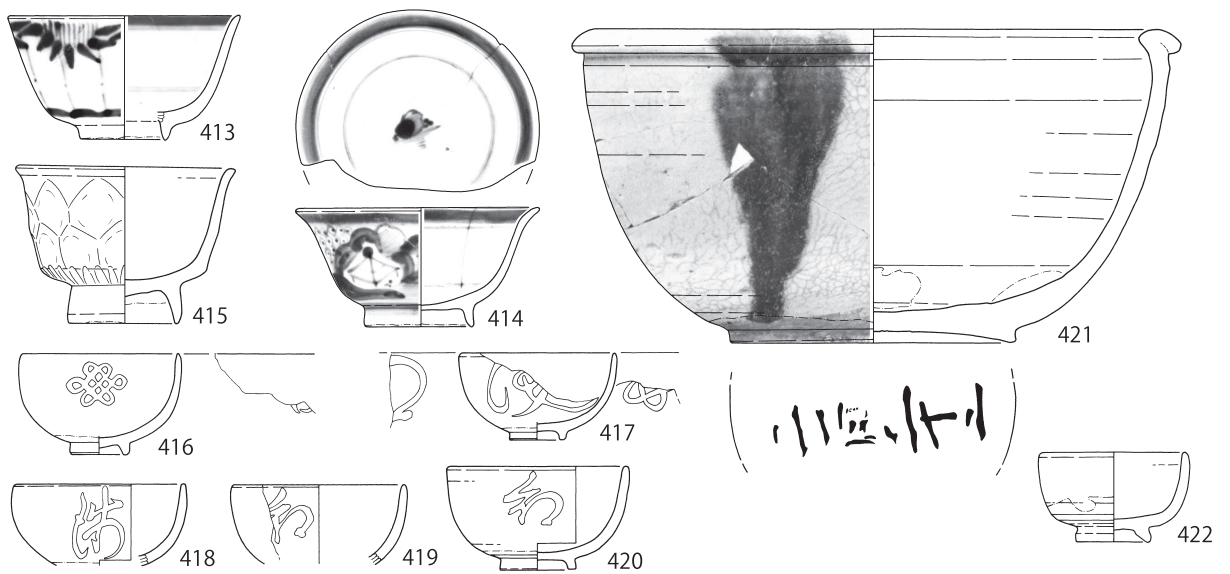
382 ~ 386 · 390 ~ 399 0 10cm 1:3

第 213 図 土壙出土遺物 (90)

SK 248

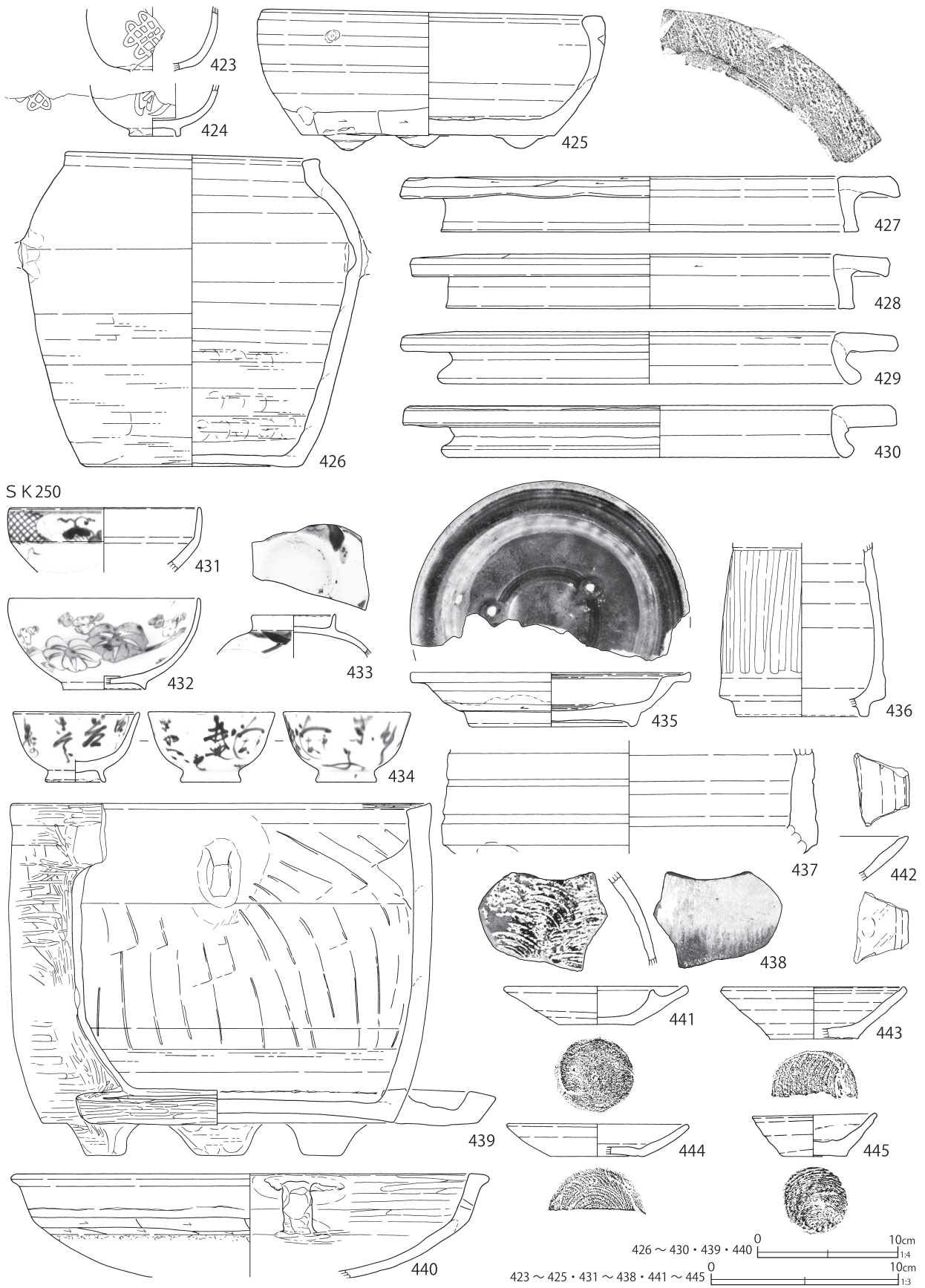


SK 249

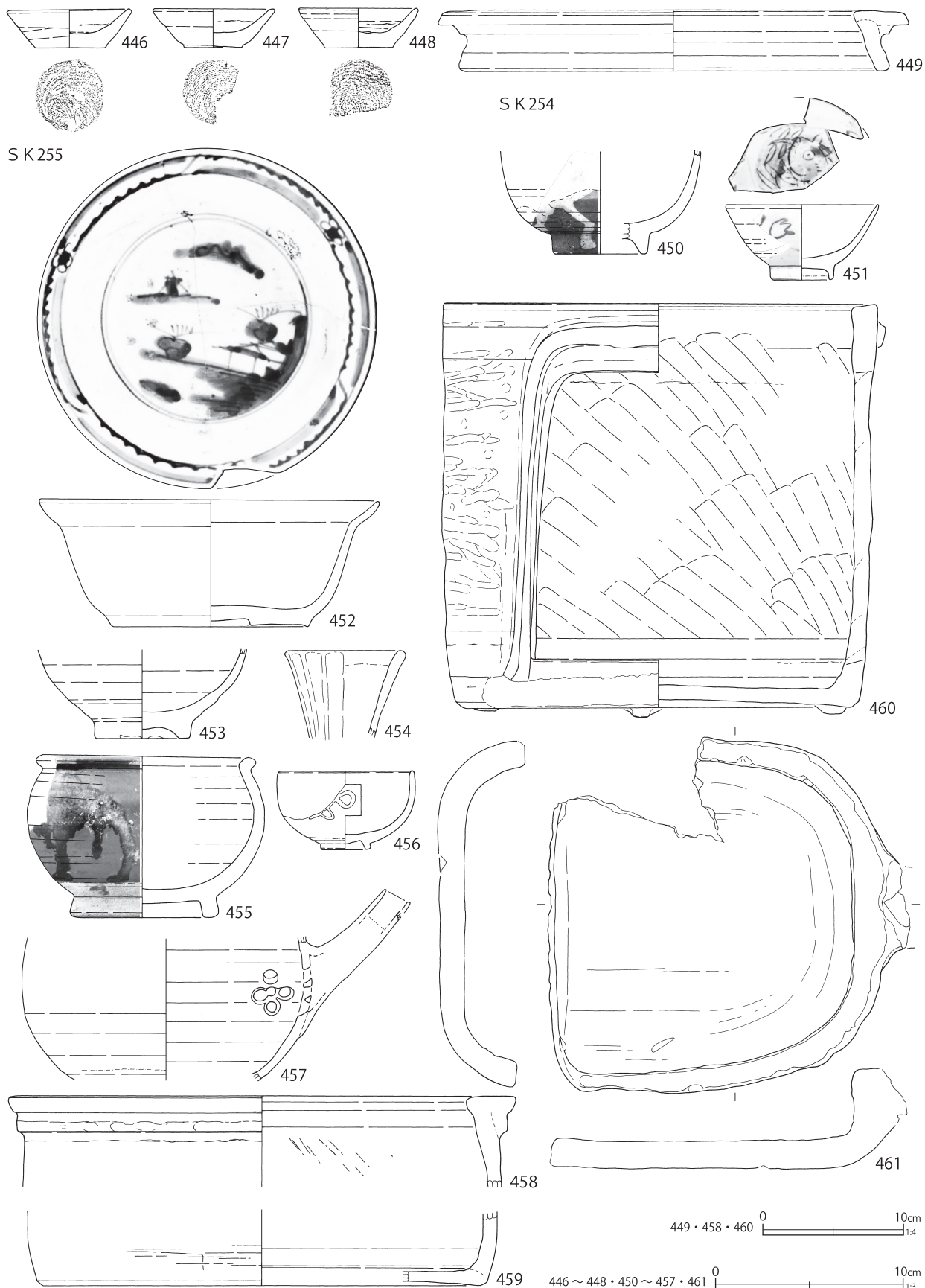


0 10cm 1/4 0 10cm 1/3

第 214 図 土壙出土遺物 (91)

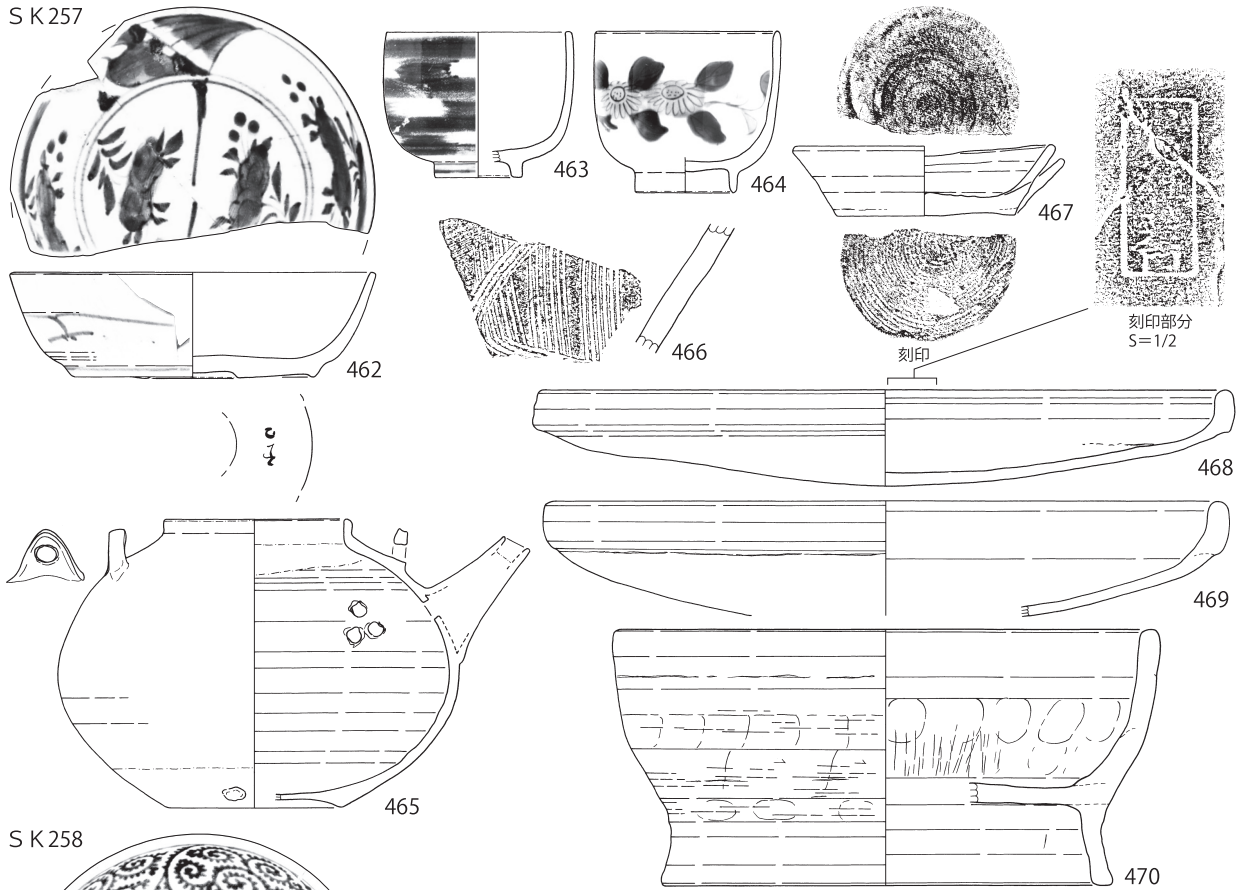


第 215 図 土壇出土遺物 (92)

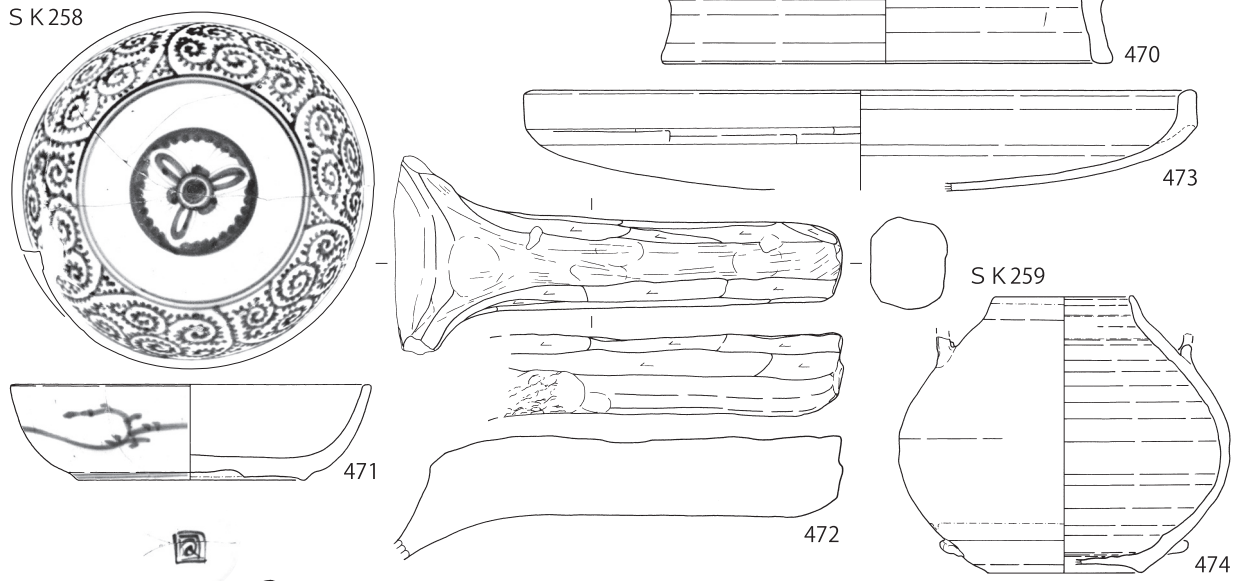


第 216 図 土壙出土遺物 (93)

S K 257

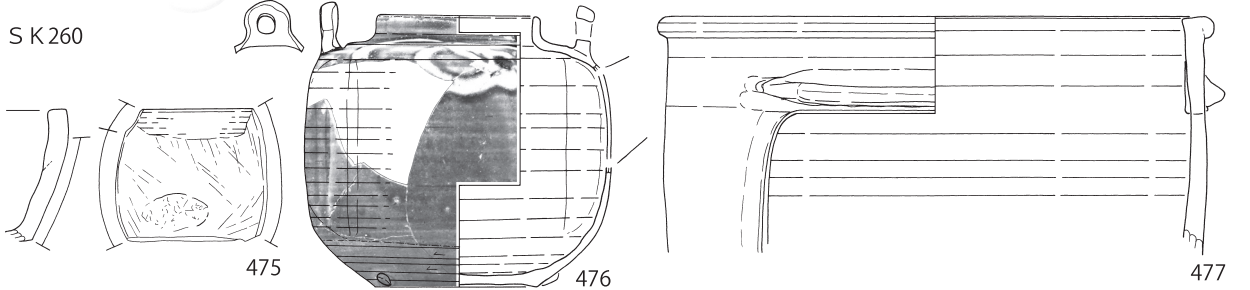


S K 258



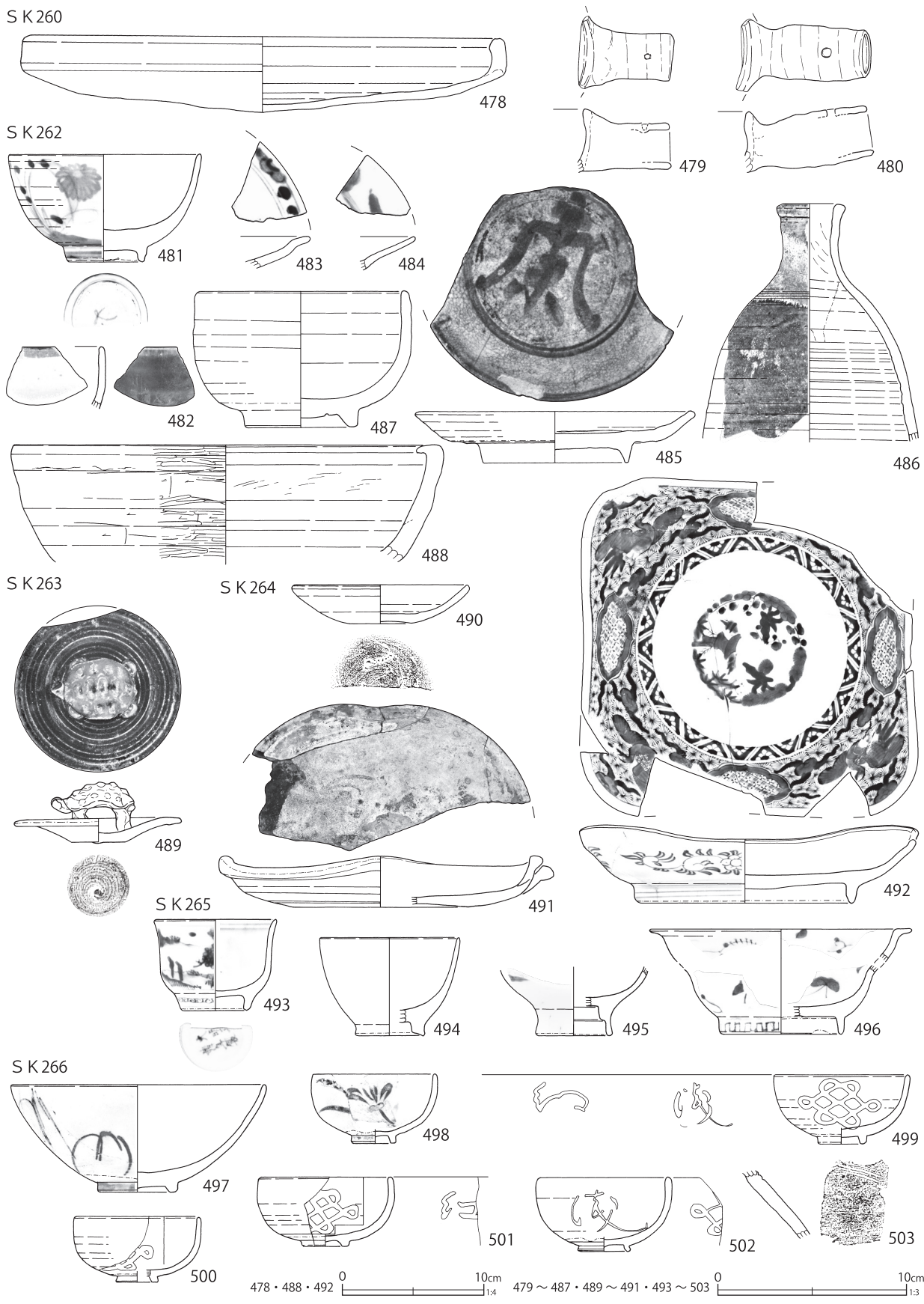
S K 259

S K 260

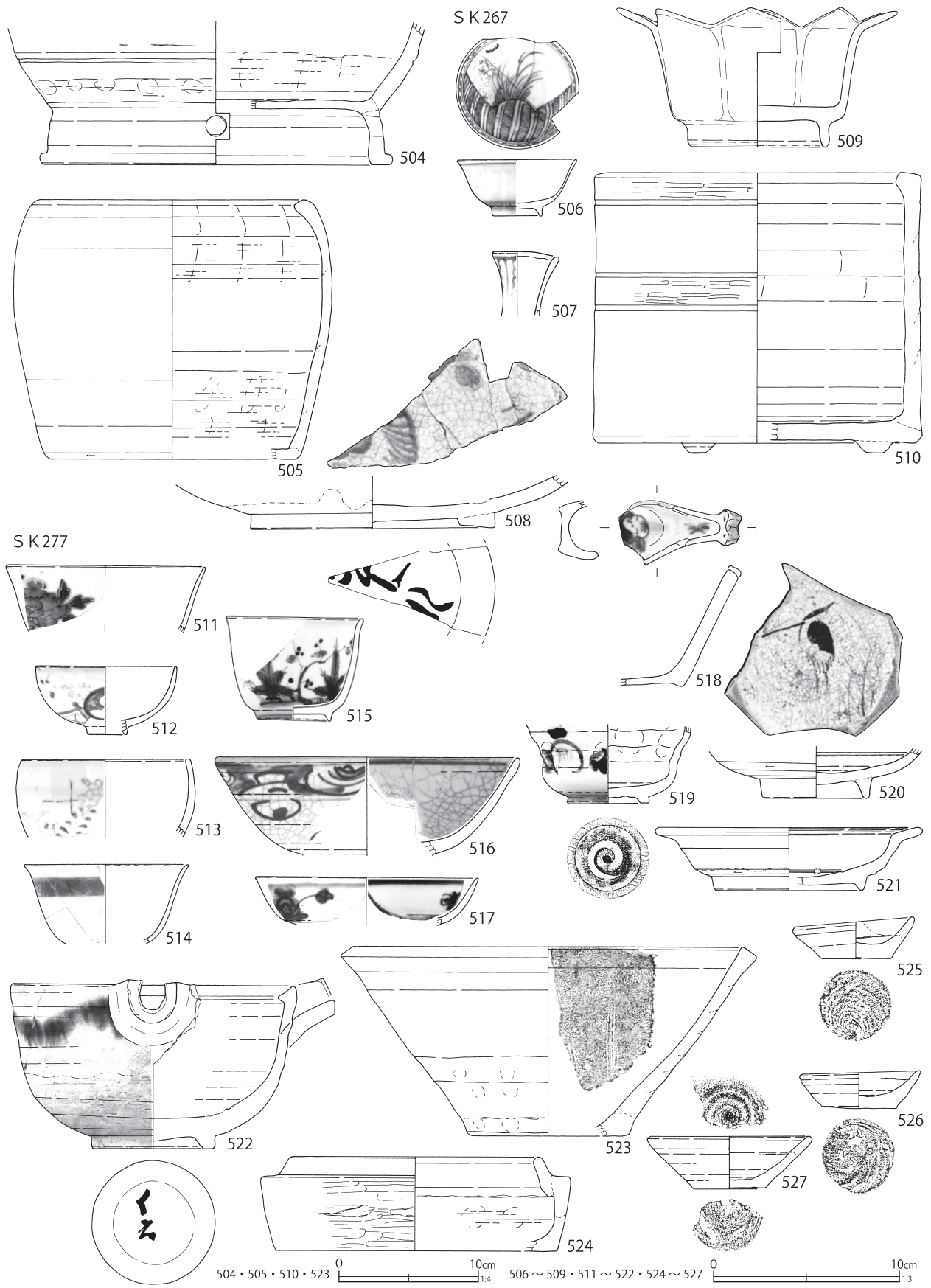


0 10cm 1/4 462 ~ 467 · 471 · 472 · 474 ~ 476 0 10cm 1/3

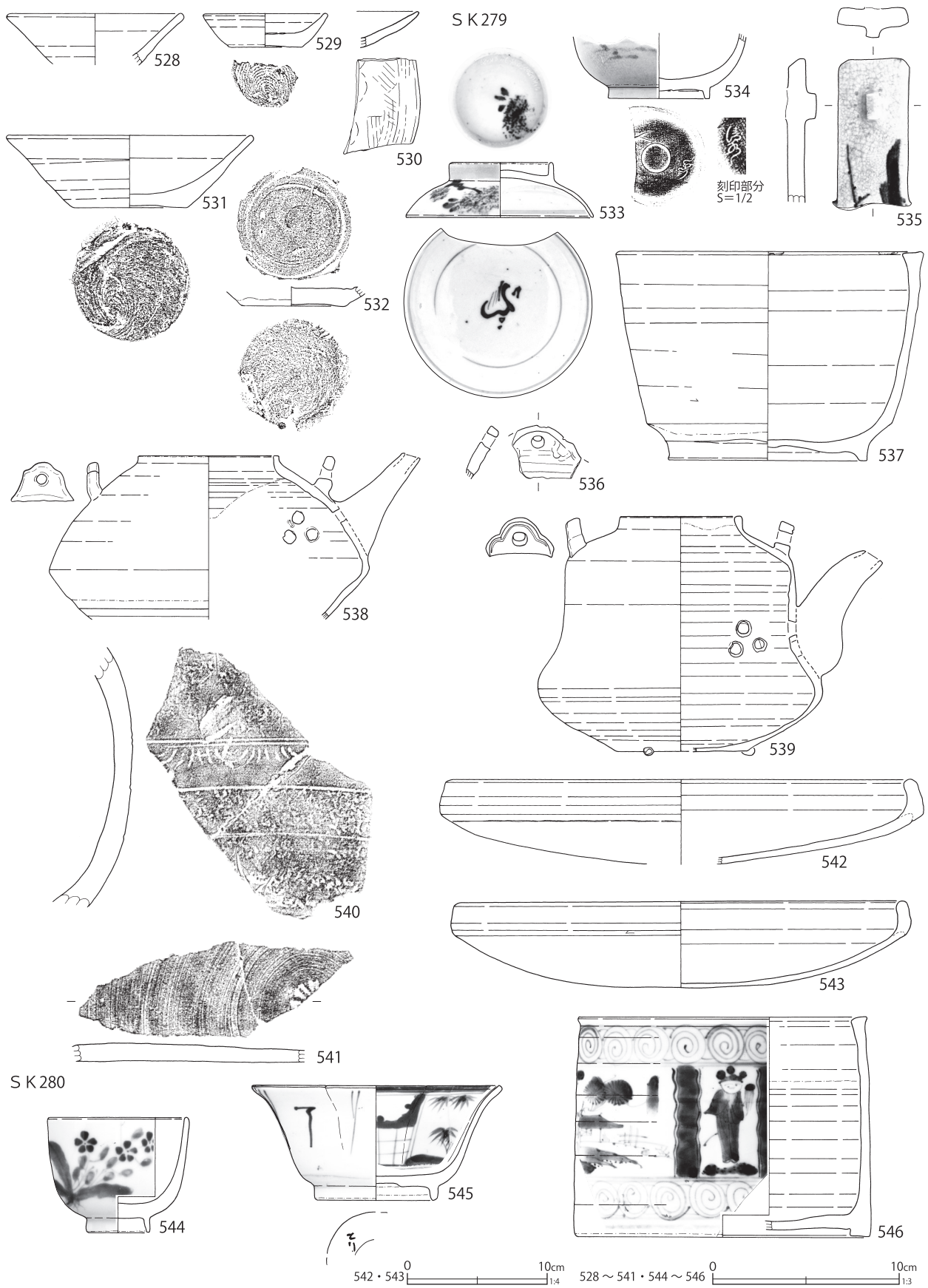
第 217 图 土壤出土遺物 (94)



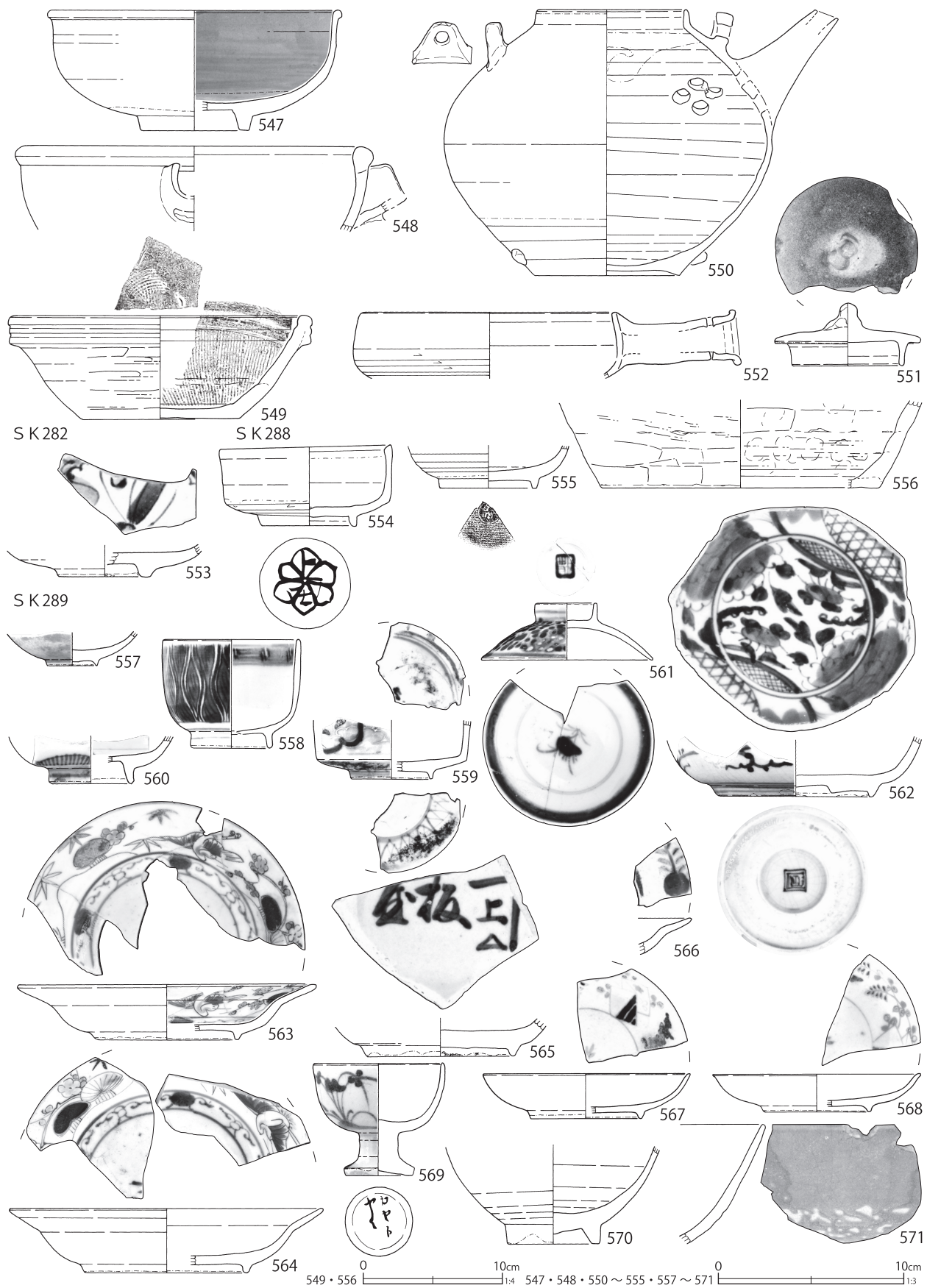
第 218 図 土壙出土遺物 (95)



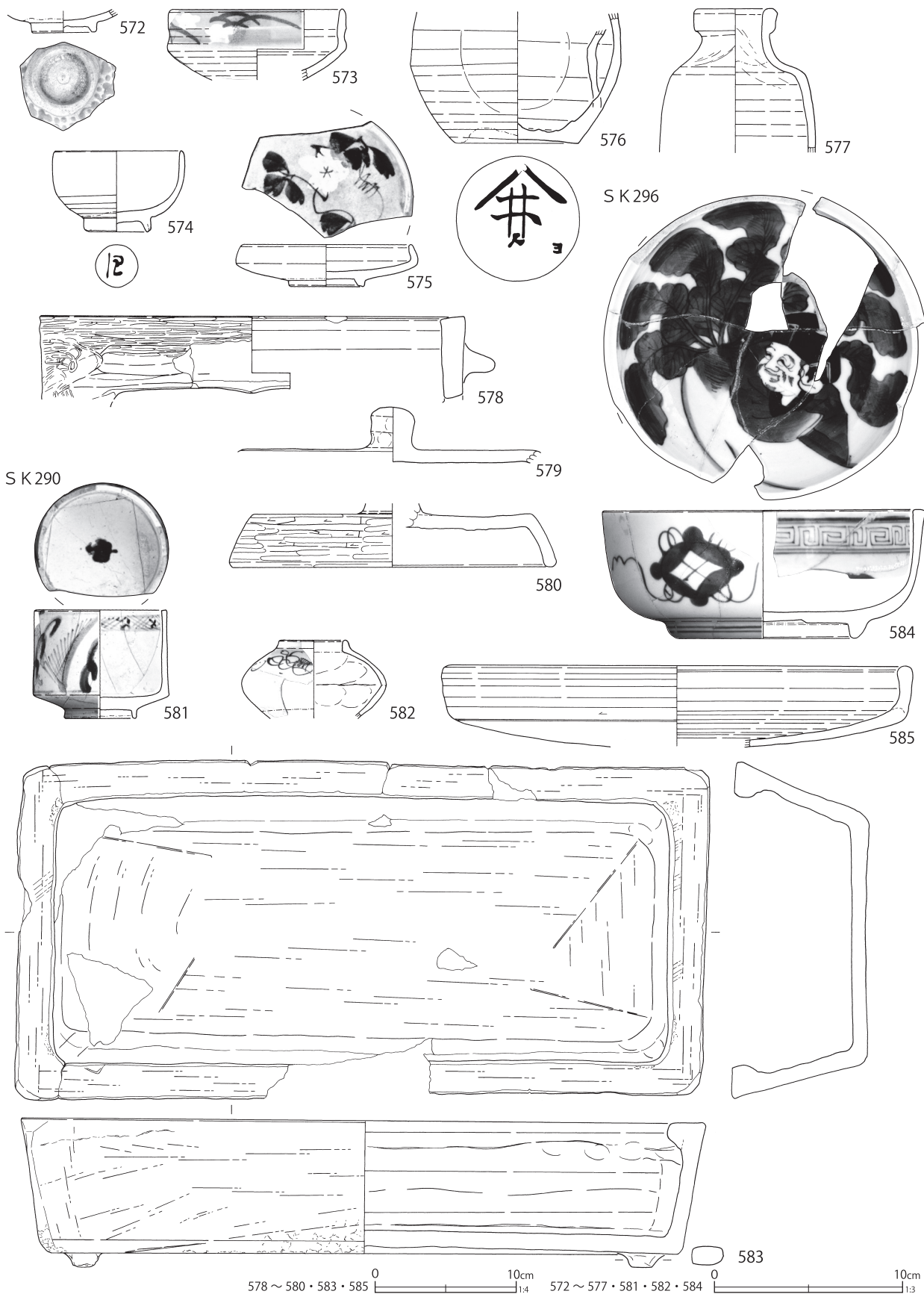
第 219 図 土壙出土遺物 (96)



第 220 図 土壇出土遺物 (97)

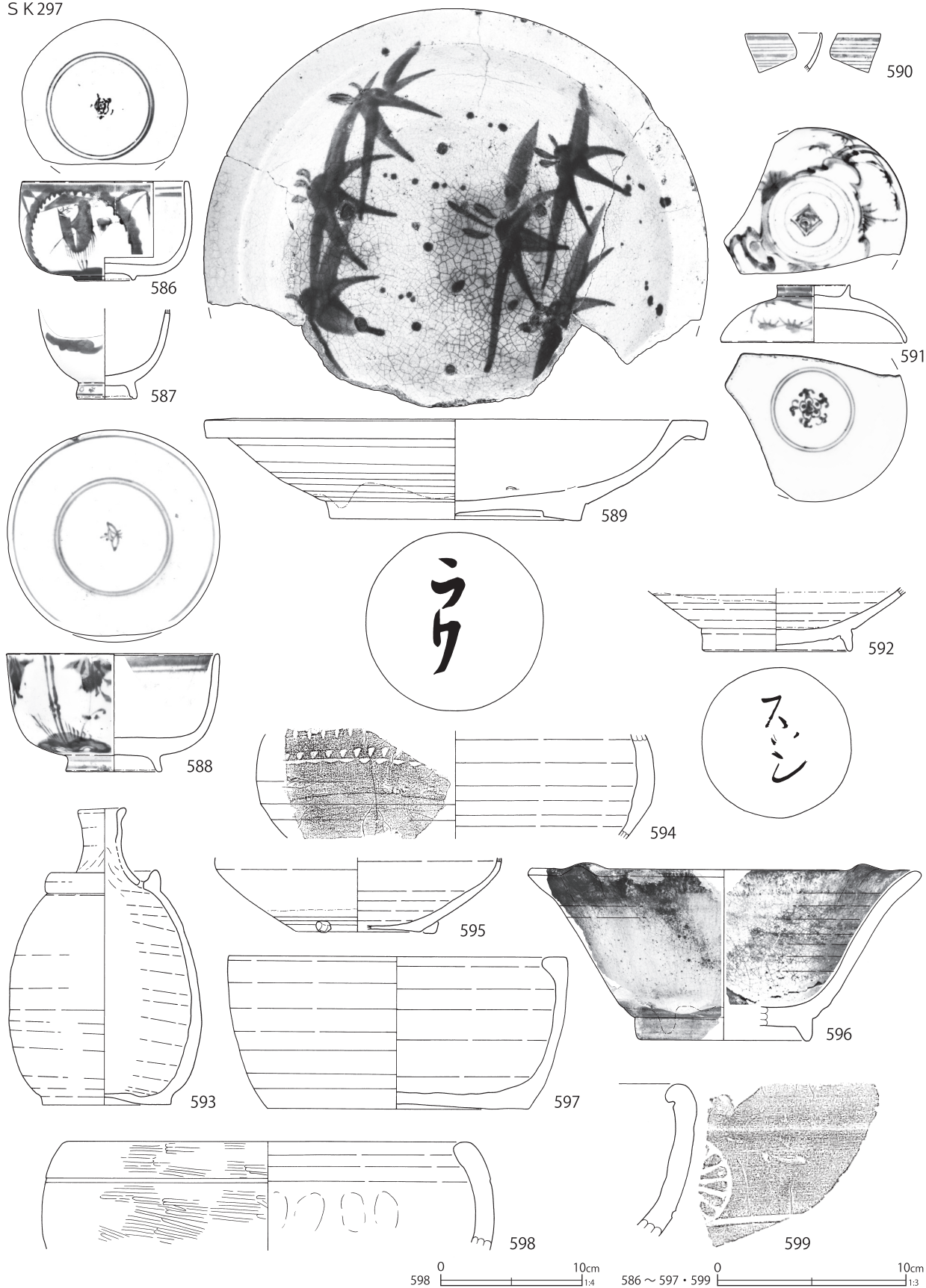


第 221 図 土壙出土遺物 (98)



第 222 図 土壙出土遺物 (99)

SK297



第 223 図 土壙出土遺物 (100)

第 31 表 土壙出土遺物観察表 (1) (第 124 ~ 192 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(11.2)	[4.1]	—	—	15	良好	灰白	SK1	肥前系 施釉・染付	
2	磁器	水滴	—	[3.6]	—	—	—	普通	灰白	SK1	肥前系 外面施釉・染付・色絵	30-11
3	磁器	皿	(22.6)	2.8	(15.0)	—	30	良好	白	SK1	SK27 接合 肥前系 施釉・染付 強く被熱	
4	陶器	皿	(36.2)	7.8	16.2	EIK	45	良好	灰白	SK1	瀬戸美濃系 灰釉 内面目跡 4 遺存 被熱	
5	陶器	皿	37.0	8.2	16.0	DH	85	良好	灰白	SK1	瀬戸美濃系 灰釉 内面目跡 5 (4 残) 被熱	30-12
6	陶器	播鉢	34.2	13.6	17.1	IK	65	良好	明赤褐	SK1	堺明石系 内面播目 被熱	
7	磁器	碗	(11.3)	6.5	(6.1)	—	40	良好	白	SK2	肥前系 施釉・染付 強く被熱	31-1
8	磁器	碗	(15.2)	6.9	5.5	—	65	良好	白	SK2	肥前系 施釉・染付 強く被熱	31-4
9	磁器	碗	(8.8)	[4.1]	—	—	20	良好	白	SK2/9	肥前系 施釉・染付 外面色絵 強く被熱	31-5
10	磁器	碗	(9.1)	5.6	(3.4)	—	45	良好	白	SK2/9	肥前系 施釉・色絵 強く被熱	31-2
11	磁器	碗	(8.6)	5.4	3.4	—	25	良好	白	SK9	施釉 肥前系 口錆 外面色絵 強く被熱	31-6
12	磁器	碗	(8.8)	5.4	(3.4)	—	20	良好	白	SK9	肥前系 施釉 外面色絵 強く被熱	31-7
13	磁器	碗	(8.6)	[2.5]	—	—	5	良好	白	SK2	肥前系 施釉 口錆 外面色絵 強く被熱	31-3
14	磁器	碗	(7.9)	[2.6]	—	—	25	良好	白	SK9	肥前系 施釉 口錆 外面色絵 被熱	31-3
15	磁器	碗	(8.3)	[3.5]	—	—	5	良好	白	SK9	肥前系 施釉 口錆 外面色絵 被熱	31-3
16	磁器	碗	—	[4.6]	—	—	5	良好	白	SK9	肥前系 施釉 外面色絵 強く被熱	31-3
17	磁器	碗	(8.4)	[4.7]	—	—	25	良好	白	SK2	肥前系 施釉 口錆 外面色絵 被熱	31-3
18	磁器	碗	—	[2.3]	—	—	5	良好	白	SK9	肥前系 施釉 外面色絵 強く被熱	31-3
19	磁器	碗	—	[4.1]	(3.3)	—	25	良好	白	SK9	SK166 接合 肥前系 施釉 外面色絵 被熱	31-8
20	磁器	碗	—	[2.9]	3.5	—	45	良好	白	SK2/9	肥前系 施釉 外面色絵 強く被熱	31-3
21	磁器	碗	—	[3.2]	3.6	—	30	良好	白	SK2	瀬戸美濃系 施釉・染付 強く被熱	31-10
22	磁器	碗	(6.5)	5.3	3.0	—	70	良好	白	SK2	瀬戸美濃系 施釉・染付 焼継痕・焼継印 被熱せず	31-9
23	磁器	碗	(6.6)	5.3	(2.9)	—	25	良好	白	SK2	瀬戸美濃系 施釉・染付 外面陰刻状 被熱せず	31-11
24	磁器	猪口	(8.7)	[5.9]	—	—	20	良好	白	SK2/9	肥前系 施釉・染付 強く被熱	33-1
25	磁器	猪口	(8.5)	6.5	(6.1)	—	30	良好	白	SK9	肥前系 施釉・染付 強く被熱	33-1
26	磁器	猪口	(8.5)	6.4	(6.0)	—	25	良好	白	SK2	肥前系 施釉・染付 被熱 同文別個体 5 以上有	33-1
27	磁器	猪口	(8.2)	5.2	(4.0)	—	40	良好	白	SK2/9	肥前系 施釉 (外面青磁釉) 内面染付 強く被熱	31-12
28	磁器	坏	6.0	2.8	2.5	—	10	良好	白	SK2	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付 (青) 被熱せず	32-1
29	磁器	坏	7.0	3.7	2.5	—	75	良好	白	SK9	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱 銅溶着	32-2
30	磁器	坏	(4.0)	[2.8]	—	—	30	良好	白	SK2	肥前系 施釉 口錆 外面色絵 被熱	
31	磁器	皿	(14.8)	(3.5)	(6.4)	—	25	良好	灰白	SK2/9	肥前系 施釉 内面色絵 被熱	33-2
32	磁器	皿	—	[2.8]	(9.3)	—	25	良好	白	SK9	肥前系 施釉 内面染付 強く被熱	
33	磁器	皿	—	[1.8]	(8.6)	—	25	良好	白	SK2	肥前系 施釉 内面染付	
34	磁器	皿	(13.9)	4.7	(8.8)	—	15	良好	白	SK9	SK111 接合 肥前系 施釉 内面染付	
35	磁器	皿	—	[2.4]	(11.8)	—	30	良好	白	SK2	SK188 接合 肥前系 施釉・染付 強く被熱	33-3
36	磁器	皿	(20.0)	2.9	(12.7)	—	25	良好	白	SK2/9	肥前系 施釉・染付 弱く被熱	33-4
37	磁器	皿	(20.6)	3.3	(13.5)	—	40	良好	白	SK2/9	SK7・188 接合 肥前系 施釉・染付 口紅	33-5
38	磁器	皿	—	[2.2]	(18.4)	—	20	良好	白	SK2/9	肥前系 施釉・染付 高台内ハリ支痕 強く被熱 焼継痕	32-3
39	磁器	皿	(19.2)	2.9	(11.0)	—	50	良好	白	SK2	SK111/166 接合 肥前系 施釉 内面染付 被熱	32-3
40	磁器	鉢	(36.4)	[7.2]	—	—	15	良好	灰白	SK2/9	肥前系 施釉・染付 弱く被熱	32-4
41	磁器	皿	(30.7)	4.4	(17.6)	—	20	良好	白	SK2/9	肥前系 施釉・染付 被熱	33-6
42	磁器	皿	(20.2)	3.3	(13.8)	—	20	良好	白	SK2/9	SK151/166/188 接合 肥前系 施釉 内面染付 強く被熱	32-5
43	磁器	鉢	(15.6)	—	(7.1)	—	30	良好	白	SK2/9	肥前系 瑠璃釉 被熱 遺存高下 [2.9] 上 [3.2]	32-6
44	磁器	德利	1.9	[13.4]	—	—	70	良好	白	SK2	肥前系 外面施釉・染付 被熱	33-7
45	磁器	蓋物	—	[4.6]	—	—	40	良好	白	SK2	肥前系 (平戸系) 施釉 (外面鉄釉に具須で彩色) サザエを模す	34-1
46	磁器	瓶類	(4.2)	[3.4]	—	—	5	良好	白	SK9	肥前系 瑠璃釉 外面金彩 被熱 47 の口縁	32-8
47	磁器	瓶類	—	—	(9.4)	—	15	良好	白	SK2/9	SK166 接合 肥前系 施釉 外面全面瑠璃釉・金彩 被熱 遺存高下 [7.8] 上 [12.4]	32-8

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
48	陶器	鉢か	—	[5.5]	—	I	10	良好	褐灰	SK2	萩焼 藁灰釉 49 と同一個体か	33-8
49	陶器	鉢か	—	[1.6]	—	I	—	良好	褐灰	SK9	萩焼 藁灰釉	33-8
50	陶器	灯明皿	7.0	1.9	3.4	I	95	良好	灰白	SK2	瀬戸美濃系 柿釉 内面重焼痕	
51	陶器	皿	—	[3.3]	—	IK	50	良好	灰白	SK2	SD3 接合 型成形 施釉 (黄色) 布圧痕	34-2
52	陶器	鉢	(17.8)	[7.7]	—	HIK	50	良好	灰白	SK2	瀬戸美濃系 灰釉・緑釉・瑠璃釉・白色釉 流掛 弱く被熱	33-9
53	陶器	片口鉢	(8.4)	5.0	4.0	K	55	良好	灰白	SK2	瀬戸美濃系 鉄釉	34-3
54	陶器	蓋物	(15.8)	[2.6]	—	IK	20	良好	灰	SK9	産地不詳 内面施釉 外面施文 被熱	32-7
55	陶器	蓋物	(8.4)	7.1	(5.0)	HIK	30	良好	灰黄	SK2	京都信楽系 内面施釉 外面緑釉 被熱	34-4
56	陶器	蓋	—	[1.5]	(5.4)	K	25	良好	灰白	SK2	上面陰刻状施文・灰釉	34-5
57	陶器	鍋	(8.6)	[4.2]	—	K	25	良好	にぶい橙	SK2	施釉 ミニチュアの可能性あり	
58	陶器	カンテラ	(4.8)	4.0	(3.6)	K	40	良好	灰白	SK2	京都信楽系 施釉	34-6
59	陶器	土瓶	(6.6)	[4.9]	—	I	20	良好	灰オリーブ	SK2	外面施釉 強く被熱	
60	陶器	土瓶	—	[4.9]	—	IK	5	良好	灰	SK9	外面施釉 被熱	34-7
61	陶器	土瓶	(10.0)	(9.4)	(5.8)	H	10	良好	灰白	SK2/9	京都信楽系 外面施釉 底部刻印「火割請合」 被熱 上下接点ない破片から図上復元	35-1
62	陶器	甕	(32.4)	[11.2]	—	HIK	10	良好	灰白	SK2	瀬戸美濃系 柿釉 被熱	
63	陶器	植木鉢	(22.0)	[7.5]	—	IK	20	良好	灰白	SK2	瀬戸美濃系 外面緑釉・ヘラ描文 被熱	
64	陶器	植木鉢	(29.4)	—	(20.4)	K	25	良好	灰白	SK2	瀬戸美濃系 外面緑釉・ヘラ描文 強く被熱 遺存高下 [17.7] 上 [5.5]	
65	陶器	水甕	(34.0)	—	(27.0)	EK	10	良好	灰黄	SK2	瀬戸美濃系 灰釉 外面緑釉流掛 被熱 遺存 高下 [7.0] 上 [11.1]	34-8
66	陶器	鉢	(32.6)	21.8	(18.4)	DI	45	良好	灰白	SK2	瀬戸美濃系 灰釉 外面鉄釉流掛 弱く被熱	34-9
67	瓦質土器	火鉢	(28.8)	[8.9]	—	BCHIK	15	普通	にぶい橙	SK9	外面櫛歯文状 酸化炎焼成済み	
68	土師質土器	器台	(16.8)	[4.9]	(11.5)	A	20	普通	橙	SK2	砂目底	35-3
69	瓦質土器	蓋	—	[2.3]	—	CFIK	45	普通	灰白	SK2	上面シワ状痕 黒化	
70	瓦質土器	焙烙	—	5.0	—	BCEHIK	5	普通	にぶい黄橙	SK9	砂目底	
71	かわらけ	小皿	(10.0)	2.2	(5.4)	AIK	20	普通	にぶい橙	SK9	底部ナデ 体部外面回転ヘラナデ	35-2
72	かわらけ	小皿	(10.0)	[1.8]	—	AHIK	40	良好	にぶい橙	SK2/9	体部外面回転ヘラナデ	35-2
73	かわらけ	小皿	12.0	2.5	6.6	AHIK	70	良好	にぶい橙	SK2	底部離糸切痕 胎土粉質	35-4
74	かわらけ	小皿	(8.4)	1.5	(4.8)	AK	55	良好	にぶい橙	SK2	底部糸切痕 (左) 胎土粉質	35-2
75	磁器	碗	9.2	5.3	3.8	—	95	良好	白	SK3	瀬戸美濃系 施釉・染付	35-5
76	磁器	碗	(7.2)	6.1	3.6	—	60	良好	灰白	SK3	肥前系 施釉 外面染付	
77	磁器	碗	7.2	6.5	3.6	—	80	良好	灰白	SK3	瀬戸美濃系 施釉 外面染付	
78	磁器	碗	11.6	7.1	5.5	—	80	良好	白	SK3	瀬戸美濃系 施釉・染付 同文別個体 1 有	
79	磁器	鉢	12.0	5.3	5.0	—	75	良好	灰白	SK3	肥前系 施釉・染付 高台内露胎	
80	磁器	皿	34.8	7.4	15.8	—	80	良好	白	SK3	肥前系 施釉・染付 焼継痕	35-6
81	磁器	植木鉢	(7.3)	[4.7]	—	—	5	良好	灰白	SK3	瀬戸美濃系 瑠璃釉	
82	磁器	蓋物	(6.0)	[3.7]	—	—	15	良好	白	SK3	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
83	陶器	坏	6.6	3.3	2.6	K	95	良好	灰白	SK3	肥前系 施釉 外面染付	
84	陶器	坏	5.7	4.0	3.0	K	95	良好	灰白	SK3	瀬戸美濃系 灰釉	
85	陶器	坏	5.5	3.2	2.8	K	100	良好	灰白	SK3	瀬戸美濃系 灰釉 内面漆膜状付着物	35-8
86	陶器	坏	6.0	3.5	2.9	K	100	良好	灰白	SK3	瀬戸美濃系 灰釉 内面赤色物質付着	35-9
87	磁器	坏	6.6	3.2	2.5	—	95	良好	白	SK3	肥前系 施釉 外面染付 内面赤色物質付着	35-10
88	陶器	碗	(7.6)	5.4	3.0	I	20	良好	灰白	SK3	萩焼 外面ピラ掛け施釉 高台内渦巻状	35-7
89	陶器	灯明皿	9.9	2.2	4.3	K	90	良好	灰白	SK3	瀬戸美濃系 柿釉 外面重焼痕	36-1
90	陶器	灯明皿	9.6	2.1	4.3	—	100	良好	灰白	SK3	瀬戸美濃系 柿釉 外面重焼痕 底砂状付着物	36-1
91	陶器	灯明皿	9.6	1.7	3.8	IK	95	良好	褐灰	SK3	瀬戸美濃系 柿釉 外面重焼痕	36-1
92	陶器	灯明皿	9.3	1.9	3.9	IK	90	良好	灰白	SK3	瀬戸美濃系 柿釉 外面重焼痕	36-1
93	陶器	灯明皿	9.3	2.1	4.2	IK	80	良好	褐灰	SK3	瀬戸美濃系 柿釉・重焼痕	36-1
94	陶器	灯明皿	7.0	1.6	3.8	IK	75	良好	灰白	SK3	瀬戸美濃系 柿釉 底外面重焼痕	36-2
95	陶器	灯明皿	9.4	1.8	4.6	IK	45	良好	褐灰	SK3	瀬戸美濃系 柿釉・重焼痕	36-1
96	陶器	灯火具	(8.4)	5.1	5.5	K	85	良好	灰白	SK3	京都信楽系 施釉	36-1
97	陶器	灯火具	(8.8)	6.2	5.8	IK	70	良好	灰白	SK3	京都信楽系 施釉	36-1

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
98	陶器	鉢	(19.2)	(9.5)	(7.2)	DIK	15	良好	灰白	SK3	瀬戸美濃系 灰釉 口縁部うのふ釉 内面緑釉・白色釉流掛 下地鉄化粧	
99	陶器	徳利	2.6	20.6	8.2	IK	100	良好	にぶい黄橙	SK3	瀬戸美濃系 外面柿釉 体部窪み2	
100	陶器	水注	(8.4)	11.4	5.5	I	40	良好	灰白	SK3	京都信楽系 外面施釉・鉄絵 墨書	36-3
101	陶器	徳利	—	(12.3)	7.6	DK	70	良好	灰白	SK3	外面施釉・鉄絵 接点無い2片から図上復原	
102	陶器	甕	21.2	18.7	13.2	DK	95	良好	灰白	SK3	瀬戸美濃系 柿釉 鉄釉流掛 内面目跡4	
103	陶器	甕	(68.4)	[40.3]	—	AEIK	20	良好	赤	SK3	常滑 外面鉄泥	
104	陶器	土瓶	7.1	15.8	7.6	IK	90	良好	灰白	SK3	京都信楽系 外面施釉 内面煤付着	
105	陶器	蓋	—	[1.8]	5.6	D	95	良好	灰白	SK3	外面トビガンナ状文・白色釉流掛 穿孔1	36-4
106	陶器	土瓶	8.1	10.3	7.5	I	90	良好	灰白	SK3	外面トビガンナ状文・白色釉流掛・押印文	36-4
107	陶器	土瓶	6.5	9.7	6.6	K	90	良好	灰白	SK3	外面青緑釉	
108	陶器	蓋	—	[2.2]	5.8	D	95	良好	灰	SK3	外面海鼠釉	36-5
109	陶器	灯火具	7.0	7.1	7.3	EIK	100	普通	橙	SK3	透明釉	36-6
110	瓦質土器	火鉢	(18.8)	8.5	(12.4)	CHI	35	普通	黄灰	SK3	底部ヘラナデ 内面剥離激しい 角閃石多量	
111	瓦質土器	火鉢	—	[8.4]	—	DEFH	5	普通	にぶい橙	SK3	口縁外面塗布物(銀色) やや酸化炎焼成	
112	土師質土器	火鉢	(15.6)	7.9	(12.5)	CHIK	40	普通	灰黄	SK3	底部ヘラナデ	
113	土師質土器	焙烙	(34.8)	5.6	(33.6)	CI	55	普通	浅黄橙	SK3	砂目底 煤付着	
114	土師質土器	焙烙	(33.7)	5.6	(35.0)	DEH	30	普通	灰白	SK3	砂目底 煤付着	
115	土師質土器	焙烙	(33.5)	[5.6]	(33.0)	CIK	15	普通	にぶい黄橙	SK3	砂目底 煤付着	
116	土師質土器	焼塩壺	—	[3.1]	(5.2)	AHIK	20	普通	にぶい橙	SK3	板作成形 胎土砂質	
117	土師質土器	乗燭	2.4	1.9	2.0	AK	100	普通	にぶい橙	SK3	底部糸切痕(左)・板状圧痕 胎土粉質	
118	磁器	皿	—	[1.4]	(6.0)	—	5	良好	灰白	SK4	肥前系 施釉 内面色絵(赤)	
119	陶器	香炉	—	[1.9]	3.6	DE	40	良好	灰白	SK4	瀬戸美濃系 外面灰釉 内面墨書「一」	
120	磁器	皿	—	[2.0]	4.8	—	80	良好	白	SK4	肥前系 施釉 外面染付(初期伊万里)	36-7
121	陶器	蓋	—	1.6	6.3	EK	100	良好	灰白	SK4	外面灰釉・一部ウノフ状 つまみ菊花状	36-8
122	陶器	水注	6.5	9.8	6.8	EK	90	良好	灰白	SK4	灰釉・一部ウノフ状 底部窯道具痕	36-8
123	かわらけ	小皿	(5.2)	1.0	3.4	AHI	70	良好	灰白	SK4	底部糸切痕(左) 胎土粉質	
124	磁器	皿	—	[2.4]	(6.0)	—	5	良好	白	SK5	肥前系 施釉 内面染付・色絵(赤)	
125	陶器	蓋	—	[2.6]	—	D	75	良好	灰白	SK5	松岡系 海鼠釉 つまみ菊花状 最大径8.3	36-9
126	土師質土器	焼塩壺	—	[3.5]	(4.9)	ACH	5	普通	にぶい橙	SK5	底部糸切痕 胎土粉質	
127	土師質土器	焙烙	32.2	5.0	32.7	CD	55	普通	灰白	SK5	砂目底 外面煤付着	
128	磁器	碗	6.8	[4.7]	—	—	90	良好	白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 外面染付	
129	磁器	水滴	—	2.5	—	—	50	良好	白	SK6	瀬戸美濃系 外面陽刻状文・施釉・染付	
130	瓦質土器	十能	縦 [16.4] 高 5.4			CDEI	40	普通	灰白	SK6	底部シワ状痕 燻す	
131	磁器	蓋	(10.2)	[1.7]	—	—	35	良好	白	SK7	碗の内面に被熱して付着	37-1
	—	碗	(11.1)	[4.9]	—	—	20	良好	白	SK7	肥前系 施釉・染付 強く被熱	
132	磁器	碗・蓋	(11.0)	[3.8]	—	—	25	良好	白	SK7	肥前系 施釉・染付 強く被熱 蓋と身溶着	37-1
133	磁器	碗・蓋	—	[3.9]	—	—	10	良好	白	SK7	肥前系 施釉・染付 強く被熱 蓋と身溶着	37-1
134	磁器	碗	(8.0)	5.6	(3.1)	—	55	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面染付・色絵(金) 強く被熱 内面に別の碗付着	37-2
135	磁器	碗	(9.9)	[3.5]	—	—	40	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
136	磁器	碗	(11.5)	[4.5]	—	—	25	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
137	磁器	碗	7.7	6.3	3.6	—	60	良好	白	SK7	肥前系 施釉・染付	
138	磁器	坏	(7.2)	[1.7]	—	—	10	良好	白	SK7	瀬戸美濃系 施釉・染付	37-3
139	磁器	碗	(9.2)	4.9	(3.7)	—	45	良好	白	SK7	瀬戸美濃系 施釉 外面染付 焼継痕 被熱	
140	磁器	碗	(15.1)	(7.7)	(6.0)	—	25	良好	白	SK7	肥前系 施釉・染付 被熱 接点無い上下破片から図上復元	
141	磁器	坏	(7.2)	(4.0)	2.5	—	35	良好	白	SK2/7	SK2の同一個体とともに図示 瀬戸美濃系 外面鉄釉 高台内染付 被熱	37-4
142	磁器	坏	(6.2)	3.9	2.4	—	40	良好	灰白	SK7	肥前系 施釉・染付 強く被熱	37-5
143	磁器	坏	(8.0)	[3.0]	—	—	15	良好	白	SK7	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付(青)	
144	磁器	坏	(5.0)	[2.1]	—	—	25	良好	白	SK7	瀬戸美濃系 施釉 内面染付	
145	磁器	坏	6.8	6.3	3.4	—	100	良好	白	SK7	肥前系 施釉 被熱 同形別個体1有	37-6
146	磁器	猪口	(7.3)	[4.6]	—	—	35	良好	白	SK7	肥前系 施釉・染付 強く被熱	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
147	磁器	猪口	—	[4.5]	(5.4)	—	25	良好	灰白	SK7	肥前系 施釉・染付 被熱 同文別個体1以上	
148	磁器	皿	10.6	3.0	5.8	—	45	良好	白	SK7	肥前系 施釉 内面染付 被熱	37-7
149	磁器	皿	(10.6)	2.8	6.1	—	60	良好	白	SK7	肥前系 施釉 内面染付 弱く被熱	
150	磁器	皿	(10.6)	2.9	(5.8)	—	25	良好	白	SK7	肥前系 施釉 内面染付 同文別個体2以上	
151	磁器	皿	(10.6)	2.4	6.4	—	55	良好	白	SK7	肥前系 施釉・染付 強く被熱	
152	磁器	皿	(10.8)	2.3	6.4	—	60	良好	白	SK7	肥前系 施釉・染付 強く被熱し見込に別の皿の痕跡残る 同文別個体1以上有	37-8
153	磁器	皿	10.8	2.5	6.2	—	40	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	37-9
154	磁器	皿	(14.0)	3.6	8.8	—	40	良好	白	SK7	肥前系 施釉・染付 墨書 被熱	76-2
155	磁器	皿	(10.9)	2.4	(6.6)	—	30	良好	白	SK7	肥前系 施釉 口紅 内面陰刻・染付 強く被熱	
156	磁器	皿	(11.0)	2.4	(6.6)	—	15	良好	白	SK7	肥前系 施釉 口紅 内面陰刻・染付 強く被熱	37-10
157	磁器	皿	(19.4)	2.6	(12.8)	—	30	良好	灰白	SK7	肥前系 施釉・染付 強く被熱	38-1
158	磁器	皿	(31.8)	4.6	(19.8)	—	25	良好	白	SK7	肥前系 施釉 内面染付 焼継印(白) 被熱	38-2
159	磁器	鉢	(11.7)	[6.5]	—	—	40	良好	白	SK7	肥前系 施釉 内面染付 被熱	
160	磁器	香炉	—	[6.5]	(4.4)	—	25	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面染付・色絵 強く被熱	37-12
161	磁器	皿	(25.8)	3.4	(14.2)	—	20	良好	灰白	SK7	肥前系 施釉 内面染付 焼継痕・焼継印(赤)	
162	磁器	皿	(31.6)	4.1	(22.0)	—	20	良好	白	SK7	肥前系 施釉 内面染付 被熱	38-3
163	磁器	香炉	(11.8)	[6.3]	—	—	40	良好	灰白	SK7	肥前系 青磁釉 強く被熱	
164	磁器	磁器	(9.3)	—	(7.2)	—	25	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面瑠璃釉(単色) 被熱 遺存高上[2.8]下[2.0]	37-11
165	磁器	香炉	(9.2)	[6.3]	—	—	25	良好	白	SK7	SK289 接合 肥前系 施釉・染付 被熱	38-4
166	磁器	蓋	—	[1.5]	—	—	25	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面染付 被熱 167の蓋か	
167	磁器	蓋物	(5.6)	4.3	3.5	—	35	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面染付 被熱	38-5
168	磁器	水注	(6.4)	—	(5.8)	—	10	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面染付 被熱 遺存高下[4.9]上[2.8]	38-6
169	磁器	蓋	—	[2.3]	(9.2)	—	30	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面染付 被熱 最大径(10.8)	
170	磁器	蓋物	(11.0)	(8.9)	(6.4)	—	40	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱 上下接点無い破片から図上復元	
171	磁器	蓋	—	[1.8]	(5.6)	—	30	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面染付 最大径(7.0)	
172	磁器	蓋物	(6.4)	3.7	(3.1)	—	40	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
173	磁器	合子	(4.2)	1.7	(4.2)	—	30	良好	白	SK7	肥前系 施釉 被熱	
174	磁器	蓋	—	(3.2)	(13.7)	—	25	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面色絵(赤・青・緑他) 強く被熱 最大径(16.0) 上下接点無し	39-1
175	磁器	蓋物	(14.4)	(5.0)	—	—	15	良好	白	SK7	肥前系 施釉 外面色絵(赤・黄・緑他) 強く被熱 上下接点無い破片から図上復元	39-2
176	磁器	根付	幅3.3 器高4.4			—	100	良好	白	SK7	肥前系 型合成形 施釉・染付 外面型押で蜂を表現 強く被熱 穿孔2 煤付着	38-7
177	磁器	根付	幅3.1 器高[3.7]			—	60	良好	白	SK7	肥前系 型合成形 外面施釉 穿孔3	38-8
178	陶器	碗	—	[3.0]	(2.6)	IK	20	良好	にぶい橙	SK7	京都信楽系 施釉 外面鉄絵 強く被熱	
179	陶器	碗	(6.4)	3.8	1.8	—	50	良好	灰白	SK7	京都信楽系 施釉 外面鉄絵 弱く被熱	
180	陶器	蓋	(2.8)	3.2	(9.6)	IK	35	良好	灰	SK7	瀬戸美濃系か 施釉 外面鉄絵 強く被熱	39-3
181	陶器	灯明皿	(7.4)	1.4	(4.1)	K	20	良好	赤灰	SK7	瀬戸美濃系 鉄釉 被熱・黒化	
182	陶器	灯明皿	(10.1)	2.3	4.2	IK	60	良好	灰白	SK7	瀬戸美濃系 鉄釉 内面重焼痕 被熱・黒化	
183	陶器	灯明皿	(10.2)	2.1	(4.2)	K	45	良好	明褐灰	SK7	瀬戸美濃系 鉄釉・重焼痕 被熱・黒化	
184	陶器	鉢か	—	2.6	—	IK	5	普通	にぶい赤褐	SK7	角鉢形 板作成形 施釉 強く被熱 軟質施釉か	39-4
185	陶器	鉢	(11.2)	6.6	(6.2)	E	25	良好	にぶい橙	SK7	備前系 被熱	39-5
186	陶器	香炉	(10.0)	(8.2)	(10.5)	EI	20	良好	灰	SK7	京都信楽系 施釉・貫入有 強く被熱	
187	陶器	香炉か	(10.8)	5.5	—	K	20	良好	灰	SK7	京都信楽系 施釉・貫入有 体部多角形状	39-6
188	陶器	花生か	(10.4)	[4.5]	—	K	15	良好	黒褐	SK7	備前系 被熱・断面黒化	39-7
189	陶器	有耳壺	(10.6)	[10.7]	—	EIK	20	良好	灰白	SK7	瀬戸美濃系 外面鉄釉	
190	陶器	合子	(6.2)	2.5	(6.6)	IK	25	良好	灰白	SK7	京都信楽系 施釉 被熱	
191	陶器	土瓶	—	[2.8]	—	K	10	良好	灰白	SK7	京都信楽系 施釉 外面鉄絵 強く被熱	
192	陶器	土瓶	—	[2.2]	(7.0)	K	—	良好	灰白	SK7	京都信楽系 施釉 強く被熱 191と同一個体	
193	施釉土器	灯火具	(7.4)	[2.3]	—	EIK	45	普通	にぶい黄橙	SK7	透明釉 胎土粉質 被熱・変色	39-8
194	施釉土器	灯明皿	—	[1.6]	3.7	AHI	55	普通	にぶい黄褐	SK7	底部糸切痕 透明釉 被熱・変色	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
195	施釉土器	灯明皿	7.2	1.6	3.3	IK	85	普通	にぶい黄橙	SK7	底部糸切痕 透明釉 胎土粉質 被熱・変色	
196	陶器	播鉢	—	[7.8]	—	DE	5	普通	にぶい黄橙	SK8	丹波系 内面播目	
197	陶器	甕	(70.0)	[13.0]	—	DEGIK	10	良好	にぶい橙	SK8	常滑 内面上位煤付着	
198	磁器	蓋	—	[1.0]	(9.6)	—	10	良好	白	SK10	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱 199の蓋	
199	磁器	蓋物	(10.0)	[2.5]	—	—	5	良好	白	SK10	肥前系 施釉 外面染付 被熱 198の身	
200	磁器	蓮華	—	[2.1]	—	—	20	良好	白	SK10	景德鎮窯系 施釉 内面染付・陽刻状文 被熱	39-9
201	磁器	碗	—	[3.0]	3.6	—	55	良好	白	SK11	肥前系 施釉・染付 焼継痕・焼継印(白)	
202	陶器	灯火具	8.8	4.8	5.5	—	100	良好	白	SK11	京都信楽系 施釉	
203	磁器	皿	22.9	3.4	13.0	—	95	良好	白	SK11	肥前系 施釉 内面染付 高台内ハリ支痕4	39-11
204	陶器	蓋	—	3.2	7.2	D	55	良好	灰白	SK11	外面青緑釉 つまみ菊花状 最大径(9.6)	
205	陶器	土瓶	8.5	12.9	9.4	EK	95	良好	灰白	SK11	外面青緑釉	
206	瓦質土器	火鉢	(28.0)	13.2	20.0	CFHIK	70	普通	にぶい橙	SK11	砂目底 やや酸化炎焼成	39-10
207	瓦質土器	焜炉	(31.0)	[15.2]	—	CEIK	15	普通	灰白	SK11	窓部煤付着	
208	土師質土器	焙烙	(34.4)	[5.5]	(33.2)	CHIK	50	普通	にぶい黄橙	SK11	砂目底 内面煤付着 二次穿孔2 遺存	
209	土師質土器	小壺か	(5.0)	[1.8]	—	AK	15	不良	にぶい橙	SK11	胎土粉質 玩具の可能性あり	
210	陶器	蓋	—	3.1	4.9	EK	95	良好	にぶい黄橙	SK12	外面施釉・三彩絵付 内面刻印「寶山」	
211	磁器	根付	縦5.5 幅3.7			—	60	良好	白	SK12	肥前系 合型成形 施文	40-1
212	施釉土器	灯明皿	7.2	1.6	3.6	IK	75	普通	橙	SK12	透明釉 口縁部一部煤付着	40-2
213	瓦質土器	焙烙	(35.1)	4.4	(32.4)	CIK	20	普通	灰白	SK12	砂目底 内面刻印「岩 [] / 小泉」	40-3
214	土師質土器	甕	(61.3)	[39.0]	—	ADE	50	良好	明赤褐	SK12	真壁系 一部煤付着	
215	磁器	碗	(7.0)	5.2	3.5	—	40	良好	白	SK13	SK198 接合 肥前系 施釉 外面染付(墨弾き)	40-4
216	磁器	坏	(5.9)	(2.7)	2.6	—	70	良好	白	SK13	瀬戸美濃系 施釉・染付 上下接点ない破片から図上復元	
217	陶器	瓶掛	—	[15.9]	(22.4)	I	35	良好	灰白	SK13	SK210 接合 瀬戸美濃系 緑釉 外面施文・底部鉄化粧・重焼痕 内面目跡	
218	磁器	坏	(6.8)	3.3	2.5	—	40	良好	灰白	SK13	京都信楽系 施釉 外面上絵付 胎土磁質	40-5
219	施釉土器	灯明皿	(8.9)	2.1	3.6	DEK	100	普通	橙	SK13	透明釉 口唇部わずかに煤付着	40-6
220	磁器	碗	(8.7)	4.4	3.0	—	70	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	40-10
221	磁器	碗	(8.0)	4.2	(3.2)	—	40	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	40-10
222	磁器	碗	8.7	4.3	3.4	—	80	良好	灰白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	40-11
223	磁器	碗	(9.5)	5.0	(4.1)	—	30	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	
224	磁器	碗	(9.2)	[5.1]	—	—	40	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱・黒化	
225	磁器	碗	9.6	[5.1]	—	—	65	良好	灰白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱 同文別個体1以上有	41-1
226	磁器	碗	9.4	5.1	3.7	—	75	良好	灰白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 被熱	41-1
227	磁器	碗	11.6	5.5	4.1	—	60	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 被熱 同文別個体5有	40-7
228	磁器	碗	11.6	5.7	4.2	—	80	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 被熱	40-7
229	磁器	碗	11.7	6.2	(4.0)	—	60	良好	白	SK16	SK10 接合 肥前系 施釉・染付 強く被熱	40-7
230	磁器	碗	(12.0)	5.9	(3.8)	—	35	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 強く被熱	40-7
231	磁器	碗	11.7	5.8	(4.2)	—	50	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 強く被熱	40-7
232	磁器	碗	7.4	[2.5]	—	—	65	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 被熱	
233	磁器	碗	(7.4)	[2.9]	—	—	5	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面色絵(赤他)	41-2
234	磁器	碗	(8.0)	4.0	2.5	—	50	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 同文別個体1 被熱	41-3
235	磁器	碗	(8.0)	4.3	(3.2)	—	40	良好	灰白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 被熱	41-4
236	磁器	碗	10.2	5.4	3.7	—	65	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 被熱	41-5
237	磁器	碗	9.6	[4.3]	—	—	75	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 被熱	41-6
238	磁器	碗	(15.8)	6.8	(4.8)	—	35	良好	白	SK16	肥前系 施釉 内面染付 被熱	41-7
239	磁器	碗	(8.0)	[5.3]	—	—	50	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 被熱	41-8
240	磁器	碗	(7.8)	6.4	(3.8)	—	25	良好	白	SK16	肥前系 施釉(外面青磁釉) 内面染付 被熱	
241	磁器	碗	(8.0)	6.0	3.8	—	70	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 強く被熱 同文別個体4	40-8
242	磁器	碗	8.0	6.3	3.8	—	80	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 強く被熱	40-8
243	磁器	碗	7.8	6.4	4.1	—	60	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 強く被熱	40-8
244	磁器	碗	(8.0)	6.2	4.0	—	60	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 強く被熱	40-8

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
245	磁器	碗	(7.2)	[5.2]	—	—	45	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 被熱	
246	磁器	碗	(7.9)	[4.5]	—	—	60	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 被熱	41-9
247	磁器	猪口	7.0	5.9	5.0	—	75	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱 同文別個体 3	41-10
248	磁器	猪口	7.4	6.0	4.8	—	70	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 被熱	41-10
249	磁器	猪口	(7.2)	6.1	4.8	—	55	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	41-10
250	磁器	猪口	(7.4)	6.2	(4.8)	—	50	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 被熱	41-10
251	磁器	碗	—	[5.3]	(5.2)	—	40	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	41-11
252	磁器	猪口	7.4	6.0	4.6	—	80	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱 同文別個体 8	41-12
253	磁器	猪口	7.6	5.7	—	—	70	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	41-12
254	磁器	猪口	7.6	5.9	5.0	—	60	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	41-12
255	磁器	猪口	7.3	5.7	(4.7)	—	60	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	41-12
256	磁器	猪口	(7.4)	6.0	(4.6)	—	45	良好	灰白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	41-12
257	磁器	猪口	(7.6)	6.0	(4.6)	—	40	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	41-12
258	磁器	猪口	(7.5)	6.0	(4.7)	—	35	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	41-12
259	磁器	猪口	(7.3)	[4.5]	—	—	45	良好	灰白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	41-12
260	磁器	猪口	—	[4.1]	(4.8)	—	45	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	41-12
261	磁器	皿	10.2	2.0	5.6	—	55	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 強く被熱	42-1
262	磁器	皿	(10.2)	2.1	5.8	—	55	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 被熱	42-1
263	磁器	皿	(10.2)	2.2	5.7	—	45	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 被熱 同文別個体 5 有	42-1
264	磁器	皿	10.2	2.0	6.5	—	80	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 強く被熱	42-2
265	磁器	皿	(10.2)	2.0	(6.4)	—	45	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 強く被熱 漆継痕	42-2
266	磁器	皿	13.2	3.6	7.6	—	80	良好	白	SK16	SK64 接合 肥前系 施釉・染付 強く被熱	41-13
267	磁器	皿	13.8	4.1	7.6	—	70	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 強く被熱	42-3
268	磁器	皿	13.6	4.2	8.0	—	65	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 被熱 同文別個体 4 以上	42-3
269	磁器	皿	14.1	4.1	7.9	—	80	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 強く被熱	42-3
270	磁器	皿	12.6	3.8	7.7	—	80	良好	灰白	SK16	SK161 接合 肥前系 施釉・染付 強く被熱	42-4
271	磁器	皿	12.4	3.8	7.5	—	75	良好	白	SK16	SK161 接合 肥前系 施釉・染付 強く被熱 同文別個体 3 有	42-4
272	磁器	皿	(12.8)	3.7	7.5	—	60	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 強く被熱	42-4
273	磁器	皿	(13.4)	3.5	7.3	—	80	良好	白	SK16	SK161 接合 肥前系 施釉・染付 強く被熱	42-4
274	磁器	皿	13.6	3.9	7.7	—	70	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 被熱	42-4
275	磁器	皿	—	2.1	5.0	—	90	良好	白	SK16	肥前系 施釉 内面染付 被熱 最大径 (9.6)	42-5
276	磁器	皿	9.2	2.1	4.7	—	75	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 被熱 同文別個体 5 以上	42-5
277	磁器	皿	—	2.3	4.8	—	60	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 被熱 最大径 (9.6)	42-5
278	磁器	皿	—	2.1	4.7	—	45	良好	白	SK16	SK10 接合 肥前系 施釉 内面染付 被熱 同文別個体 3 以上有	42-5
279	磁器	皿	(9.8)	2.2	(4.8)	—	35	良好	白	SK16	肥前系 施釉・染付 被熱	42-5
280	磁器	皿	(20.9)	3.0	(12.8)	—	45	良好	白	SK16	SK161 接合 肥前系 施釉・染付 強く被熱	42-6
281	磁器	皿	(25.8)	4.7	(15.6)	—	70	良好	白	SK16	SK161 接合 肥前系 施釉・染付 被熱	42-7
282	磁器	蓋	—	[2.2]	(8.3)	—	30	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 被熱・煤付着 最大径 (9.2)	
283	磁器	蓋物	(8.6)	[4.6]	—	—	50	良好	灰白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 被熱・煤付着	
284	磁器	蓋物	(6.8)	(7.4)	(4.0)	—	35	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 被熱 上下接点ない 破片から図上復元	
285	磁器	香炉	(14.4)	(6.5)	(5.8)	—	20	良好	灰白	SK16	SK64 に同一個体 肥前系 外面青磁釉 被熱 上下接点ない破片から図上復元	
286	磁器	德利	—	[7.3]	5.7	—	75	良好	白	SK16	肥前系 外面施釉・染付 被熱 同文別個体 1	
287	磁器	德利	—	[22.4]	(8.8)	—	50	良好	白	SK16	肥前系 外面施釉・染付 被熱	42-8
288	磁器	仏飯器	6.5	6.2	(3.8)	—	85	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面染付 被熱	42-9
289	陶器	碗	10.0	6.7	4.0	K	70	良好	にぶい黄橙	SK16	肥前系 灰釉 (呉器手)	43-1
290	陶器	灯明皿	—	[2.1]	4.8	IK	40	良好	灰	SK16	瀬戸美濃系 柿釉・重焼痕 被熱・黒化	
291	陶器	皿	—	[2.8]	(14.0)	IK	15	良好	灰白	SK16	瀬戸美濃系 灰釉 内面目跡 2 遺存 被熱	
292	陶器	鉢	22.0	5.7	10.1	EK	75	良好	灰白	SK16	瀬戸美濃系 灰釉 内面目跡 4 遺存 被熱	43-2
293	陶器	鉢	—	[7.2]	—	AIK	5	良好	灰白	SK16	瀬戸美濃系 灰釉 窯内付着物 口縁歪ます	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
294	陶器	片口鉢	(16.6)	8.8	(8.0)	EIK	30	良好	灰白	SK16	瀬戸美濃系 灰釉 内面目跡 被熱	
295	陶器	鉢	(20.8)	6.0	(8.2)	GI	40	良好	灰	SK16	SK161 接合 瀬戸美濃系 灰釉 強く被熱	43-3
296	陶器	こね鉢	(20.2)	[10.1]	—	IK	20	良好	灰白	SK16	SK64 接合 瀬戸美濃系 灰釉 強く被熱	
297	陶器	こね鉢	(26.0)	[8.6]	—	HIK	15	良好	灰	SK16	SK64 接合 瀬戸美濃系 灰釉 被熱	
298	陶器	こね鉢	30.1	15.8	15.8	IK	80	良好	灰白	SK16	瀬戸美濃系 灰釉・緑釉流掛 被熱	43-4
299	陶器	不明	—	[5.1]	(19.2)	EIK	35	良好	灰白	SK16	瀬戸美濃系 灰釉 内面目跡 被熱	43-5
300	陶器	甕	(12.0)	[6.1]	—	IK	15	良好	灰白	SK16	瀬戸美濃系 灰釉	43-6
301	陶器	甕	(24.2)	[17.2]	—	K	40	良好	黄灰	SK16	SK64 接合 瀬戸美濃系 灰釉 外面緑釉流掛 強く被熱・赤化	
302	陶器	火鉢	(13.5)	9.5	11.0	DH	45	良好	灰白	SK16	瀬戸美濃系 鉄釉 強く被熱	43-7
303	陶器	播鉢	25.2	8.0	9.0	IK	80	良好	褐灰	SK16	瀬戸美濃系 施釉 内面播目 被熱	43-8
304	陶器	鍋	(19.8)	12.0	(8.0)	IK	35	良好	灰	SK16	柿釉 内面目跡 被熱	
305	陶器	灯火具	(7.2)	[3.8]	(6.0)	IK	50	良好	灰白	SK16	瀬戸美濃系 灰釉・口唇部拭き取り	
306	陶器	乗燭	—	[3.2]	—	IK	30	良好	灰白	SK16	瀬戸美濃系か 鉄釉 胎土炆器質	
307	陶器	徳利	2.2	(15.8)	6.7	IK	50	良好	灰白	SK16	瀬戸美濃系 外面鉄釉 被熱 上下接点ない 破片から図上復元	
308	瓦質土器	火消壺	(17.4)	24.5	(17.2)	CIK	45	普通	灰白	SK16	外面ケズリ後ミガキ 燻す 全体被熱し歪む	43-9
309	瓦質土器	焙烙	(36.9)	5.4	(34.6)	CHIK	35	良好	にぶい黄橙	SK16	底部シワ状痕 被熱	43-10
310	瓦質土器	焙烙	(34.8)	4.9	(32.8)	AHIK	15	普通	にぶい黄橙	SK16	底部シワ状痕 二次穿孔計4 被熱・赤変	43-11
311	土師質土器	焙烙	(31.2)	[4.2]	(31.6)	AIK	15	普通	灰黄褐	SK16	砂目底 被熱・黒化	
312	かわらけ	小皿	(9.1)	1.6	5.4	CEHIK	50	普通	灰白	SK16	底部糸切痕(左) 胎土砂質	43-12
313	土師質土器	焼塩壺か	—	[1.7]	(4.0)	AHIK	25	普通	灰黄	SK16	底部糸切痕 被熱・黒化	
314	瓦質土器	瓦燈	(15.8)	4.3	(17.0)	AIK	30	普通	灰	SK16	砂目底 外面ミガキ 内面煤付着	43-14
315	磁器	香炉	—	[3.8]	6.1	I	60	良好	灰白	SK18	肥前系 外面青磁釉	
316	磁器	香炉	—	[1.6]	5.2	—	90	良好	灰白	SK18	肥前系 外面青磁釉	
317	陶器	碗	(9.0)	5.7	(3.9)	—	30	良好	灰白	SK18	京都信楽系 施釉 被熱・煤付着	
318	陶器	灯火具	—	[7.2]	9.2	EIK	80	良好	褐灰	SK18	鉄釉 底部糸切痕・煤多量に付着	44-1
319	陶器	播鉢	—	[7.4]	—	DE	5	良好	赤橙	SK18	堺明石系か 内面播目 被熱	
320	陶器	播鉢	—	[4.2]	—	DE	5	良好	にぶい橙	SK18	堺明石系 砂目底・外周ケズリ 内面播目 被熱	
321	陶器	播鉢	—	[4.0]	—	E	5	良好	にぶい赤褐	SK18	堺明石系 砂目底・外周ケズリ 内面播目	
322	陶器	甕	—	[4.5]	—	EHIK	5	良好	灰黄	SK18	鉄化粧・施文 施釉 把手欠失	
323	陶器	甕	—	[4.5]	—	EHIK	5	良好	灰黄	SK18	鉄化粧・施文 施釉 把手欠失	
324	陶器	播鉢	—	[7.1]	—	E	5	良好	赤	SK18	堺明石系か 内面播目 被熱	
325	かわらけ	小皿	(12.2)	2.2	6.2	AHIK	40	普通	にぶい橙	SK18	底部糸切痕(左) 被熱・口縁黒化 胎土粉質	
326	磁器	碗	9.7	5.1	(4.0)	—	95	良好	白	SK23	肥前系 施釉 外面染付	
327	陶器	皿	(20.4)	[1.7]	—	IK	10	良好	灰白	SK23	施釉 軟質	
328	瓦質土器	甕	—	[14.8]	31.0	CDEFH	55	普通	にぶい黄橙	SK23	底部シワ状痕 やや酸化炎焼成	
329	磁器	碗	(9.4)	[3.3]	—	—	5	良好	白	SK25	肥前系 施釉・染付 外面色絵 被熱	
330	磁器	段重	—	[2.3]	—	—	5	良好	白	SK25	肥前系 施釉 外面染付・色絵 被熱	44-2
331	磁器	碗	7.6	4.9	(3.0)	—	85	良好	白	SK25	肥前系 施釉・染付 被熱 同文別個体3有	
332	磁器	碗	(11.6)	[4.1]	—	—	25	良好	白	SK25	肥前系 施釉・染付 強く被熱	
333	磁器	碗	(9.6)	[3.0]	—	—	25	良好	白	SK25	肥前系 施釉・染付 焼継痕 強く被熱	
334	磁器	碗	(10.5)	[4.4]	—	—	20	良好	白	SK25	瀬戸美濃系 施釉・染付 強く被熱	
335	磁器	皿	—	[2.0]	(8.4)	—	15	良好	白	SK25	肥前系 施釉 内面染付 焼継痕(赤) 弱く被熱	44-3
336	磁器	皿	(10.5)	2.5	(5.9)	—	15	良好	白	SK25	肥前系 施釉 内面染付 被熱 同文破片複数	
337	磁器	蓋	(4.3)	3.4	10.0	—	100	良好	白	SK25	肥前系 施釉・染付 被熱・煤付着	
338	磁器	皿	—	[2.9]	8.6	—	45	良好	白	SK25	肥前系 施釉・染付 高台内墨痕 同文破片複数	
339	磁器	皿	(14.5)	4.0	(9.2)	—	15	良好	白	SK25	肥前系 施釉・染付 弱く被熱	
340	磁器	皿	—	[2.5]	(9.6)	—	40	良好	白	SK25	肥前系 施釉・染付 焼継印 強く被熱	
341	磁器	皿	22.4	3.3	13.2	—	95	良好	白	SK25	肥前系 施釉・染付 高台内ハリ支痕4	44-4
342	磁器	皿	21.8	2.9	12.0	—	80	良好	灰白	SK25	肥前系 施釉・染付 ハリ支痕4 強く被熱	44-5

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
343	磁器	皿	—	[3.9]	(15.7)	—	45	良好	白	SK25	肥前系 施釉 内面染付 ハリ支痕 強く被熱	44-6
344	磁器	皿	(21.9)	3.5	(13.0)	—	35	良好	白	SK25	肥前系 施釉 内面染付 強く被熱	44-7
345	磁器	皿	(22.9)	3.2	(13.8)	—	40	良好	白	SK25	肥前系 施釉・染付 強く被熱	
346	磁器	鉢	(20.8)	(12.1)	(11.2)	—	45	良好	白	SK25	肥前系 施釉・染付 強く被熱 焼継痕 上下 接点無い破片から図上復元	44-8
347	磁器	鉢	(15.9)	[5.7]	—	—	25	良好	白	SK25	肥前系 施釉・染付 口紅 被熱	
348	磁器	鉢	(13.4)	[4.2]	—	—	10	良好	白	SK25	肥前系 施釉・染付 被熱	
349	磁器	蓋	—	[1.8]	(8.9)	—	25	良好	白	SK25	肥前系 施釉 外面染付 最大径 (10.3) 強 く被熱	
350	磁器	蓋	—	[2.0]	(8.3)	—	45	良好	白	SK25	肥前系 施釉 外面染付 最大径 (9.4) 強 く被熱	
351	磁器	蓋	—	[2.9]	(3.6)	—	5	良好	白	SK25	肥前系 施釉 外面染付・色絵 (赤・黄) 被熱	44-9
352	磁器	蓋	—	[3.0]	(14.3)	—	15	良好	白	SK25	肥前系 施釉 外面染付・色絵 最大径 (16.0)	44-10
353	磁器	蓋	—	[3.2]	(13.4)	—	40	良好	白	SK25	肥前系 施釉 外面染付 被熱 最大径 (15.7)	44-11
354	磁器	蓋物	(14.4)	[4.5]	—	—	30	良好	白	SK25	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
355	磁器	合子	(7.0)	2.4	(4.8)	—	40	良好	白	SK25	肥前系 施釉 外面染付 外面一部赤色物質 附着 被熱	
356	磁器	灰落しか	(4.7)	[3.8]	—	—	30	良好	白	SK25	肥前系 施釉 外面染付 強く被熱	
357	磁器	香炉	(9.1)	[6.2]	—	—	35	良好	灰白	SK25	肥前系 青磁釉 強く被熱 一部発泡	
358	磁器	香炉	(11.6)	5.7	4.2	—	30	良好	白	SK25	肥前系 外面青磁釉 被熱	
359	磁器	香炉	—	(5.9)	(9.0)	—	10	良好	白	SK25	肥前系 外面施釉 (瑠璃釉単色) 被熱 上下 接点無い破片から図上復元	44-12
360	磁器	水注	(8.2)	(5.3)	—	—	20	良好	白	SK25	肥前 (平戸) 系 外面施釉・鉄釉・施文 被 熱 上下接点無い破片から図上復元	44-13
361	磁器	油壺	—	[4.3]	(6.2)	—	30	良好	白	SK25	肥前系 外面施釉・色絵 被熱	45-1
362	磁器	壺	(8.4)	[3.8]	—	—	10	良好	白	SK25	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
363	磁器	盃台	(4.4)	[1.7]	—	—	40	良好	白	SK25	肥前系 施釉 外面染付	45-2
364	磁器	水滴	—	[2.8]	—	—	10	良好	白	SK25	肥前系 外面施釉・染付・鉄釉掛分・施文 被熱	45-3
365	磁器	水滴	—	[3.7]	—	—	—	良好	白	SK25	肥前系 外面施釉・陽刻状施文 把手状	45-3
366	磁器	水滴	—	—	—	—	—	良好	白	SK25	肥前系 外面施釉・陽刻状施文 遺存高上 [2.6] 下 [1.3] 365 と同一個体	45-3
367	陶器	碗	(9.6)	4.8	3.2	K	30	良好	灰白	SK25	京都信楽系 施釉 外面鉄絵 被熱	
368	陶器	碗	(8.2)	[4.9]	—	IK	20	良好	灰白	SK25	京都信楽系 施釉 強く被熱	
369	陶器	碗	(13.2)	[3.8]	—	I	35	良好	灰	SK25	萩焼 藁灰釉・鉄釉流掛 被熱	
370	陶器	碗か	—	[2.2]	—	IK	5	良好	灰	SK25	萩焼 藁灰釉 内面鉄釉流掛 被熱	
371	陶器	皿	—	[1.5]	—	HIK	5	良好	にぶい黄橙	SK25	施釉土器質 施釉 外面しのぎ状文陰刻 被 熱・変色	45-4
372	陶器	蓋物	(8.8)	5.3	6.4	I	75	良好	灰黄	SK25	京都信楽系か 外面灰釉 内面重焼痕 被熱	
373	陶器	水注	—	[2.5]	(6.6)	HIK	25	良好	灰	SK25	京都信楽系か 外面施釉	
374	陶器	火鉢	(16.2)	[12.0]	—	G	35	良好	灰白	SK25	瀬戸美濃系 灰釉・内面釉拭き取り 外面緑 釉流掛・呉須絵 被熱	
375	陶器	蓋	—	[1.8]	(12.6)	IK	15	良好	灰黄褐	SK25	瀬戸美濃系か 外面鉄釉 被熱	
376	陶器	蓋	(7.5)	[1.9]	—	—	35	良好	灰黄	SK25	外面灰釉 被熱 最大径 (10.2)	
377	陶器	土瓶	—	[1.4]	—	HIK	10	良好	灰黄	SK25	外面鉄釉 強く被熱 378, 379 と同一個体	
378	陶器	土瓶	—	[4.8]	—	HIK	—	良好	灰黄	SK25	外面鉄釉・イッチン絵付 強く被熱	
379	陶器	土瓶	—	[4.7]	—	HIK	—	良好	灰黄	SK25	外面鉄釉・イッチン絵付 強く被熱	
380	陶器	土瓶	(5.6)	[9.6]	—	IK	50	普通	灰白	SK25	外面施釉・緑釉流掛か (赤変) 強く被熱	45-5
381	瓦質土器	火鉢	(30.0)	[3.5]	—	EGIK	10	普通	灰白	SK25	外面胡粉状の塗布物・ミガキ	45-6
382	かわらけ	小皿	8.2	2.5	4.2	AHIK	100	普通	にぶい橙	SK25	底部糸切痕 (左) 被熱して激しく歪む	45-7
383	瓦質土器	蓋か	—	2.7	(13.1)	CI	50	普通	褐灰	SK25	砂目底 短径 9.1 × 復元長 (13.4)	45-8
384	磁器	坏	(8.1)	4.0	3.0	—	60	良好	灰白	SK26	SK92 接合 肥前系 施釉・色絵 (赤・茶)	
385	磁器	碗	(9.8)	[6.0]	—	—	30	良好	白	SK26	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
386	陶器	水注	—	[8.3]	(6.6)	IK	15	良好	灰白	SK26	SK30 接合 京都信楽系 施釉 外面鉄絵 被熱	
387	陶器	水甕	32.0	23.8	(17.8)	EIK	80	良好	灰白	SK26	SK32/144 接合 瀬戸美濃系 灰釉 外面施 文・緑釉流掛 内面目跡 被熱	